

第十六項 規程第二十九條ニ於テ他へ賣買讓與シタル旨本規程ニ據ラシムルノ廉不相見如何心得可然哉

本規程ニ據ルヘキモノトス

第十七項 公賣物件小額ノ爲メニ又ハ納金不便ノ爲ニ又ハ買主ノ速定ヲ要スル整理等ノ爲メニハ特約ヲ以テ公賣ノ即時代金全納ノ處分ハ不苦哉

開屆ケ難シ但買主ノ辨理ニ出ルモノハ本規程第十五項ニ據リ了解スベシ

第十八項 公賣物件ノ亡失毀損セシ場合ニ於テ公賣ヲ取消スト其代價ヲ減却シテ取消サ、ルトハ賣買セシ官民間双方ノ協議ニ據リ處分シ可然哉

代價減却ノ議ハ開屆ケ難シ

第十九項 本規程第四號ノ領收證ヲ徵スル場合ニ當リ一面ニ於テハ林產物品規程ニ據リ拂出命令ニ屬スル領收證ヲモ徵スル義ニテ一廉ノ公賣物件ニ對シ重複ト可相成場合モ有之右ハ拂出命令ニ屬スル一方ヲ以テシ可然哉

伺ノ通

第二十項 削除

第二十一項 本規程中契約更正ニ係ル條項ハ第二十二條ヲ除クノ外別ニ不見相候得共代金ノ拂込物件ノ引渡受等無餘儀事情ヲ以テ延期出願スル場合ニ於テハ其事情ニ依リ許可ノ上前契約ノ幾分更正候儀ハ不苦候哉

伺ノ通

明治二十三年十月二十四日一類第一九九號伺

同年十二月五日林第九二三八號指令

第一項 前項第十項ニ對スル御指令ニ普通官物拂下代現金領收證ト同一ノモノヲ交付スベシトアリ普通官物拂下代現金領收證ニハ款項目ヲモ掲ケ收入官吏ヨリ發付スルモノニ付該物件ノ官有ニアラサルニモ不拘其公賣代金ニ至テハ一旦官ノ歲入トシテ成規ニ據リ收入取計候義ニ有之候歟

前段之通リトセハ公賣規程第二十二條乃至第二十四條之借地料賠償金及差押公賣其他ノ諸入費ハ前段歲入ヲ以テ夫々科目變更之取扱ヲナスヘキモノニ候哉

差押物件公賣代金ハ處分施行ノ官吏之ヲ取立適宜ノ領收證書ヲ交付シ而シテ第一ニ差押公賣其他ノ諸費辨償額第二ニ前回ノ公賣物件ニ關スル借地料第三ニ前回買受人ニ還付スヘキ殘金トニ分割シ第一第二ハ收入官吏ニ引渡シ第三ハ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

收入官吏前項ノ金額ヲ領收シタルトキハ處分執行ノ官吏ニ領收證書ヲ交付シ而シテ現金ハ歲入金拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二項 前項ノ通リニ無之モノトセハ該公賣代金ハ如何ナル手續ニ依リ收入可致哉

又右代金ヲ以テ賠償金借地料差押公賣其他ノ諸入費ノ收入トナスニハ如何ナル手續ヲ以テ可然哉其手續夫々御示相成度候

第一項ヘノ指令ニテ了解スヘシ

第三項 前項第十一項ニ對スル御指令ニ諸入費トハ公賣ニ係ル總テノ費用ヲ云フ義ニシテ云々トアリ

右諸入費トハ概ネ左ノ如キモノニシテ其差押公賣等ニ係ル用紙代及旅費ノ如キハ右諸入費中へ差加ヘズ候テ可然哉

一 差押ノ節實地ニ於テ人夫使役ノ必要アツテ雇使シタル時ハ其傭入料

(第七項注意)
廿四年四月十日
日林第九〇
三號山林局長
區署長及派出
所首長ニ委任
スル場合ハ大
林區署長ノ指
揮ナキ場合ニ
限リタル旨通
知セリ

- 二 官報新聞紙ヲ以テ公賣ヲ公告シタルトキハ其公告料
 - 三 揭示シテ公賣ヲ公告シタルトキハ其揭示書貼付ニ要スル備人料
 - 四 入札スヘキ場所用家屋借入ノ必要アリ借入タルトキハ其家屋ノ借料
- 用紙代ノ内公賣公告揭示類ノ紙代並揭示等ノ爲筆耕料ヲ要シタル場合ハ其料金ハ該諸入費中へ算入スヘク其他ハ伺ノ通
- 第四項 前項一乃至四ノ料金ヲ徴收スルニ當リ歳入科目中適當ノモノ無之右ハ如何可致哉
 - 第五項 公賣規程第廿三條同第廿四條ノ公賣代金若シ同條ノ借地料又ハ賠償金ニ足ラザル時ハ先右代金ノミヲ以テ料金又ハ賠償金ノ内納ト見做シ收入取計可然哉
 - 第六項 前項同第十一項ニ對スル御指令ニ略之カ支拂ハ普通支拂ノ手續ニ據ルベシトアリ然ルトキハ當署ノ經費中ヨリ支拂可然哉
 - 若シ當署經費中ヨリ支拂フベキモノニ無之モノトセバ其支拂ノ手續夫々御示相成度候
 - 前段伺ノ通
 - 第七項 規程第十六條其他同規程中署所トアルハ小林區署派出所等ヲ指ス義ニ可有之然ルトキハ規程第二十二條ノ延期請求及同第二十九條ノ届出等ヲ認可スル如キハ小林區署派出所ニ於テスルノ精神ナル哉
 - 小林區署派出所へハ請求書ヲ出サシメ許否ノ權限ハ大林區署長ニ屬スルハ勿論ナルモ處分上ノ便宜該署長該所上席者ニ委任スルモ妨ナシ
 - 第八項 規程第二十條入札保證金ヲ還付セサル場合ニ於テハ更ニ收入官吏ノ領收證書ヲ付與シ

當初渡シ置タル預リ證ヲ引揚ル等尋常ノ手續ヲ以テスル精神ナル哉

收入官吏ノ領收證書ト入札保證金預リ證書ト引換ルニ及ハス

第九項 公賣ニ據リ林產物買受人搬出期限後尙ホ搬出未済ノ物件有之モ正當延期ノ手續ヲ爲サズ之ヲ糺ストキハ期限迄ニテ最早所有權ヲ棄却セシト云フモノ無キニアラザルハ從來ノ情況ニ照シテ明ナリ此場合ニ於テハ其滿期ノ翌日ヨリ所有權棄却ノ請書差出ス前日迄ハ規程第二十三條初項ノ借地料ヲ徴スル道理ヲ生スルモノ、如シト雖トモ所有權ヲ棄却セシ程ノモノナレハ借地料ヲ徴收スルノ難キ終ニハ些細ノ借地料ニ關シ民訴ヲ提出スルノ煩ニ至ラン事ヲ恐ル右ハ規程ニ明條ナキ事ニ付借地料ヲ徴收セサル目的ヲ以取扱申度候

伺ノ通

○石灰石賣却方ノ件

明治二十三年五月二十四日

乙第一七九號福岡大林區署照會

當署所管筑前國穂波郡内野村大字内野人民今住儀三次同郡上穂波村大字阿惠字横山官林内含有ノ石灰石若干明治二十年三月ヨリ三ヶ年期ヲ以テ公賣拂下相成候末今般滿期ニ付更ニ特賣出願致候取調候處右官林產出ノ石灰ハ結晶力弱クシテ見付惡シケレハ賣却ケ方鈍ク依テ夏氣ノ候近傍農民ニ後金ニテ賣渡シ其年ノ秋收穫ヲ埃テ代金ヲ受領シ來タルニ客年夏氣後近來未會有ノ霖雨爲メニ米穀凶憊隨テ農民非常ノ困難ヲ極メ其影響ヲ蒙リ賣渡石灰代金ハ概ネ淹滞ト相成且賣餘セシ石灰モ悉ク雨水ニ浸シ其効驗ヲ失ヒ旁以テ大ナル損害ヲ受ケ殆ント財產滅亡ノ場合ニ陥リ其損害ノ幾分ヲ補充スルニハ猶營業ヲ繼續シ淹滞金ヲ取立ルノ外他ニ需ムヘキ良策ナシ然ルニ原料拂下ハ年期明ニ際シ碯ト難澁之趣ヲ以テ本年度ニ代價貳百八十餘圓ノ石灰石特賣ヲ出願候義ニ有之候右ハ業ニ既ニ三ヶ年繼續營業者ニシテ一時ノ拂下トハ異リ候得共本年勅令第六十九號官有森林原野及

產物特別處分規則第一條第六項ノ範圍ヲ以テ特別御許可相成モノカ將タ其事情如何ニ係ハラス藝ノ拂下ハ公賣ニ付シタルモノニ付猶公賣ノ外御許可難相成モノニ候哉抑モ石灰石又ハ石工職ノ用ニ供スル石材ノ如キハ當所管内其產出ノ箇所限リアルモノニ候得ハ石灰燒營業石工職等ハ何レモ他村所在ノ官林ニ含有セル原料ヲ特ニ拂下ヲ受ケ營業ナシ來リタルモノ多々有之最早數年ノ慣行ト相成居候然レトモ本年度ヨリハ單ニ地主人民ニシテ特賣ノ慣行アルモノト局限セラレタル義ニ候哉上記今住儀三次ニ止マラス他ニ關係モ有之聊疑義相生シ候

(山林局長) 回答 明治二十三年六月三日
林第四八七四號
後段御問合ノ通ニテ可然

追テ御書面後段中本年度ヨリト有之ハ本年第六十九號到達期限ノ日ヨリハ又該日ヨリ以前ニ許可シアリテ其許可期限内ニ係ルハ右勅令ニ依ルノ限リニ無之ト御承知相成度且又地主トアルハ地元ノ誤ト認メ候條此段爲念申添候

○官林產物公賣取消若クハ賣買契約解除ニ係ル物件處分方ノ

件 明治二十四年一月二十一日
業第七六號岩手大林區署伺

第一 競争入札ニ付シタル物件豫定價額ニ達セス即時再入札セシムルモ仍ホ豫定價額ニ達セサル場合ハ林產物公賣規程第十條再入札ノ望人ナキモノニ準シ取消ス可キ筋ニ可有之哉果シテ然ラハ右取消タル物件ハ他日年度内ニ於テ時機ヲ見計ヒ望人アル可シト思惟スル時ハ更ニ幾回公賣ニ付スルモ差支サル義ト相心得可然哉又ハ一物件ハ必ス再入札ニ止ムヘキ義ニ候哉
第二 公特賣孰レニ付スルモ到底豫定價額以上ヲ以テ拂下望人ナキ時ハ豫定價額ヲ不當ト見做サ

サルヲ得ス此ノ場合ニハ豫定價額ヲ相當ニ引直シ更ニ公賣ニ付スルモ差支無之候哉
第三 一旦落札人定リ契約保證金ヲ徵收シタル後代金ヲ拂込マサル時ハ公賣規程第二十一條ニ據リ保證金ヲ還付セス締結ノ契約解除スヘキハ無論ニ候得共此場合ニ於テ該物件ハ更ニ公賣ニ付スヘキ義ニ候哉

第四 前項契約解除ノ場合若シ豫定價額以上ヲ以テ特賣望人アル時ハ一旦落札ノ價額ニ關セス豫定價額以上ニ於テ落札ノ價額ヲ參酌シ相當ト視認スル價額ヲ以テ拂下可然哉
(山林局長) 指令 明治二十四年二月五日
林第八一九號

處分方左之通り心得ヘシ

- 第一 前段伺之通
- 第二 伺之通
- 第三 伺之通
- 第四 事實ニ付伺出ヘシ

○公賣物件搬出延期ニ係ル借地料金算出ノ件

區署
問合

公賣物件搬出延期ニ係ル借地料金算出方ノ義ハ規定第廿二條第一落札代金百圓以上ノモノハ一日ニ付其千分ノ一ト有之右ハ一日ニ對スル算出ノ割合ヲ示サレタルモノニ付借地日數ノ數十日ニ涉ルトキハ代價金額ヲ千分シタル割合數ヲ其儘動かサスシテ之ニ借地ノ日數ヲ乘シ其得タル金額ニ於テ四捨五入徵收シ可然カ將タ一日ニ付千分ノ一トアル以上ハ最初ニ其一日當リノ金額ヲ毛位ニ

於テ四拾五入シテ確定シ之ニ借地日數ヲ乘シ得タル金額ヲ徵收ス可キ歟
(出林局長)電信指令明治廿五年六月廿七日
前段御見解ノ通り

○林產物公賣入札書脫印ノ件

明治二十五年十一月三十日

林產物公賣ノ場合無効ト爲スヘキ入札書ハ公賣規程第八條ヲ以テ御指示相成居候處入札書氏名ノ下ヘ押印洩レノ分ハ入札書ノ領要不明ノモノトシテ無効ノ取扱ヲ爲シ可然哉
(山林局長)回答明治二十五年十二月十六日
右脫印ノ義ハ御申越ノ如ク規程第八條一項ニ抵觸スルモノト視認メ難ク候得共本人ノ入札ト認メ難キモノハ無効ノ取扱ニ相成可然存候

○公賣拂下物件取扱ニ關シ疑義ノ件

明治二十六年六月十四日

一 公賣ニ於テ某甲某ニ落札シ已ニ代金モ上約致物件引渡モ相濟候後某甲某乙某ト連署乙某ハ物件讓渡之旨届出候ニ付開届ケ置候處丙某抽夫ヲ率ヒテ右物件伐採ニ着手致シ乙某ハ之ヲ防禦スル能ハス小林區署ニ訴ヘ出候ニ付小林區署員臨場丙某ハ説諭致候處丙某其場ニ於テ伐採見合之義承諾致候ヘ共署員去レハ再ヒ伐採ニ着手致シ又説諭スレハ陽ニ承諾致候モ署員去レハ又伐採ニ着手致シ再三同様ノ有様ニ有之候如斯場合ニハ官林盜伐トシテ丙某ヲ告訴致スヘキ義ニ候哉或ハ又該物件之所有權ハ已ニ乙某ニ有ルヲ以テ小林區署ニ於テハ官林盜伐之告訴ヲナサルモ不都合無之義ニ候哉

二 前項之行掛リ段々取調候處某甲某へ讓與スル前ニ於テ丙某へ讓與之契約ヲナシ已ニ丙某ヨリ代金ノ壹部ヲ領收シ居レリ依リテ丙某ハ裁判所ニ訴ヘタリ裁判所ニ於テハ遂ニ該物件ノ假處分ヲナシタリ此假處分中當署ヨリ與ヘタル搬出期限ニ至ルヲ以テ乙某ヨリ搬出延期願ヲ差出候此願ニ對シテハ無料延期差許可然哉

三 前項之通無料延期ヲ許可スルルハ先ツ裁判決定マテ幾月タリモ許可致置キ裁判決定後相當ノ期間無料ニテ搬出延期差許可然哉
四 第二項ノ行掛リヨリ丙某勝訴トナリ裁判上ニ於テ丙某ニ該物件ノ所有權アルヲ認メタル場合ニ於テ丙某ニ於テ裁判所ノ判決書ヲ示シテ該物件ノ伐採ニ着手スル爲メ入林願ヲナスルハ公賣規程第二十九條ニ依リ乙某ト連署セサレハ許可不相成義ニ候哉或ハ乙某ノ連署ハ要セサル義ニ候哉

五 前項若シ連署ヲ要シ候ハ、乙某逃亡致候節ハ如何致シ可然哉

(山林局長)回答明治二十六年六月二十六日
山林第一二一七號

- 第一項 後段御見解ノ通りト存候
- 第二項 第三項 御見解ノ通りト存候
- 第四項 第五項 乙某ニ於テ連署ヲ拒ムカ又ハ行衛相知レサルトキハ願書中ニ其旨ヲ記載シ連署セサルモ差支ナキ義ト存候

○官有森林原野公賣規程ノ件

明治二十四年七月一日

官有森林原野ノ公賣ハ明治二十三年五月當省告示第四號林產物公賣規程ニ準シ施行ス

○實況調査上存置ヲ要セサル官林公賣前地方官ニ通知調査セシムル件(大林區署)

明治二十五年四月二十五日
發第一九〇號山林局長通牒

實況調査上存置ヲ要セサル官林賣却ノ節社寺上地ヲ該社寺へ及ヒ縁故アル官林ヲ縁故者へ特賣スルノ外公買ニ付スヘキ官林ハ拂下公告ノ前ニ於テ一應地方官へ通知シ地方官ニ於テ禁伐林編入等見込ノ有無取糺候上公賣ノ御取計相成候様致度

○官有森林原野及產物特賣規程 明治二十四年九月四日
告示第八號

第一章 通則

- 第一條 森林原野及產物ノ特賣ハ總テ本規程ニヨリ施行スルモノトス
- 但原野ノ豫約賣渡ハ此限ニアラス
- 第二條 左ノ諸項ノ一ニ觸ル、モノハ特賣ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一 森林原野及產物ニ關スル損害賠償若クハ違約金辨償ヲ終ヘサルモノ
 - 二 賣渡スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタルモノ
- 第三條 特賣ヲ願フモノハ第一號乃至第四號書式ニヨリ願書ヲ差出スヘシ
但其願旨建築及土木用材ニ係ルモノハ之カ設計書地所ニ係ルモノハ實測圖及隣接地ノ略圖事業用材ニ係ルモノハ事業方法書ヲ添付スルヲ要ス
- 第四條 賣買當事者ハ第五號書式ニ準シ契約書ヲ作り雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クヘシ

賣渡代金五拾圓以上ナルトキハ賣買契約締結ノ際買受人ヨリ賣渡代金十分一ニ當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ムヘシ

第五條 契約ノ金額五拾圓ニ滿タサルモノハ第六號書式ノ請書ヲ以テ契約書トナスコトヲ得

第六條 契約書其他契約ニ關スル書類ニ記載アル事項ノ一部分ニ變更ヲ要スルトキハ其部分ニ付箋シ双方署名捺印スヘシ

第七條 特ニ使用ノ目的ヲ定メテ特賣ヲ受ケタル場合ニハ當該官廳ノ許可ヲ得シテ其目的ヲ變更シ又ハ他ニ轉賣讓與スルコトヲ得ス

第二章 代價拂込 物件引渡

第八條 買受人約定日限内ニ買受代金ヲ完納シタルトキハ其買受物件ヲ管理スル官廳ニ出頭シテ拂込證ヲ示シ之カ引渡ヲ請求スヘシ賣渡物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ヲ爲サ、モルノトス

第九條 賣渡物件所管ノ官廳前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ日限内ニ之ヲ引渡スヘシ

第十條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七號書式ノ領收書ヲ作り當該官廳ニ差出シ約定ノ日限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ

第十一條 買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ五日以内ニ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第十二條 物件ノ所有權ハ引渡ヲ受クルニ隨ヒ買受人ニ移轉シ當該官廳ハ之カ保管ノ責ニ任セス

第十三條 左ノ場合ニ於テハ締結ノ契約ヲ解除シ違約金トシテ當初拂込ノ契約保證金ヲ還付セス
尙損害アトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

第三章 違約處分 損害賠償
但賣渡代金五拾圓未滿ナルトキハ違約金ヲ徵セサルモノトス

一 買受人賣買契約締結後代金ヲ豫定ノ期限内ニ拂込マサルトキ
 但天災其他不可抗ノ原因又ハ豫メ當該官廳ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

二 買受人約定ノ期限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキ

三 買受人賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ本規程ニ違背スルカ又ハ契約ノ取消ヲ請求シタルトキ

第十四條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ當該官廳已ヲ得サル事故ニヨリ契約ヲ取消シタルトキハ第十三條ニ準シ其違約金ニ當ル金額ヲ交付シ尙損害アルトキハ之カ賠償ヲナスモノトス

第十五條 第七條ノ規程ニ違ヒ許可ヲ得スシテ轉賣讓與ヲ爲シ又ハ目的外ニ使用シタルモノハ當初賣渡代金ニ等シキ金額ヲ徴收シ尙損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

第十六條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遭ヒ之ヲ約定期限内ニ搬出シ終ルコトヲ得サルトキハ其事由ヲ具シ最初定メタル期限ノ半数ヨリ長カラサル期限ヲ定メテ搬出日限ノ延期ヲ請求シ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

此場合ニ於テ當該官廳ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料ヲ課シ之ヲ前納セシムヘシ

一 賣渡代價百圓以上ノモノハ 一日ニ付其千分ノ一

二 賣渡代價百圓未満ノモノハ 一日ニ付金拾錢

但天災又ハ不可抗ノ原因ヨリシテ搬出延期ヲ要スル事由アルモノハ特ニ借地料ヲ免除シ又ハ期限ヲ伸長スルコトヲ得

第十七條 前條ニヨリ搬出延期ヲ許可シタル後天災又ハ不可抗ノ原因アルニアラスシテ尙再ヒ延期ヲ請求スルコトアルモ當該官廳ハ其求ニ應セサルヘシ

前項ノ場合ニ於テ搬出未済ノ物件ニ對スル所有權ハ當該官廳ニ復歸スルモノトス但既納ノ代金ハ返付セス

第十八條 第十六條ノ場合ニ於テ買受人搬出延期ヲ爲サス恣ニ約定日限ヲ過キタルトキハ當該官廳ハ同條ノ割合ニ二倍スル借地料ヲ取立ツヘシ

第十九條 買受人又ハ其雇人若クハ代理人買受物件ヲ伐採蒐集若クハ製造運搬等ノ際ニ於テ當該官廳ニ損害ヲ與ヘタルトキハ當該官廳ハ之ニ對スル賠償金ヲ要求スヘシ

第四章 雜件

第二十條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ天災又ハ不可抗ノ原因ニヨリ目的ノ物件ヲ亡失毀損シタル爲メ契約ヲ解除シ之カ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス前項ノ場合ニ於テ契約ノ解除ヲ要セス其毀損部分ノ更正ニ止メ尙繼續履行セントスルトキハ第六條ノ手續ニ準スヘシ

第二十一條 賣渡物件ハ當初買受人ニ於テ熟覽シタルモノニ付賣買契約締結後數量若クハ品質ニ多少ノ差違アリ又ハ内部瑕疵等ノ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス

第二十二條 立木竹生草等賣渡ノ場合ニ於テ其根株ハ賣渡外ノモノトス但特別ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十三條 買受人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ買受人ハ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第一號書式(用材出願ノ式)

立木拂下願

何國何郡何町 大字何々字何官林ノ内凡段別何程
一何木何本

此尺ノ何程

一何木何本

壹尺ノニ付
金何程

此尺ノ何程

代金何圓

同上

合木何程

此尺ノ何程

代金何圓

右ハ何々(特賣ヲ受得ルノ事故)ノ爲メ入用ニ候處何々(特賣ヲ受ケサルヲ得サル事由)ニ付御
拂下被成下度明治何年何月森林原野及産物特賣規程ヲ遵守此段奉願候也
明治何年何月何日

住所
族籍
氏
各印

第二號書式(薪炭材出)

當該官廳長官宛

立木拂下願

何國何郡何町 大字何々字何々官林ノ内凡段別何程

一何木何本

此柵數何程

壹圓ニ付
金何程

代金何程

何國何郡何町 大字何々字何々官林ノ内凡段別何程
一何木何本

此柵數何程

壹圓ニ付
金何程

代金何程

合木數何程

此柵數何程

代金何圓

右ハ云々(第一號書式ニ同シ)

第三號書式(副産物出)

何々拂下願

何國何郡何町 大字何々字何々官林ノ内

一何々何程

代金何圓

壹(束貫等)ニ付
金何程

(年季出願ノモノハ左ノ通標記スヘシ)

何國何郡何町 大字何々字何々官林ノ内

一何々何程 但明治何年ヨリ同何年マテ何箇年季

代金何圓

壹(束貫等)ニ付
金何程

此一箇年分何程

代金何圓

右云々(第一號書式ニ同シ)

第四號書式

森林(原野)拂下願

何國何郡何町大字何々字何々

一何々(地目)段別何町何段何畝何歩

何國、、、、

一何々(地目)段別何町歩ノ内

段別何段何畝何歩

合計段別何段何畝何歩

(實測段別ハ並記スヘシ)

右ハ云々(第一號書式ニ同シ)

第五號書式

賣買契約書

此印紙ハ賣人へ領收シ置クモノ

何國何郡大字何々字何々官林

一何々(樹種等)何程

此代金何程

今般前書ノ通り賣買契約締結候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及產物特賣規程及左記ノ

條項ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也
年 月 日

賣人 官 氏 名 印
當該官總長
特賣主任
住所
買人 氏 名 印

- 一 代價拂込何年何月何日限
- 一 物件引渡何年何月何日限
- 一 物件搬出何年何月何日限
- 一 物件引渡場所
- 一 何々

契約ヲ要スル條件ヲ列記ス

第六號書式

請書

印紙

何國何郡何村大字何々字何々官林

一何々(樹種等)何程

此代金何程

今般前書ノ通り御拂下相受ケ候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及產物特賣規程及左記ノ
條項ヲ承諾シ請書差出シ候也

年 月 日

當該官廳長 官氏名殿

買人 住所 氏 名 印

- 一代價拂込何年何月何日限
- 一物件引渡何年何月何日限
- 一物件搬出何年何月何日限
- 一物件引渡場所
- 一何々

契約ヲ要スル條件ヲ列記ス

第七號書式

證

- 一何々 何程
- 一何々 何程
- 右御引渡相成正ニ領收候也
- 年月日

當該官廳長 官氏名殿

買人 住所 氏 名 印

○特賣主任及引渡主任ヲ命スルノ件 明治二十四年十月二十日

明治二十四年九月本省告示第八號官有森林原野及產物特賣規程中特賣主任及引渡主任ハ小林區署長又ハ大林區署派出所首席者ニ之レヲ命スルコトヲ得

○拂渡木契約ニ關シ保證金ノ件 明治二十四年十二月五日

廣島縣へ拂渡候木材代金納入方ノ義ハ前納難致廉ヲ以テ特ニ物件引渡後ニ於テ納入セシムル義ハ曾テ伺濟ニ有之候處過般林產物特賣規程御發布相成候ニ付テハ該規程ニ據リ契約スルトキハ五拾圓以上ノモノハ契約保證金ヲ前以徵收スヘキ筈ニ候得共右ハ官廳ノ義ニシテ既ニ代價後納ノ義モ御聽許相成居候義ニ付該拂渡ニ限リ尙契約保證金ヲ要セサル事トシ其他ノ廉ハ該規程ニ準據シ契約取扱可然ヤ

(附)

(山林局長)各大區林署へ通知(廣島ヲ除ク)明治二十五年一月十四日
廣島大林區署ヨリ官廳へ拂渡木契約ノ義ニ付別紙甲號寫ノ通リ伺出乙號寫ノ通リ指令相成候間右ニ準シ御取扱相成度此段及御通知候

○官有森林原野及產物特賣規程疑義ノ件

明治廿四年十二月廿日
發第三五六號ノ一秋田大林區署照會

- 一 假令ハ五ヶ年季拂下契約設定ニ屬スルモノニシテ一ヶ年納額金五拾圓五ヶ年計金貳百五拾圓トナルモノハ勿論壹ヶ年納額拾圓五ヶ年計金五拾圓トナルノ類ト雖モ契約總額五拾圓以上ノモ
ノハ規程第四條二項ニヨリ賣買契約締結ノ際總額貳百五拾圓若クハ五拾圓ノ十分一ニ當ル金額ヲ契約保證金トシテ拂込マシメ殘額ヲ五分シ年々告知書發布スベキ義ニ候ヤ
或ハ年額五拾圓以上ノモノニ限リ初年分ノミ保證金徵收差支ナキヤ
- 二 前項前段見込ノ通リトセハ契約年度拂下材料相當額ヨリ超過セル實收入可有之理合ニ候處右剩餘額測定原簿記載方ハ契約年度相當分ト各別記載整理スヘキ義ニ候ヤ
- 三 前項果シテ然リトセハ若シ契約年度出納閉鎖期限(翌年度九月三十日)經過後規程第三條ニヨリ締結ノ契約ヲ解除シタル場合ニハ契約締結ノ際拂込マシメタル十分一金ハ其儘徵收年度ノ科目ニ据置キ別段違約金ニ更正スヘキ必要ナキ義ニ候ヤ

(山林局長)回答 明治廿五年三月四日

官有森林原野及ヒ產物特賣規程中疑義ノ廉左ニ

- 一 一年期拂下ハ一箇ノ繼續契約ナリ故ニ例セハ五ヶ年間ニ拂下クル產物ノ代價金五拾圓トセハ其十分一ニ當ル金ヲ契約保證金トシ徵收スヘキモノナリ而シテ契約保證金ハ其性質上契約完了ノトキマテ其儘ニナシ置キ完結ノ後契約者ニ返付スヘキハ當然ナレトモ特賣規程ハ契約保證金ヲ內金ト見做シ之ヲ返付スルノ手數ヲ省畧スル精神ナルヲ以テ最後ノ年度ニ於テ納入スヘキ金高ヨリ保證金高ヲ引去リ納入セシムヘシ故ニ一年期契約ノ場合ニハ保證金トシテ金庫へ預ケ置キ最

後ノ年度ニ於テ內金ニ組入ルヘシ

一年期拂下ハ前項ノ通り御取扱相成可然モノナレトモ若シ止ムヲ得サル事情アルトキハ左ノ便宜法ニ據ルモ妨ケナキ義ト存候

一年期拂下ノ出願ニ對シ左ノ主旨ヲ以テ指令スヘシ

- 一 一定ノ年期間拂下ヲ許可スルコト
- 二 特賣契約ハ毎年更ニ締結スルコト
- 三 毎年何月迄ニ契約締結ヲ申出テサルトキハ其年以後此指令ヲ取消スコト

(右山林局長ヨリ各大林區署へ通牒ス)

○林產物及林地特賣ニ關シ官廳ノ請求書式ノ件

明治廿五年一月廿五日
甲第壹四號石川大林區署伺

林產物及林地特賣願書式ノ義凡テ客年九月御發布ニ係ル本省告示第八號特賣規程第三條ニ準據爲致候ハ勿論ニ候處若シ官廳(地方廳裁判所)ヨリ拂渡ノ請求アリシ場合民願同様ノ書面ヲ徵スルハ資格上彼我ノ權衡ニ於テ聊カ穩當ヲ欠キ候様ニモ被考候條其費用即チ代價支出ノ途國庫金ト地方稅トノ如何ヲ問ハスル諸官衛長官ノ名ヲ以テスル請求ハ前記願書式ニ據ルヲ要セス土地物件代價等詳記シタル照會書ヲ徵シ之ヲ以テ處分スルモ差支無之儀ト相心得可然ヤ

(大臣)指令明治廿五年二月十五日
伺ノ通リ

○官有森林原野及產物特賣規程第七條見解ノ件

明治廿五年五月九日
甲第二三六號大坂大林區署伺

所用ノ目的ヲ定メ地所及立木ノ特賣ヲ受ケタルモノアリ而シテ目的通り地所ヲ使用セルニ後年不用ニ屬シ及立木ハ設計ノ如ク建築材ニ使用シ偶幾分ノ材積ヲ剩セリ此際拂受人ニ於テ其地所及餘材ノ賣却ハ官有森林原野特賣規程第七條ニ依リ原拂下廳ノ許可アルニアラサレハ所有主ニ於テ賣却ヲ爲スヲ得サルカ如シト雖モ要スルニ本條ハ特ニ定メタル目的通り事業ニ着手セサルカ若シクハ其物件使用前許可ナクシテ其目的ノ變更ヲ許サ、ル精神ト存候條前條ノ場合ニハ同條制裁ノ限外ト心得取扱可然ヤ

(大臣)指令 明治廿五年五月廿七日
伺ノ通

○非職森林官吏へ自用薪材等特賣ニ關スル件

明治廿五年十月十二日
甲第四四五號鹿兒島大林區署伺

小林區吏へ薪炭材特賣ノ義ハ客年三月三日甲第一二八號ヲ以テ相伺同年同月甲第一二八號御指令ノ趣モ有之尙今回右畧限リ處分ノ義山林局長ヨリ通知ノ次第モ候處當署非職官吏ニシテ山間僻隅ノ地ニ居住シ自用薪材ノ拂下ヲ出願スルモノハ現職官吏ニ準シ特賣許可差岡ナキハ勿論ノ義ト存候得共尙ホ一般人民ト等シク副產物等普通ノ特賣ヲ出願スルモノ間々有之候處右非職官吏ハ現今官林ヲ管理シ若クハ官林產物賣却等ノ取扱ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ官有財產管理規則第十四

條ニ觸ル、ノ嫌モ無之候條自今差支ナキモノハ特賣ヲ許可シ又ハ公賣入札爲致差岡ナキ義ニ候ヤ

(大臣)指令 明治廿五年十月廿八日

- 一 非職小林區吏ヲ現職ニ準シ自用薪材ヲ特賣スルヲ得ス
 - 一 非職小林區吏ハ一般人民ニ準シ公特賣ヲ受クルヲ得
- 但シ特賣ノ場合ニ於テハ經伺スヘシ

○山林原野及產物特賣規程違約金免除ノ件 明治廿六年二月十四日
甲第五二號大坂大林區署伺

(立木數代金人名ヲ畧ス)

右ハ伊勢國鈴鹿郡鈴鹿川通堀制砂留工事用材トシテ立木拂下ノ義願出候ニ付特賣ノ義一昨廿四年十二月四日甲第四七八號相伺候處全月廿二日付林第一〇七四六號開屆御指令相成候ニ付當署ニ於テ拂下許可願人等ハ客年一月廿日工事著手全五月廿日竣功候處工事中偶官林拂下木中工事ニ不適當ナルモノアリ不得止内四十八本ヲ二月一日代金貳拾九圓ニテ許可ヲ受ケス恣ニ他ニ轉賣シ更ニ四月十日他ヨリ松百五十本ヲ代金參拾圓ニテ買受ケ以テ工事完了候處落成後越ユルコト五日客年五月廿五日工事延長三拾間ノ三分一ハ大水ノ爲メ破壊流失スルニ至レリ然ルニ右工事中ノ轉賣ハ特賣規程第七條ニ背反スルヲ以テ全第十五條ノ制裁ヲ爲サ、ルヲ得サルカ如シト雖モ事公共ノ事業ニ係ルノミナラス既ニ設計通成功セル今日前陳ノ如ク轉賣ニ據リテ本人等ノ利益セル所ト惡意トハ毫モ無之全ク轉賣ノ手續ヲ誤レルニ過キササルモノニシテ明文上兎ニ角規程ノ眞意ニモ有之間敷シテ事實感諒スヘキ廉アルヲ以テ特賣規程第十五條ノ範圍外トシテ取扱可然哉

(大臣)指令 明治廿六年四月六日
林第一二四一號

徵收ニ及ハス

○官有森林交換規程 明治二十四年九月七日 訓令第三十八號

官有森林交換規程左ノ通相定ム

大林區署

官有森林交換規程左ノ通相定ム

- 第一條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換セントスルトキハ此規程ニ準據スヘシ
- 第二條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換スルコトヲ得ルハ官有森林ノ經營上必要ノ土地ニシテ少クモ評定價格相均シキモノニ限ル
- 第三條 交換ヲ爲サントスル官有森林アルトキハ申込ノ期日ヲ定メ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 - 一 交換ヲ爲サントスル官有森林又ハ官ニ於テ特ニ必要ナル民有地ノ交換ハ公告ノ法ヲ用ヰス
 - 二 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ所在地及其字地番號
 - 三 交換ヲ爲サントスル官有森林產物ノ種類及數量
 - 但樹木ノ數量ハ本數並ニ材積ヲ示スヘシ
 - 四 交換ニ應スヘキ民有地目ノ種類
- 第四條 前條ニ因リ交換ヲ申込マントスルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ書面ヲ差出サシムヘシ
 - 一 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ所在地及其字地番號

- 二 交換ノ爲メ提供スル民有地目
- 三 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ段別及其土地ノ價格
- 四 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野產物ノ種類數量及價格
 - 但田畑ニシテ產物ト共ニ交換セントスルトキハ本項ニ準スヘシ
- 五 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ地形ヲ示セル繪圖面
 - 但隣接地目及最近官有森林トノ位置及距離ヲ記載スヘシ
- 第五條 交換ノ書面ヲ差出シタルモノアルトキハ提供ヲ民有ノ森林原野若クハ田畑ヲ實査シ經營上最モ必要ナルモノヲ撰ヒ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請クヘシ
 - 一 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野若クハ田畑ノ實測段別及地形並四隣ノ景況ヲ示セル明細繪圖及其土地ノ評定價格
 - 二 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野田畑產物ノ種類數量並評定價格
 - 三 交換ノ利害ニ關スル意見
- 第六條 民有森林原野若クハ田畑ヲ實測シ及產物ノ數量ヲ算定スルニハ出願人ヲ立會セシムヘシ
- 第七條 森林原野田畑及產物ノ評定價格ハ評價人ノ評價ニ依ルヘシ
- 第八條 提供ノ民有森林原野若クハ田畑ニシテ交換ヲ爲スニ適當ナルモノト認メタルトキハ直稅分署及登記所ニ照會シテ出願人ノ所有物ニ相違ナキヤ且其物ニハ他ノ權利ノ附著スルコトナキヤヲ確ムヘシ

○公賣立木交換伐採ノ件 明治廿六年二月十三日 甲第五一號東京大林區署伺

部內常陸國那珂郡額田村大字額田東郷字向山官林立木松杉檜合計九百八拾八本ハ本年度主產物収額豫算内ニシテ客歲十二月十日公賣施行候處金貳千六百三圓拾錢ヲ以テ全國久慈郡世矢村大字真弓黒澤末吉へ落札契約締結代金上納濟之處今般右立木九百八拾八本ノ内百拾九本ヲ大字額田南郷字向山壹番(接屬官林)ニ於テ同樹種同大ノモノト交換伐採之義那珂郡神崎村大字本米崎田口林之允外廿六人全郡額田村東郷關龜三外五人(以上出願人惣代)落札人黒澤末吉ト共ニ願出候其願意ノ要旨タル該官林ニ接近シテ字有ケ池ト稱シ面積凡ソ十萬坪ヲ有スル水溜池有之從來ヨリ魚鳥ノ獵漁不尠一ケ年間雁・鴨凡千羽其價格貳百五拾圓有之其収益ヲ以テ該池水門建築修繕費ニ充用致シ來且ツ該村風致ニ關係スルコト不少候ニ付該地ニ沿ヘル部分ノミ百拾九本丈ケ伐採見合セ更ニ他ニ於テ交換致度趣事實相違無之而シテ交換伐採ハ擇伐ニ屬シ將來施業上何等差支無之加之本件ニ關シテハ村民ノ恐慌一方ナラス是迄種々ノ情願モ有之候次第ニ付一ハ民心ヲ安堵セシムルノ方策ト被相考候ニ付願意許可致度候條交換伐採ノ義御許可相成度

退テ本文立木百拾九本ハ本年度主產物收額豫算外ニ有之候

(大臣)指令 明治二十六年三月十日
林第一二二三號

開届ク

山林報告

○官林簿訂正方ノ件

明治十五年七月二十五日
山林局長達

山林事務所

河溝道路開鑿及變換其他事故アリテ官林部中除却又ハ潰地等ノ義經伺之上實際處分濟ノ上ハ本局備付ノ官林簿訂正方上申可致管之處往々區々ニシテ差支候ニ付以來ハ別紙書式ニ照準殘反別並現在之立竹木種木數四至境界其他無遺漏取調繪圖面相副可申出別紙官林表書式相添此旨相達候(別紙畧ス)

(參照)

同日同意異体ノ文ニテ其旨局長ヨリ各府縣へ通知アリ

○森林收入所屬區別報告ノ件(各府縣)

明治十六年十二月二十八日
外第三四六號山林局長通牒

森林收入ニ屬スルモノト其他ニ屬スル諸收入トハ自ラ區別モ候處尙調理上ノ都合モ有之ニ付來十七年一月以降森林收入ニ關スル申牒へハ左記ノ區別ニ據リ御取調ノ上實際御處分ノ景況於當局參照致度儀有之候ニ付乍御手数數別紙表式ニ準シ一ケ月分取纏メ翌月五日限報告書御發東相成候様致度

- 一官林ノ名稱アルモノハ假令林相ヲ爲サ、ル分ト雖該地ヨリ生スル收入ハ都テ森林收入トス
- 一官林ノ名稱ヲ付セサル山野地ト雖林相ヲ爲ス場合ニ係ル收入ハ森林收入トス
- 一部分木官納ニ屬スル代金ハ森林收入トス

右ノ數項ニ關スル申牒面若クハ例規ノ添表欄外へ「森林收入」ノ印ヲ押捺シテ之ヲ標明ス
表式ハ畧之

○森林收入印押捺ノ件(府縣沖繩縣)明治十七年六月二十八日

森林收入印押捺ノ義ニ付テハ客年十二月二十八日付外三四六號ヲ以テ及御通牒置候次第モ候處本年當省第十七號達ノ旨モ有之森林ニ屬スル諸收入ト其他トハ御送納ノ途相異リ候間萬一彼是混雜候様ノ義有之候テハ不都合不尠候ニ付來十七年度以降收入ニ屬スル諸申牒へハ別記ノ通り御差合其區別判然候様一々御押印ノ上御差出相成度

退テ印章御調製ノ間ハ御發東ノ分ハ欄外へ御朱記之上御差出相成度候也

一 森林收入ニ屬スルモノハ「森林收入」印ヲ押スヘシ

森林ニ關スル雜入ハ「森林雜入」印ヲ押スヘシ

一 右ニ收入ノ外ハ一切「官有物收入」印ヲ押スヘシ

○官行事業結果報告ノ件(大林區署)明治二十二年四月二十六日

森林事業ノ内官行事業ニ係ルモノハ別テ其結果ヲ詳ニスルハ緊要ノ義ニ付最初御伺定ノ豫算ト之ヲ實施セシ其結果トノ比較表ヲ調製シ尙其實況等詳記セラレ毎年五月三十一日限御報告相成度尤モ推茸製造ノ如キ數年ニ跨リタルモノハ收入ヲ生スルニ至リタル其年度ヨリ御報告有之度退テ各年度分モ來ル五月三十日限御報告ノ義ト御承知相成度

○森林事業結果報告ノ件(大林區署)明治廿二年四月二十七日

森林事業豫算内外ヲ論セス其結果ヲ詳ニスルハ事務ノ整理上ニ將來ノ計畫上ニ緊要ノ義ニ付主副產物共最初御認可ノ事務豫算ト總テ實地施行セラレタル其結果トノ各比較表ヲ調製毎年五月三十一日限御報告相成度

退テ右比較表ノ義ハ小林區署及派出所毎ニ調製ヲ要セス大林區署總括表ニ準據御調製相成度尤モ該表中へ公特賣及豫算内外ノ各欄ヲ設ケ其區別明瞭相成候様致度將又客年度分ニ限來ル六月三十日限御報告相成度

○貸渡地所返納届之件明治二十二年十一月六日

從來地所貸渡處分濟ノ上ハ例表ヲ以テ御届ニ及ヒ其期明ニ至リテハ尙又返納處分濟届差出來候處右ハ期限ニ至リ返納スルハ當然ニシテ繼年季ノモノハ別段御届ニ及ヒ候得共更ニ處分スルモノニ無之全ク無益ノ手數ト被存候得者爾後ハ返納届不差出モ御差支ハ無之哉

(山林局長)回答明治二十二年十一月二十五日

一年以内ノ季節ヲ限リ貸渡スモノ又ハ直ニ繼年季處分可相成モノハ返納届出不相成モ差支無之總テ年季貸渡ノ分ニシテ返納候モノハ繼年季ト否トニ不拘返納届出相成候様致度

○森林事業施行ニ係ル明細簿原簿報告表式明治二十三年五月十五日

訓令丙林第一八八號

森林事業施行ニ係ル明細簿原簿報告表式別冊之通之ヲ定ム

大林区署

山林局長通牒

這般丙林第一八八號森林事業施行ニ係ル諸簿表式及御送付候尤モ施業按等ノ義ハ不日相達セラレ可ク候得共差向別冊之制定セラレ候ニ付テハ報告表ノ義ハ本年四月分ヨリ御實行相成度明細簿原簿ハ本年度更始ニ遡リ記載之義御困難ニモ候ハ、不得止ニ付到着ノ日ヨリ御實行可相成モ可成四月分ヨリ記載一定相成候様致度且右報告表制定相成候ニ付テハ去ル十九年本省訓令第一號森林ノ員數ニ係ル毎月ノ處分濟届ハ地所ノ拂下及下渡ニ係ルモノヲ除クノ外自今御差出ニ不及義ト御了相成度將又來ル二十四年度森林事業豫算按ノ義ハ從前ノ例ニヨリ調製御進達ノ筈ニ相成居候處右ノ内所伐總括表ヲ始メ各總括表ノ分ハ這般御達相成候各報告表ノ式ニ準據樹種代金等御取調相成度

(別冊)

簿表説明

主産物収額明細簿(第一號)

本簿ハ大小林区署ニ備フルモノニシテ其大林区署ノ分ハ簿中小林区署毎ニ主伐、間伐、枯損及虫害木、盜誤伐木、部分木、龜朶、根株、竹等各其部ヲ設ケ且主伐ノ部中皆伐作業ト擇伐作業ヲ區別シテ各所伐豫算裁定額ニ基キ施行シタル其都度一ケ所(一小班或)毎ノ豫算ト實行トノ比較ヲ爲シ以テ毎ケ所ニ對スル所伐事業ヲ詳ニスルモノトス而シテ若シ豫算外ノケ所ニ於テ處分ナシタルハ豫算裁定額ノ各欄ヲ填記セスシテ單ニ實行額ノ各欄ノミヲ填記シ月末ニハ豫算内ノ分ト合算スヘシ又年度内ニ於テ豫算裁定ノケ所數量ト他ノ豫算裁定以外ノケ所數量ト交換シタルハ其交換ヲナシ

タルケ所數量ヲ豫算裁定額等ノ各欄ニ記入シ實行トノ増減ヲ示シ其理由ヲ備考ニ記入スヘシ

一本簿樹種ノ區別方ハ檜、松、杉、樺、椴、樟、栗、鹽地、榎、樅、櫻ノ十二種及其地方ニテ重ナルモノ其他ハ雜種トス(以下之ニ做フ)

一本簿混濬林ノ記載方ハ例ヘハ檜、椴ノ混濬林ニシテ檜八分椴二分ナルトキハ各樹種面積トモ總テ其歩合ヲ以テ算出スルモノトス(以下之ニ做フ)

一本簿中比較ノ欄増減ノ記入方ハ某小班豫算額ノ全拂ヲナシ自然ノ結果ヨリ生スル増減ハ墨書シ亦事業ノ都合ニヨリ某小班豫算額ノ内拂ヲナスルハ例ヘハ豫算額面積貳町歩尺ハ五百本ノ内面積八反歩ヲ所伐シ尺ハ二百五十本ノ内拂ヲナシタルハ其殘壹町貳反歩貳百五十本ハ比較減ノ欄ニ朱書シテ全拂ト内拂トノ増減ヲ區別シ而シテ内拂ノ豫算殘額他日處分ノ節ハ朱書ニテ再ヒ豫算額ノ欄ニ受入ルヘキ者トス(以下之ニ做フ)

一本簿中根株ノ部ハ書式「尺ハ」ノ欄ヲ「個」トナシ「棚」代金「代金計」ノ欄ヲ省ク龜朶ノ部ハ書式「尺ハ」ノ欄ヲ「束」トナシ「棚」代金「代金計」ノ欄ヲ省ク竹ノ部ハ書式「尺ハ」ノ欄ヲ「本」

「棚」ノ欄ヲ「束」トナスヘシ

一本簿ハ一ケ月毎ニ其計算ヲナシ合計ヲ記スヘキモノトス
一本簿式ハ大林区署ニ備ユヘキ主伐之部中皆伐作業ノ分ヲ示シタル者ニシテ各部トモ此例ニ做フ小林区署ニ設クヘキ分ハ所伐ノ種類并ニ枯損及虫害木、盜誤伐木、部分木其他竹等ノ日別ケヲナシ本簿中「處分月日番號」トアル欄ヲ「本署指令月日番號」トシ其次欄ニ「處分月日」并ニ「樹種」ノ次ニ「木材番號」ノ欄ヲ設クヘキモノトス

副産物収額明細簿(第二號)

本簿ハ主産物収額明細簿ノ例ニ做フ其小林区署ニ設クヘキ分亦全シ

貸地收額明細簿(書式第三號)
本簿ハ前項明細簿ノ例ニ倣フ

主產物收額原簿(書式第四號)
本簿ハ大小林區署ニ備フルモノニシテ其大林區署ノ分ハ明細簿ト均シク部別ケテ爲シ樹種毎ニ調製シテ各部ニ其合計ヲ舉ケ斫伐豫算裁定ノ面積尺等ヲ各適當ノ欄ニ記載シ而シテ實行ノ日毎ニ明細簿ニ記入ノ其日分ノ合計ヲ登記シ月末ニ至リ之レカ計算ヲ爲シ尙豫算ト實行トノ比較ヲ顯ハシ以テ樹種毎ニ對スル毎月ノ斫伐事業ヲ詳ニスルモノトス但シ豫算外ノ箇所ニ於テ處分ヲナシタル片ハ其數量ハ豫算内ノ分ト共ニ明細簿ヨリ合計ヲ轉記シ其都度備考欄ニ其旨記載スヘシ又若シ年度内ニ於テ豫算裁定中ノ幾分ヲ變換シタル片ハ豫算裁定總額中ヨリ變更ヲナシタル數量ヲ差引キ交換ヲナシタル豫算外ノ數量ヲ加ヘテ其旨備考欄ニ記載スヘシ

一本簿根株、庵朶、竹ノ部ハ明細簿ノ例ニ倣フ
一合計ハ樹種毎ニ算出シ書式「記入月日」及「明細簿記入番號」ノ二欄ヲ省キ「樹種」ノ一欄ヲ設クヘシ
一本簿ハ大林區署ニ備ユヘキ錐形ヲ示シタルモノニ付小林區署ニ設クヘキ分ハ小林區毎ニ口別ケテ設ルノ例ヲ省ク

副產物收額原簿(書式第五號)
本簿ハ主產物收額原簿ノ例ニ倣フ

貸地收額原簿(書式第六號)
本簿ハ前項原簿ノ例ニ倣フ

主產物收額報告表(書式第七號)

本表ハ大林區署ニ設クルモノニシテ小林區署毎ニ明細簿ト均シク部別ケテ爲シ且樹種ヲ區別シ各斫伐豫算裁定額ト實行額トヲ毎月末ニ原簿ヨリ轉記シ直チニ豫算ト實行トノ比較ヲ顯ハシ以テ翌月二十日限本省へ報告スルモノトス但遠隔ノ島嶼ニシテ期日ニ報告シ難キモノハ翌月分ト全時ニ報告スヘシ若シ一ケ月中豫算外ノ處分又ハ豫算内トノ交換アルモ其數量ハ豫算内ノ分ト合記シ各數量ヲ豫算外又ハ豫算内ト交換ノ文字ヲ付ンテ備考欄ニ記入スヘシ

副產物收額報告表(書式第八號)

本簿ハ主產物收額報告表ノ例ニ倣フ

貸地收額報告表(書式第九號)

本簿ハ前項報告表ノ例ニ倣フ

主產物處分報告表(書式第十號)

本表ハ小林區署ニ設ルモノニシテ明細簿ヨリ登記シ翌月五日限り大林區署へ報告スルモノトス

一本簿中「斫伐名稱」ノ欄ニハ主伐又ハ間伐ヲ作業名稱ノ欄ニハ皆伐又ハ擇伐ヲ區別記入スヘシ

副產物處分報告表(書式第十一號)

本表ハ主產物處分報告表ノ例ニ倣フ

貸地處分報告表(書式第十二號)

本簿ハ前項報告表ノ例ニ倣フ

前各項ノ外大林區署ハ立木ノ貸下其他處分ヲ了セシ事項ニシテ豫算アルモノハ豫算ト實行トヲ對比シ豫算ナキモノハ實行ノミヲ記載シテ毎月成規ノ期日迄ニ本省へ報告スヘシ但地所ノ拂下及下渡ハ十九年訓令第一號書式ニ據リ毎月成規ノ期日迄ニ報告スヘシ

○官林ノ讓渡又ハ交換ヲ爲シタルキ通知ノ件 明治二十五年二月二十四日 訓令戊辰第一七號

大 林 區 署

自今官林ノ讓渡若クハ交換ヲ爲シタルトキハ其都度主管地方廳へ通知スヘキ義ト心得ヘシ

○苗木栽培及林地植栽成績表 明治二十六年二月十七日 訓令戊辰第一二號

各 大 林 區 署

苗木栽培成績表及林地植栽成績表別紙説明書ニ據リ調製毎年四月末日ヲ期シ其署ヲ發シ進達スヘシ

(別紙)

苗木栽培成績説明書

- (一) 播種床替ニ屬スル期間ハ會計年度ニ依ラス特ニ事業期間ニ依リ區別スルモノトス
事業期間ハ左ノ如ク定ムヘシ
播種期間トハ播種事業施行ノ時ヨリ(若シ播種ノ爲メ豫備ノ事業ヲ爲シタルハ其時ヨリ)初
回ノ床替ヲ爲ス前迄ノ間ヲ謂フ
初回床替期間トハ初回床替施行ノ時ヨリ次回床替施行ノ前迄ノ間ヲ謂フ
次回床替期間トハ次回床替施行ノ時ヨリ林地植栽(第三回ノ床替ヲ爲ス場合ニハ第三回床替
施行ノ前迄)施行ノ前迄ノ間ヲ謂フ
(二) 年度欄ニハ播種ヲ行ヒシ時ノ會計年度ヲ掲クルモノトス而シテ栽培事業終了迄ハ其記入年度

- (三) 如シ
- (四) 林地植栽成績表中年度欄「新植」記入スヘキ年度ニ對スル新植補植及手入ノ關係亦之ニ同シ
同一樹種ニシテ借他料ヲ拂フモノト否ラサルモノト混スル場合ニハ別行ニ掲記スヘシ
苗圃番人ヲ置キシ場合ハ播種及床替ノ面積ニ比例配當シテ以テ人夫數トシ算出シテ當該欄下
ニ記入スヘシ
- (五) 雜品費欄下ニハ總テ所要物品ノ合計價格ヲ記入スヘシ
塙ノ設置若クハ修繕ヲ行ヒシ場合ニハ其價格ハ雜品費ニ併算シ其配當法ハ第四項ニ準ス器具
器械ヲ購入セシ場合ニハ之レカ價格ハ其使用目的ニ應ジ播種若クハ床替ノ雜品費價格ニ併算
シ共通使用スヘキモノハ使用ノ割合ヲ見積リ播種又ハ床替ノ雜品費價格ニ併算スヘシ
合計欄中枯損部合ハ初回床替ノ際ノ苗數ト養成苗數トノ差ヨリ百分比例ヲ以テ算出シタルモ
ノヲ掲クヘシ
- (六) 若シ第三回床替ヲ要スル場合ニハ前床替欄ニ準シテ第二回床替欄ノ次キニ欄ヲ設ケテ記入ス
ヘシ
- (七) 特別ナル苗木栽培法(例之ハ林地自生ノ苗木ヲ採集シ苗圃ニテ撫育ヲ加タル后林地ニ植栽ス
ルノ類)ヲ行ヒシ場合ニハ其旨備考欄ニ記入シ而シテ之ニ關スル勞費ハ適當ノ欄内ニ記入ス
ヘシ
- (八) 林地植栽成績説明書
新植第何回補植第何回手入等ノ事業期間ハ合計年度ニ從フヘシ

故ニ手入ノ如キ同年度間ニ二回以上施行スル場合ト雖モ之ヲ第何回ノ手入ト見做シ一欄内ニ其合計ヲ記入シ其年度間手入回数ノ異ナルモノハ其異別ニ從ヒ反別ノ内譯ヲ備考欄ニ記入スヘシ

(二)

混合植栽ノ場合ニハ混合植栽面積各樹種苗數其他ノ事項ヲ各當該欄下ニ記入シ且ツ每町歩混合ノ割合ヨリ面積ヲ改算シ之ニ對シ樹種別ニナシタル苗數人夫經費ノ總高ヲ備考欄ニ記入スヘシ

(三)

年度欄中「播種」ハ苗木養成ノ爲メ播種シタル年度ヲ記入スヘシ

(四)

苗木價格ハ自設苗圃栽培ニ係ハルモノハ苗木栽培成績表ニ依リ得シ經費ヲ朱書シ購買ニ係ルモノハ墨書スヘシ

(五)

完否欄ハ事業ノ完了セシヤ否ヤヲ記スルモノニシテ補植手入ノ如キ同一林地ニ數回之ヲ施行スヘキモノ、最後(則チ或年度ノ新植ニ對シテ)ノ補植又ハ手入ノ事業ヲ終リタルヲ完トシテ以前ノ事業ヲ否トス

然レモ一旦完了ト認め報告セリト雖モ天候其他豫想外ノ原因ノ爲メ翌年更ニ施行スルコトアルヘシ此場合ニハ次年報告ノ際其事由ヲ備考欄ニ記シ前年報告セシ合計及摘要兩欄ヲ修正シテ報告スヘシ

(六)

特別多額ノ經費ヲ要スルモノハ其理田備考欄ニ記入シ之ニ關スル勞費ハ各欄下ニ適宜記入スヘシ

○苗木栽培及林地植栽事業實業成績報告ノ件(大林區署)

明治二十六年二月十七日
戊第一二號ノ二山林局長通牒

今般戊第一二號ヲ以テ苗木栽培及林地植栽事業實行成績報告ノ義御達相成候處本年ノ報告期ニハ苗木栽培成績表ハ明治二十五年春季已後ノ播種ニ係ルモノヨリ(本表ハ播種ヨリ苗木養成ニ至ル迄全体ノ成績ヲ知ルヲ旨トス故ニ二十四年以前ノ播種ニ對スル床替ハ之ヲ省クヘシ)林地植栽成績表ハ明治二十五年新植施行ニ係ルモノヨリ(本表ハ新植、補植、手入等凡テ造林事業全体ノ成績ヲ知ルヲ旨トス故ニ二十五年夏季ノ手入又ハ本年春季補植ノモノハ二十四年度以前ノ新植ニ對スルモノナレハ之ヲ省クヘシ)御報告ニ相成候儀ニ候

○苗木栽培及林地植栽成績表調製方疑義ノ件

明治二十六年四月四日
乙第一〇六三ノ二號熊本大林區署問合

一 苗木栽培成績表合計ノ欄ニハ播種ヨリ林地へ移植スル迄ノ合計ヲ記載スヘキ義ト被存候處假令ハ昨年播種ニ係ルモノヲ本年報告スル際ハ播種ノ欄へ記載シ其儘合計欄ニ移記シ明年報告スル節ハ初回床替ノ欄ヲ記載シ而シテ播種ノ欄ニハ前年報告ノ通リ記載シ其合計ヲ合計欄ニ記入スヘキニ義有之候哉又ハ播種ノ欄へハ記入セス單ニ合計ノミニ其經費等ヲ合算記載スヘキ義ニ有之候哉
一 全上表摘要ノ欄ハ栽培終了ノ際報告スヘキトキニ限り記載スヘキ義ニ有之候哉

一 林地植栽成績表手入ノ欄完否ハ補植事業終了スルモ苗木養生ノ爲メ雜草木妨拂等終了セサル片ハ否トスヘキ義ナルヤ又ハ補植事業完了スル年度ヲ以テ植栽事業終了ト認ムヘキ義ナルヤ

(山林局長)回答 明治二十六年四月十八日
第七二五號

第一項同表合計ノ欄ハ播種ヨリ林地へ移植スル迄ノ合計ヲ記載スヘキハ勿論ニシテ昨年播種ニ係ルモノヲ本年報告スル際ハ播種ノ欄へノミ記載シ別ニ合計欄ニ移記スルヲ要セス又昨年報告スル節ハ初回床替ノ欄へノミ記載シ播種ノ欄ニハ前年報告ノ通リ記載スルヲ要セス從テ合計欄ニハ記入スルニ及ハス必竟合計欄ナルモノハ栽培終了ノ後ニ報告スル片ニノミ記載スヘキモノニ有之尤モ栽培終了シ合計欄ノ記載ヲナス場合ニハ播種及毎回床替ヲ悉皆記載スヘキ義ニ候
第二項御見解ノ通
第三項前段御見解ノ通

○官有山林原野事項報告書式 明治二十七年一月十七日
訓令第一號

北海道廳 府縣

二十四年三月 當省訓令第十五號官有山林原野事項報告書式別冊ノ通リ改定ス
但別冊ハ山林局ヨリ送付ス

○官有事項報告書式 明治二十七年一月十七日
訓令第二號

大林区署

二十四年三月 當省訓令第十六號官林事項報告書式別冊ノ通り改定ス
但本書式中箇所欄内ハ本年度ニ限り従前ノ例ニ依ルヘシ別冊ハ山林局ヨリ送付ス

山林庶務心得

○森林手簿携帶心得

明治二十四年二月二十八日
達戌第一一〇號

各大林区署

森林手簿別冊之通相定候條其携帶方別紙ノ通心得ヘシ

(別紙)

森林手簿携帶心得

第一條 林務官補營林主事營林主事補及森林監守(見替)職務ニ従事スルトキハ森林手簿ヲ携帶ス
ヘシ

第二條 森林手簿ニハ左ノ件々ヲ當該日欄ニ記入スヘシ若シ當該日欄不足スルトキハ掛紙ヲ用ユ
ヘシ

- 一 巡視區域
 - 二 巡視中見聞シ及ヒ處辨シタル事件ノ要領
 - 三 伐木及ヒ伐跡檢査其他總テ實地檢査ノ要領
 - 四 公特賣下調及物件引渡ノ要領
 - 五 前各項ノ外緊要ノ事件
- 第三條 森林手簿ニハ片假各交リ文ヲ用ヒ務テ簡明ヲ旨トシ記入スヘシ其記事ハ塗抹ス可ラス
但數字ハアラビヤ數字ヲ用ユルモ妨ナシ
- 第四條 森林手簿ハ上官又ハ特命アル官吏ヨリ其閱覽ヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
但閱覽ニ供シタルトキハ認印ヲ受クヘシ

- 第五條 森林手簿ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳具シ速ニ代品受領ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 森林手簿ヲ亡失毀損シ其所爲過失怠慢ニ出テタルモノハ相當代價ヲ辨償センム
- 第七條 免職非職退官轉任ノトキ其森林手簿ヲ後任者ニ引繼クヘシ
但後任者ナキカ又ハ死亡ノ場合ニ於テハ大林區署長ヘ返納スヘシ(別冊ハ畧ス)

○森林施業按 明治二十四年四月十三日
訓令第十七號

大林區署

今般森林施業ニ要スル諸案簿表附錄別冊ノ通り相定メ來二十六年度ヨリ實施ス(諸表畧之)

但施業案編製心得及製圖式ハ山林局ヨリ送付ス

施業諸案簿表說明附記載例

第一 面積簿

- 本簿ハ林地ノ反別ヲ詳ニスルモノニシテ一小林區毎ニ一括シ調製スヘシ
- 本簿ハ分テ左ノ十一欄トス
- 一 國 本欄ニハ林地所在ノ國名ヲ記入スヘシ
- 二 郡 本欄ニハ林地所在ノ郡名ヲ記入スヘシ
- 三 市町村 本欄ニハ林地所在ノ市町村名ヲ記入スヘシ
- 四 大字 本欄ニハ林班並ニ小班ノ所在位置ヲ明ニスルカ爲メニ其地ノ大字ヲ記入スヘシ
- 五 字 本欄ニハ前項ノ小字名ヲ記入スヘシ
- 六 保護區 各小林區ニ於テ林政上ノ關係ヨリ定メタル吏員ノ分擔區域ヲ云フモノニシテ本欄

二十七年一月
三十一日訓令
第六號ニテ諸
按簿表式ヲ改
正アリ

- 七 林班ニハ其番號ヲ羅馬數字ニテ記入スヘシ
小班(字) 凡ソ廣大ナル森林ハ伐採ノ順序ヲ正シ或ハ保護上及測量上ノ便利ヲ計ル等ノ爲メ之ヲ峯谷川道或ハ人工區劃線ニ由リテ適當ノ大サニ區劃スヘシ此區域ヲ名ケテ林班ト云ヒ其番號ハアラビヤ數字ニテ記入スベシ而シテ小班ハ一林班中林相ノ異ナル毎ニ一林班ヲ通シ片假名ヲ用ヒテ記號トナスヘシ
 - 八 林班小班ノ名稱ヲ付セサルハ單ニ官林字名ヲ記入スヘシ
林地ノ項中立木地ノ欄ニハ現在樹木ノ生立シテ林相ヲ爲ス所ノ面積ヲ小班毎ニ順記スヘシ
未立木地ノ欄ニハ點々少許ノ樹木ノ生存スル地並ニ現在立木ナキモ將來樹木ヲ生立セシムヘキ地ノ面積ヲ記載スヘシ
 - 九 除地 本欄ニハ將來樹木ヲ植栽セサル官舎敷地沼湖河川路不毛地等ノ面積ヲ記載スヘシ又
本欄及前欄ノ面積ハ保護區毎ニ小計ヲ附シ最尾ニ之カ總計ヲナシ以テ全小林區ノ面積ヲ詳カナラシムヘシ
 - 十 摘要 本欄ニハ除地ニアリテハ其種類未立木地ニ在リテハ未立木地トナリ或ハナシタル理由或ハ點生セル樹木アルキハ其種類ヲ概記スヘシ
 - 十一 備考 本欄ニハ林地ニ異動アリタルトキ其事由並ニ之ニ關スル參照ノ要件其他必用ノ事項ヲ記入スベシ(本欄記載例參觀)
- 第二 林況簿
- 面積簿ノ調製成リタルキハ一小林區ヲ通シ現在ノ林況ヲ調査シテ本簿ヲ作ルヘシ本簿ハ別チテ左ノ十三欄トナス
- 一 保護區

二 林班(字) 小班(字) 面積

以上三欄ノ記載方ハ面積簿ト異ナルヲナク只本簿ニハ除地ヲ除ク別アルノミ

四 林木種本欄ニハ樹種名ヲ記載シ數樹種混生スルトキハ其混生歩合樹種及樹齡ヲ記入スヘシ即チ數樹種混生スレハ多ク存在スル者ヨリ始メ片假名ニテ順次ニ其名ヲ列記シ各樹種混生ノ割合及樹齡ハ數字ヲ以テ之示ラスヘシ

5	スギ	20-30
3	サツラ	40-80
2	ヒノキ	50-100

例ヘバ喬林ニシテスギ五分サツラ三分ヒノキ二分ヲ存シ年齡ハスギ二十年乃至三十年サツラ四十年乃至八十年ヒノキ五十年乃至百年ヲ示スガ如シ

竹ニ在リテハ林齡已下三欄ヲ填記セス圍周ノ等級ニ別チタル本數並ニ束數ヲ記シ材積ノ欄ニハ合計シタル毎町歩及總町歩ノ束數ヲ記スヘシ

(本欄記載例參觀)

五

林齡全林ノ樹木盡ク同時ノ栽植ニ係リタルキハ其樹齡ハ即チ林齡ト全一ナリト雖モ其一部分ノ樹木ハ七十年生他ノ一部分ノ樹木ハ十年生ナルトキハ其林齡ハ七十年ニモ非ラス十年ニモ非ラス又七十年ト十年ト平均シタル四十年ニモ非ス例ヘハ七十年生ノ樹木ノ在ル面積ヲ二十町歩十年生ノ樹木アル面積ヲ百町歩トナスキハ二十町歩ニ七十年ヲ乘シタルモノニ百町歩ニ十年ヲ乘シタルモノヲ加ヘ之ヲ百町歩ニ二十町歩ヲ加ヘタル百二十町歩ニテ除シ得ル所ノ二十年 $20 \times 70 + 100 \times 10 = 200 + 20$ 即チ林齡ナリ

擇伐作業(各種ノ年度級又ハ樹種混生セルモノニシテ伐期ニ達シタルモノヲ擇ヒ伐採スル

7)ニシテ例ヘハ若干町歩中ニ生立スル總樹木ノ材積ヲ二千〇五十尺トナシ今其中ニ就テ十年生一千尺ニ十四年生二百尺ニ二十年生三百尺ニ廿五年生五百尺ニ廿八年生五十尺ニアルト假定スルキハ其林齡左ノ如シ

$$\frac{1000 + 200 + 300 + 500 + 50}{1000 + 200 + 300 + 500 + 50} = 13.57$$

$$\frac{10}{10} + \frac{14}{14} + \frac{20}{20} + \frac{25}{25} + \frac{28}{28}$$

即チ四捨五入シテ十四年トナルカ如シ

林齡ハ右ノ二法ニ由リテ算出スルモノナリト雖モ二三ノ樹種相混生シ其内ニ甲種ノ樹木ハ總立木ノ十分ノ六以上ノ割ヲ占ムルキハ甲種ノ年齡ヲ以テ直ニ林齡トナスヘシ又數樹種混生セル場合ニアリテハ正確ノ林齡ヲ算出スル能ハサルガ故ニ其林齡ヲ記スルヲ要セズ若シ之ヲ得ント欲セハ各樹種ニ就キ其平均年齡ヲ算シテ之ヲ列記シ若シクハ尙略シテ妨ケナキ場合ニハ之ヲ平均シタルモノヲ用ユヘシ上木ト下木ト二段ヲ爲スキハ個別ニ伐採セサルヘカラサルニ依リテ上木ト下木トノ年齡ヲ平均スルヲ能ハサルナリ故ニ上木ハ樹種毎ニ年齡ヲ平均シテ上位ニ記シ下木ハ下木ノミニテ平均シ下位ニ記シ且之ニ括弧ヲ附スベシ

六 年度級 喬林ノ年度ハ每二十ヶ年ヲ一級トシ之ヲ再別シテ二等トナスベシ
例之ハ齡一年ヨリ十年ニ至ルヲ第一級ノ一(I₁)齡十一年ヨリ廿年ニ至ルヲ第一級ノ二(I₂)之ヲ總稱シテ第一級(I)齡廿一年ヨリ四十年ニ至ルヲ第二級(II)齡四十一一年ヨリ齡六十年ニ至ルヲ第三級(III)齡六十一一年ヨリ齡八十年ニ至ルヲ第四級(IV)齡八十一一年ヨリ齡百年ニ至ルヲ第五級(V)トナス百年以上モ亦之ニ準ス
矮林ノ年度ハ每五ヶ年ヲ一級トナス即齡一年ヨリ齡五年ニ至ルヲ第一級(I)齡六年ヨリ齡

十年ニ至ルヲ第二級(II)齡十一年ヨリ齡十五年ニ至ルヲ第三級(III)齡十六年ヨリ齡廿年ニ至ルヲ第四級(IV)ト爲ス

本欄ニハ各小班ノ年度級ヲ羅馬數字I II III IV等ヲ以テ顯ハスヘシ

擇伐作業ノ年度級ハ概畧ノ平均林齡ニ由リテ之ヲ掲クヘシ

八七 地位ハ各之ヲ十等ニ別チ最上ヲ1.0最下ヲ0.1ト爲シ一小林区ヲ通觀シテ適宜等級ヲ定メ記入スヘシ

九 粗密ノ度ハ之十等ニ別チ最上ヲ1.0最下ヲ0.1トナシ尙一町步常リノ平均本數ヲ記入スヘシ但シ本數ニハ()ヲ附スベシ

例之ハ樹梢相密合シ立木ノ數最適當ナルモノヲ疏密度ノ本位トシテ假ニ之ヲ1.0ト定メ立木數適當ノ度ニ達セサルモノハ總テ小數ヲ以テ之ヲ顯ハス例ヘハ立木ノ數適度數ノ十分ノ七或ハ十分ノ八等ナルキハ0.7或ハ0.8ト記スルカ如シ

最適當ノ立木數ナルモノハ林齡ト林位トニ關スル者ナルカ故ニ一般ニ之ガ定限ヲ下ス₁能ハサルナリ而シテ茲ニ本欄ヲ設クルノ要ハ重モニ透伐及補植ノ見込ヲ立ツルト材積ノ多寡ヲ比較スル等ニ必用ナルニ因ルモノニシテ本欄ニ掲クル所ノ數ハ大略ヲ記スルニ過キズ又立木ノ數適度ノ十分ニ(0.2)以下ナルキハ其立木地ハ之ヲ未立木地トナス

密度數ノ下段ニハ數字ニテ一町步ニ付平均ノ立木數例ヘハ(3260)ヲ記スヘシ

十 材積ノ内毎町ノ欄ニハ各小班ニ於テ一町步ニ現在スル平均ノ材積ヲ尺_ベヲ單位トシテ記スヘシ

但尺_ベ未滿ハ之ヲ切捨ツヘシ

材積ハ目測或ハ標準木ニヨリテ算出スヘシ

混濬林ニ在リテハ各樹種毎ニ或ハ針葉樹闊葉樹ノ二種ニ分チテ其材積ヲ掲クルヲ良トスト雖實際斯クナスノ必要ナキハ之ヲ合算シ又下木ノ材積ハ總テ上木ト別ニ之ヲ記スヘシ

總材積トハ各小班ニ現在スル總材積ニシテ每町材積ニ小班ノ面積ヲ乘シテ得タルモノヲ記スヘシ

十一 平均生長ノ欄ニハ現時每一町步ノ有スル材積ヲ其林齡ニテ除シタル者ヲ記スヘシ若シ輪伐期ノ平均生長量ヲ知ルキハ茲ニ之ヲ記スルヲ良トス但シ其際ハ頭書ニ輪伐期ノ三字ヲ加フヘシ

十二 備考 本欄ニハ便宜必用ノ事項ヲ掲クヘシ

十三 將來施業ノ要略 林況調査ノ成績ハ以上ノ十四個ニ於テ悉ク之ヲ詳カニスルモノナリト雖_レ茲ニ特ニ本欄ヲ設ケ後來ノ施業ノ要點ヲ略記スベシ今其要ヲ例スレハ林種ヲ定メ間伐補植新植等ノ時期及其數量伐採時期ノ緩急ヲ要スルノ理由等ノ如シ(記載例本欄ニ就ラ觀ルヘシ)

右ノ如ク諸欄ニ記入シタル上ハ終ニ横線ヲ引キ面積及ヒ材積ノ總計ヲ掲ケ(但シ木ト竹トヲ別ツヘシ)林種作業種類樹種輪伐齡各異ナル毎ニ一括シ其面積及材積ヲ掲クヘシ

第三 面積平分簿

本簿ハ施業按ヲ編製スルニ當リ各施業期ニ伐採スヘキ面積ヲシテ大差ナカラシメンカ爲メ林況簿ノ成績ニ基キ取捨計算ヲ爲スモノナリ而シテ其平分ハ各樹種毎ニ順次之ヲ行フモノトス依テ初頭ニ林種作業種樹種及輪伐齡(擇伐作業ニ在ラハ回歸年)ヲ掲クヘシ例之ハ

1. 濬林	1. 皆伐作業	1. 松單純林	輪伐齡六十年
	2. 擇伐作業	1. 山毛櫸等ノ混濬林	回歸年四十年

ト記スルカ如シ而シテ各欄内ノ記載法ハ左ニ示ス如シ

一 保護區

二 小班(字)

三 面積

四 地位

五 林位

六 林齡

右ハ林況簿ヨリ轉載ス

七 現在ノ年度級 此欄ニハ面積平分ノ欄ト對比シ易カラシメンカ爲年度級(羅馬數字)ニテ

八 面積平分ノ各欄ノ上頭ニテ施業期(羅馬數字ニテ)ト年度(アラビヤ數字ニテ)トトハトヲ

記シ各欄ニ相當スル各小班ノ面積ヲ配記スルノ前項ノ如クスヘシ但喬林ニ在リテハ第一期ヲ分テ前半期(I)後半期(II)ト爲スヘシ

施業期ノ年數ハ喬林ニ在リテハ廿ケ年矮林ニ在リテハ五ケ年ト爲ス即假リニ明治廿五年ヨリ起算スレハ喬林ニ於ル第一施業期(I)ハ明治廿五年ヨリ明治四十四年迄ヲ第二施業期(II)ハ明治四十五年ヨリ明治六十四年迄ヲ云フ而シテ第一施業期ノ前半期トハ明治廿五年ヨリ明治三十四年迄ヲ後半期トハ明治卅五年ヨリ明治四十四年迄ヲ云フ又矮林ニ於ケル第一施業期(I)ハ明治廿五年ヨリ明治廿九年迄ヲ第二施業期(II)ハ明治三十年ヨリ明治卅四年迄ヲ云フ等ノ如シ故ニ喬林ニシテ若シ其輪伐齡六十年ナルキハ本項第四欄(第十)ノ頭書ヲ單ニ第三施業期(III)ト記スベシト雖モ其

山林庶務心得

一. 矮林 皆伐作業 1. 單純林 輪伐齡十五年

ト記スルカ如シ而シテ各欄内ノ記載法ハ左ニ示ス如シ

一 保護區

二 小班(字)

三 面積

四 地位

五 林位

六 林齡

右ハ林況簿ヨリ轉載ス

七 現在ノ年度級 此欄ニハ面積平分ノ欄ト對比シ易カラシメンカ爲年度級(羅馬數字)ニテ

八 面積平分ノ各欄ノ上頭ニテ施業期(羅馬數字ニテ)ト年度(アラビヤ數字ニテ)トトハトヲ

記シ各欄ニ相當スル各小班ノ面積ヲ配記スルノ前項ノ如クスヘシ但喬林ニ在リテハ第一期ヲ分テ前半期(I)後半期(II)ト爲スヘシ

施業期ノ年數ハ喬林ニ在リテハ廿ケ年矮林ニ在リテハ五ケ年ト爲ス即假リニ明治廿五年ヨリ起算スレハ喬林ニ於ル第一施業期(I)ハ明治廿五年ヨリ明治四十四年迄ヲ第二施業期(II)ハ明治四十五年ヨリ明治六十四年迄ヲ云フ而シテ第一施業期ノ前半期トハ明治廿五年ヨリ明治三十四年迄ヲ後半期トハ明治卅五年ヨリ明治四十四年迄ヲ云フ又矮林ニ於ケル第一施業期(I)ハ明治廿五年ヨリ明治廿九年迄ヲ第二施業期(II)ハ明治三十年ヨリ明治卅四年迄ヲ云フ等ノ如シ故ニ喬林ニシテ若シ其輪伐齡六十年ナルキハ本項第四欄(第十)ノ頭書ヲ單ニ第三施業期(III)ト記スベシト雖モ其

輪伐齡七十年或ハ八十年ナルキハ第三施業期及第四施業期ノ前半期(III及IV)ト或ハ第三施業期及第四施業期(III及IV)ト記スヘシ例之ハ輪伐齡六十年、七十年、八十年ノ喬林ニ對スル本項ノ頭書法ヲ示スノ左ノ如シ

面積平分

輪伐齡60年ナレバ		輪伐齡70年ナレバ		輪伐齡80年ナレバ	
第 I 期	第 II 期	第 I 期	第 II 期	第 I 期	第 II 期
前 半 期	後 半 期	前 半 期	後 半 期	前 半 期	後 半 期
自明治廿五年 至全三十四年	自明治三十五年 至全四十四年	自明治廿五年 至全三十四年	自明治三十五年 至全四十四年	自明治廿五年 至全三十四年	自明治三十五年 至全四十四年
第 III 期	第 III 期	第 III 期	第 III 期	第 III 期	第 III 期
自明治四十五年 至全六十四年	自明治四十五年 至全六十四年	自明治四十五年 至全六十四年	自明治四十五年 至全六十四年	自明治四十五年 至全六十四年	自明治四十五年 至全六十四年
第 III 期 及 第 IV 期	第 III 期 及 第 IV 期	第 III 期 及 第 IV 期	第 III 期 及 第 IV 期	第 III 期 及 第 IV 期	第 III 期 及 第 IV 期
自明治六十五年 至全九十四年	自明治六十五年 至全九十四年	自明治六十五年 至全九十四年	自明治六十五年 至全九十四年	自明治六十五年 至全九十四年	自明治六十五年 至全九十四年

又輪伐齡十五年廿年ノ矮林ニ對スル本項ノ頭書法ヲ示セハ左之如シ

輪伐齡15年ナレハ

面積平分		
第 I 期	第 II 期	第 III 期
自明治廿五年 至全廿九年	自明治三十年 至全三十四年	自明治三十五年 至全三十九年

輪伐齡20年ナレハ

面積平分				
第 I 期	第 II 期	第 III 期	第 IV 期	第 V 期
自明治廿五年 至全廿九年	自明治三十年 至全三十四年	自明治三十五年 至全三十九年	自明治四十年 至全四十四年	

而シテ各小班ノ面積ヲ各欄内ニ分記スルニハ假ニ輪伐齡六十年トスレハ現今林齡十四年(即年度級I)ノ者ハ今後四十六年目ニ伐採スヘキカ故ニ第III期内ニ記シ現今林齡廿五年(即年度級II)三十六年(即年度級II)及四十七年(即年度級III)ノ者ハ今後三十五年廿四年及十二年目ニ伐採スヘキカ故ニII及Iニ記入スルカ如シ又輪伐齡十五年ノ矮林トスレハ現今林齡三年(即年度級I)七年(即年度級II)及十二年(即年度級III)ノ小班面積ハ今後十二年八年及三年ニシテ輪伐齡ニ達スルカ故ニIII II Iニ記入スヘキナリ

斯ク一樹種ノ各小班ヲ各施業期ニ配分スルノ后ハ其各期欄内記載ノ面積ヲ合計シテ彼此ノ差異如何ヲ對比スヘシ面積平分簿ハ前ニモ述フル如ク一樹種ノ全林地ヲ成ルヘク平等ニ各施業期ニ分配シ且ツ林業上諸般ノ關係ヲ鑑ミ伐採順序ノ良否被害等ノ爲特ニ伐採時期ヲ緩急スルヲ要スル者ノ外ハ總テ成ルヘク正常輪伐齡ニ達シタル者ヲ伐採スルヲ目的ト爲ス即Iノ面積合計ハII III IV等ノ面積合計ニ等シク又Iノ面積ハI₂面積ニ等シキヲ要スルモノナリ面積平分ノ項中第四欄ニ、一

期半、二期、二期半、等ノ面積ヲ合記スルニ當リテハ其合計ハ第一期ノ面積合計ノ一倍半、二倍、二倍半、等ト爲スヲ要スルヤ論ヲ俟タス故ニ各期欄下ノ面積合計ニ稍多キ差異ヲ來スキハ幾何ノ小班ニ於ケル全面積或ハ其幾部分ヲ上下ノ施業期ニ轉送セシメ例之ハIIノ者ヲIニ繰上ケIIIノ者ヲIVニ繰リ下ケル等ノ上下ヲナシ其平等分配ノ目的ヲ達セシムヘシ但其轉送ヲ施スニ於テハ其原位置ニ記載シアル數字ハ赤色ノ箭形ヲ以テ引消スヘシ而シテ其箭ノ尖端ハ送り込ミタル欄ニ向ケテ畫クヘシ且面積ノ幾部分ヲ送ル場合ニハ其殘數又ハ新ニ送ラレタル數量ヲ原數ノ上位ニ墨書スヘシ合計モ亦同様ノ手續ヲナスヘシ

以上陳述シタル面積平分法ハ皆伐作業ニノミ之ヲ施ス者ニシテ擇伐作業ニ在リテハ又他ノ法ヲ用ユ則チ擇伐作業ニ在リテハ皆伐作業ノ如ク輪伐齡ヲ定ムルノ必要ナクシテ其伐採スヘキ區域順序等ハ總テ所謂回歸年ナルモノニ據リテ之ヲ定ムルモノトス回歸年トハ一林斑或ハ數林斑ノ一點ヨリ漸次擇伐進行シ終ニ全部ヲ通シテ其終點ニ達シ再ヒ始點ニ回歸スルノ年限ヲ云フ此回歸年ハ林況及林況ノ如何ニ由リテ之ヲ異ニスヘシト雖モ通例ハ主要ナル樹種ノ適當ナル伐期齡ノ二分ノ一三分ノ一或ハ四分ノ一ト爲スヲ適當トス然レモ場合ニヨリ樹種中ノ最低輪伐齡ヲ用ヰルモ妨ケナシ而シテ擇伐作業ニ於ケル記入タル單ニ其一欄内ニ向フ十ヶ年間ニ擇伐ヲ施スヘキ小班ノ面積ヲ記スルナリ其向フ十ヶ年間ニ擇伐スヘキ面積ハ回歸年ニテ全面積ヲ除シ其得數ニ10ヲ乘シテ(例之ハ全部ノ面積ヲ五百四十町トシ回歸年ヲ三十年トスレハ $\frac{540}{30} \times 10 = 180$ 町)算出シ其算定面積丈ケヲ施業順序ノ便利ニシテ且輪伐齡ニ近キ樹木ヲ有スル林班小班中ヨリ撰出スルニ在リ

九 備考 各小班ノ面積ヲ各施業期中ニ平等分配シタルノ多少及理由ノ説明又ハ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

第四 林材平分簿

本簿ハ年々收獲スル所ノ材積ヲシテ平等ナラシメンカ爲メ先ツ各施業期間ノ材積ヲ平分スルヲ以テ目的トナス其平分ハ猶面積平分簿ニ於ケルガ如ク各樹種毎ニ之ヲ行フモノニシテ初頭ニ林種、作業種、樹種及輪伐齡ヲ掲クヘシ(面積平分簿ノ例ニ據ル)但擇伐作業矮林ハ之ヲ要セス各欄ノ記載方ハ左ノ如シ

- 一 保護區
- 二 小班(字)
- 三 面積
- 四 他位
- 五 林位
- 六 林齡
- 以上ノ六欄ハ面積平分簿ヨリ轉載ス
- 七 現在材積
- 八 均生長量
- 九 年度級
- 以上ノ三欄ハ林況簿ヨリ轉載ス
- 十 施業期ハ面積平分簿面積平分ノ欄ヨリ轉載ス
- 十一 均平伐期齡トハ伐採サル、時期ニ於ケル平均ノ年齡ヲ云フ即現在ノ林齡ニ現在ヨリ起算シテ面積平分ニ於テ各小班ノ編入サレタル施業分期間ノ半期ニ至ル迄ノ年數ヲ加ヘタル者ヲ云フ例之ハ齡十五年ノ喬林ニシテ第二施業期ニ編入サレタル者ハ其齡十五年ニ三十ケ年(第一施業期二十年ト第二施業期十年ト和)ヲ加ヘテ四十五年トシ齡五十六年ノ喬林ニシテ第一施業期ノ前半

期ニ編入ツレタル者ハ齡五十六年ニ五年(即第一期前半期ノ半數)ヲ加ヘテ六十一年トスルカ如シ故ニ喬林ニ於テハ平均伐期齡ヲ得ルカ爲ニ現在ノ林齡ニ加フヘキ年數ハ左ノ如シ

編入サレタル期	加フヘキ年數
I (第一施業期)ナレハ	十年
I ₁ (第一施業期ノ前半期)ナレハ	五年
I ₂ (第一施業期ノ後半期)ナレハ	十五年
II (第二施業期)ナレハ	三十年
III (第三施業期)ナレハ	五十年
IV (第四施業期)ナレハ	七十年
V (第五施業期)ナレハ	九十年
又矮林ニ在リテハ施業期ハ五ケ年ナルカ故ニ現在ノ林齡ニ加算スベキ數左ノ如シ	
編入サレタル期	加フヘキ年數
I (第一施業期)ナレハ	二年半
II (第二施業期)ナレハ	七年半
III (第三施業期)ナレハ	十二年半
IV (第四施業期)ナレハ	十七年半

以上ノ欄ハ面積平分簿ニ於テ平分ニ據リ定リタル所ノ施業期ヲ記入シ之ニ據テ各小班ノ平均伐期齡ヲ定メテ記入スベシ

十二、伐期材積本欄ハ前欄平均伐期齡ニ平均生長量ヲ乘ジタルモノヲ記入ス

十三、材積平分ノ各欄ノ上頭ニハ施業期(羅馬數字ニテ)ト其年限(明治25—34)トヲ記シ欄内ニハ當該期間ニ輪伐齡ニ違スヘキ小班ノ材積ヲ算出記入ス其材積ヲ算出スルニハ現在材積ニ伐期迄ノ生長量ヲ加ヘタルモノニテ即チ伐期迄ノ生長量ハ現在ヨリ伐期迄ノ年數ニ一町歩ニ付テノ平均生長並ニ小班ノ面積ヲ乘シテ之ヲ得ルナリ但林木ノ連年生長ハ齡ノ高低ニ由リテ甚差異アルモノナルガ故ニ己ニ十年後ノ生長ハ平均生長ニ依リテハ綿密ニシテ之ヲ定ムヘシ故ニ平均生長量ニ代フルニ力メテ伐期平均生長量ヲ用フルヲ良トス既ニ材量表ノ綿密ナルモノヲ調製シ得タル林區ハ之ヲ用ヒテ計算スヘシ其施業期ト年限トノ記載法ハ面積平分簿ニ準ス而シテ材積ノ平分ハII期迄ヲ限リトス

期ク一樹種各小班ノ材積ヲ各施業期ニ分配シ各期欄内記載ノ材積ヲ合計シ之ヲ對比スヘシ然ルルハI₁ノ材積トI₂ノ材積ト或ハI₁I₂ヲ合計シタル材積トIIノ材積ト多少差違アルヲ見出ダスベシ是ニ於テ之ヲ平均セントスルニハIIトIノ間ノ材積或ハI₁I₂トノ材積ヲ上下シ可成的平等ニ近カラシメ以テ平等分配ノ目的ヲ達スベシ斯ノ如クシテ材積ヲ上下セシムルルハ從テ其面積モ之ヲ上下セシメザルベカララズ爲ニ面積平分簿ニテ平分シタル面積ニ多少ノ差違ヲ生スルハ又免ルベカラザル所ナリ因テ其上下シタル所ノ面積ハ之ヲ備考欄内ニ掲ゲテ施業按ニ轉載スルノ用ニ供スベシ而メ其轉送スルニ至リ原位置ノ數字ハ赤色ノ箭形ヲ以テ之ヲ引消シ其箭端ハ送りタル欄ニ向ケテ書き又幾部分ヲ送りタル場合ニハ其殘數又新ニ送ラレタルルハ其數量ヲ原位置ノ上位ニ記スヘシ

十四備考 各小班ノ材積ヲ各施業期中ニ平等ニ分配シタルノ多少及理由又ハ參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五 施業按

本按ハ面積平分簿及材積平分簿ニ由リテ平等ニ分配シタル各樹種ノ面積及ヒ材積ヲ記入シ林業ヲ永遠ニ保續經營スルノ基礎トナルモノ即諸簿中最要ノモノナリ

本按ノ記載法ハ左ノ如シ

- 一 國、二 郡、三 市町村、四 大字、五 字、
 - 六 保護區
 - 七 林班(字)
 - 八 面積
 - 九 地位
 - 十 林位
 - 以上各項ハ前諸簿ヨリ轉載ス
 - 十一 現在林況ノ部ハ之ヲ分テ林木種、林齡、每町材積、總材積及平均生長量ノ五欄トシ前簿ヨリ轉載ス
 - 十二 平均伐期齡 前簿ヨリ轉載スヘシ
 - 十三 明治何年後施業豫定ノ部ハ之ヲ施業分期數ト等シク數欄ニ分チ之ニI、I₁、II、III等ノ期限ヲ記入シ之ヲ又伐採面積ト材積(II期以下ハ之ヲ除ク)トノ二欄ニ分チI期ノ材積ノ欄ヲ又主伐(平均伐期齡ニ達シタル時期ニ於テ伐採スル收穫)ト間伐(平均伐期齡ニ達スル以前ニ於テ手入ノ爲メ伐採スル收穫)トノ二欄ニ分ツヘシ
- 本按ハ喬林皆伐作業擇伐作業及矮林皆伐作業ノ三種ニ由リテ之ヲ異ニス
- 喬林ニ在リテハ第一及第二施業期ノ材積平分簿ニ由リ平分シタル材積ト面積トヲ記入

シII期以下ハ單ニ面積簿ニ於テ平分シタル面積ノミヲ記スヘシ
天然下種作業ノ施業按又之ニ進ス

矮林施業按ニ在リテハ材積ヲ平分スルヲ要セサルカ故ニ本項中面積ノ欄ニハ面積平分簿
中ニ撰定シタル面積ヲ轉記シ然後先ツ其伐期齡ヲ記入シ次ニ現在材積ニ伐期迄ノ生長量
ヲ加ヘタル者ヲ算出シ之ヲ「材積」ノ欄内ニ記入スヘシ

又擇伐作業ノ施業按ニ在リテハ皆伐作業及矮林施業按ノ平均伐期齡ニ代フルニ各林木伐
期齡ヲ以テシ施業按定ハ之ヲI₁(前半期)ニ止メ之ヲ伐採面積伐採材積ノ二欄ニ分チ總面
積ヲ回歸年ニテ除シ之二十年ヲ乘シタル面積(今後十ヶ年間ニ擇伐ヲ施スヘキ面積)ヲI₁

ノ採面積ノ欄内ニ記シ探伐材積ノ欄ニハ回歸年ニテ主樹ノ伐期又ハ平均齡ヲ除シ其得數ヲ
以テ再ヒ前記ノ面積ニ存スル總材積ヲ除シタル者ヲ記スヘシ例ヘハ回歸年ヲ四十年主樹
ノ伐期齡ヲ百二十年トスレハ $\frac{120}{40} = 3$ ヲ以テ現在材積ヲ除シ得ル所ノ數量ヲ記スルカ如

シ擇伐作業ニ在リテハ面積並ニ材積ヲシテ皆伐作業ニ於ケルカ如ク綿密ニ之ヲ平等ニ分
配スルヲ能ハサル者ニテ且I₁以上ノ期ニ對スル材積ハ之ヲ定ムルヲ要セサルモノトス間
伐ハ重ニ喬林皆伐作業ニ在リテ施行スル者ニテ本項ニ記入スルハ第一期間ニ止ムヘシ

右ノ外年々ノ諸豫算簿總括簿處分實行簿等ノ簿式アレ別ニ説明ヲ附セサルヲ以テ各簿ニ就キ記
載方ヲ參觀スヘシ但施業按中ニアル數量(喬林ニアツテハ十分ノ一矮林ニアツテハ五分ノ一)ヲ分
配スルモノナリト知ルヘシ

施業按編製心得

第一章 總則

第一條 森林ヲ保護シ之ヲ永遠ニ保護センカ爲常ニ左ノ三項ニ注意スヘシ

一 常ニ完全ノ林相ヲ維持シカメテ將來最多ノ材積ヲ産出セシムルヲ

二 適實ナル植伐法ヲ施行シカメテ風火災及虫害ヲ豫防スルヲ

三 前項ノ被害若シクハ其他ノ關係ニ據ル收額ノ減少ヲ豫想シ之レカ豫備ヲナスヲ

第二條 施業按ヲ調製スルニ當テハ左ノ業務ヲ執行スベシ

一 林地ヲ實測シ若クハ既成ノ境界圖ヲ寫用シテ基本圖ヲ製スルヲ

二 施業ノ便否及ヒ實地ノ狀況ヲ參酌シテ林地ヲ(小林區保護區林班小班ニ)區劃スルヲ

三 前項ノ各區域ハ之ヲ實測シ林相圖及ヒ面積簿ヲ製スルヲ

四 各小班ニ付キ材積ノ測定及地位林位ノ檢定ヲナシ林況簿ヲ製スルヲ

第三條 前條ノ調査ヲ終レハ各小班ニ於ケル將來施業ノ方法ヲ考按シテ作業ノ級ヲ定ムヘシ

第四條 施業期ハ喬林ヲ二十年矮林ヲ五年トス

第五條 施業按ハ林種作業ノ種類及輪伐齡ノ異ナル毎ニ即作業級毎ニ一小林區ヲ通シテ調製スヘシ

第二章 林地區劃及製圖

第六條 林地ノ區劃ハ地形及施業ノ便否ヲ斟酌シ一林班ノ面積ハ拾町歩以上五拾町歩以內ニ於テ
之ヲ撰定スヘシ

但實地ノ地形ニ據リ此制限ニ據ルヘカラサルトキハ此限ニアラス

第七條 既ニ官林境界測量内規ニ據リ實測ヲ了ヘタル場所ハ直ニ其境界圖ヲ寫用シテ基本圖及林
相圖ヲ製スヘシ

第八條 基本圖及林相圖ノ記載例ハ總テ製圖式心得ニ準據スヘシ

第九條 點々散在スル處ノ少町歩ノ森林ハ之ヲ一個ノ林班トナスモ妨ケナシ

第十條 林班ハ天然若クハ人造ノ區域ヲ以テ區劃シ其番號ハ一小林區ヲ通シテ付スヘシ但番號ノ數百ニ到ルモノハ便宜一保護區或ハ郡村毎ニ之ヲ改ルモ防ケナシ

第十一條 天然ノ區劃ハ峰谷或ハ山ノ向背其他在來ノ水流溝渠堤防及道路ニ據ルヘシ

第十二條 林班ハ可成長方形トナル樣區劃スルヲ良トス

第十三條 一林班中林相ヲ異ニスルモノアレハ一々之ヲ區分シ其面積ヲ實測スヘシ之ヲ小班トス

但シ大森林ニ在テハ五反歩以下ノ林相ハ之ヲ區別スルニ及ハス

第十四條 林班ノ界線タル主線ハ五間已内支線ハ貳間已内ヲ度トシテ之ヲ設クヘシ

但地勢ノ難易其他ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ伸縮スルハ此限ニアラス

第三章 林況調査

第十五條 既ニ前條ノ業務ヲ了ルキハ各小班ニ就キ樹種年齡地位林位ヲ査定シ及其材積ヲ測定シテ林況簿ヲ調製スヘシ

第十六條 地位ヲ檢定スルニハ各小班ノ位置土性氣候其他ノ關係ニ據リ之ヲ十等ニ別チ1,0ヲ最上位0,1ヲ最下位トシ適宜等級ヲ定ムヘシ

第十七條 林位ハ各小班毎町歩ノ材積ヲ算出シ全樹種全年度ノ林相中適當材積ヲ有スルモノヲ1,0トシ最下位ヲ0,1トシ林位ト全シク之ヲ十等ニ區別スベシ

第十八條 材積ヲ測算スルニハ全一林相中疎密相平均セル場所ニ於テ壹反歩以上ノ標準地ヲ撰ヒ其内ヨリ平均木即チ標準木ヲ撰出シ其材積ヲ測定シテ全林ノ材積ヲ推算スヘシ

但疎密適度ノ場所ヲ發見セザルキハ二三ヶ所ニ標準地ヲ設ケ又適當ノ標準木ナキハ大中小數本ニ就キ之ヲ平均シテ算出スルモ妨ナシ

第十九條 一小林區内ノ各小班ニ就キ悉ク以上ノ調査ヲ了ルキハ林況簿ニ記載スヘキ材料ヲ蒐集シ得ルガ故ニ是ニ於テ將來施業ノ方按ヲ立テ當該欄内ヘ其要略ヲ記シ以テ施業按編製ノ業務ニ移ルヘシ

第二十條 將來施業上ノ都合若シクハ其他ノ事情ニ據リ現在ノ林種ヲ變換スルノ目的ヲ以テ喬林ヲ矮林ニ編入シ又ハ矮林ヲ喬林ニ編入スルモ妨ナシ

第四章 施業按調製

第二十一條 前章ノ調査ヲ了レテ林況簿ヲ製シ將來施業ノ要略ヲ記入シ之ヲ蒐集シテ各作業級ニ編入スベキ小班ヲ定ムルキハ各作業級毎ニ面積平分簿ヲ製シテ面積ノ平分ヲナスベシ

第二十二條 一作業級ハ必スシモ相連續スル一森林タルヲ要セス數個ノ森林或ハ其一小部分ヨリ組立ルヲ得

第二十三條 他ニ同一林相ナキ特別ノ一林相アルモ面積僅少ニシテ一作業級トナスヘカラサルキハ一タビ伐採スルノ後ハ之ヲ變換スルノ目的ヲ以テ適當ノ作業級ニ編入シ若シクハ類似ノ作業級ニ合併施業スルヲ得ヘシ

第二十四條 既ニ面積ノ平分ヲ了レハ材積平分簿ヲ製シ材積ノ平分ヲナスベシ

但矮林及ビ擇伐作業ヲ施ス喬林ニアツテハ之ヲ要セズ

第二十五條 一作業級ハ力メテ連年作業ヲ施シ得ベキ面積ヲ以テ組立ツヘシ

第二十六條 各作業級共ニ生長ヲ増大スルヲ主旨トシ年度級ノ配置ヲ正シクシテ法正ノ材量ヲ豫備スルヲカムヘシ

第二十七條 既ニ前各條ノ面積及ビ材積ノ平分ヲ了レバ之ニ據テ生ズル所ノ面積材積ノ得數ヲ移載シテ施業按ヲ調製スヘシ

第廿八條 施業按ハ之ヲ別テ喬林施業按及矮林施業按ノ二種トシ各作業級ニ分ツヘシ
 第廿九條 混合林ニシテ其各樹ノ正當ノ輪伐齡相異ナルニ於テハ彼是折衷ノ輪伐齡ヲ以テ該林ノ輪伐齡トナスベシ
 但貴重ノ樹種極メテ少數ナルガ爲メ他樹伐採ノ後之ヲ存置シテ大材トナス場合ハ此限ニアラス

第三十條 水源涵養林土砂扞止林及風致林其他國土ノ保安ニ關シ皆伐作業ヲ施ス能ハザル場所ニ於テハ總テ擇伐作業ヲ施シ其他ノ森林ハ可成皆伐作業ヲ施スベシ

第三十一條 材積ハ總テ尺³(十二立方尺)ヲ單位トシテ之ヲ掲クヘシ

第三十二條 喬林并矮林施業按ニハ第二期ニ至ル迄材積ヲ顯シ第三期以下ハ只伐採面積ヲ記載スヘシ但シ擇伐作業ニ在テハ第一期前半期(十ヶ年間)ノ面積及材積ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

第三十三條 喬林施業按ニ在テハ第一期材積ノ欄内ニ間伐ノ欄ヲ設ケテ其材積ヲ記載スベシ但其材積ハ當該林相ノ疎密ニ據リ適宜之ル定ムヘシ

第五章 附則

第三十四條 本心得ニ要スル所ノ諸按簿表ノ記載例ハ別冊施業諸按簿表說明書ニ據ルベシ

第三十五條 面積簿全異動記載簿林況簿面積平分簿材積平分簿及各施業按ハ十ヶ年間目毎ニ之ヲ更製スヘシ

第三十六條 面積簿林況簿及各施業按一通ハ之ヲ本省ヘ差出スヘシ

○施業案ニ關スル諸按簿等送付ノ件(大林區署)

明治二十四年四月十三日 發三三一號山林局長通牒

今般訓令第拾七號ヲ以テ森林施業ニ要スル諸按簿表施業按編製心得等制定相成候處右ハ二十六年度豫算編製以前ニ於テ境界測量結了ノ箇所ハ右雜形ニヨリ二十六年度ヨリ施行ノ積リヲ以テ編製シ本年十二月二十八日迄ニ差出スヘシ尤モ豫算簿ハ施業按編製セサル箇所ト雖モ二十六年度ヨリ施行シ其他處分及實行簿報告表ハ二十五年度ヨリ施行候義ニ付此旨可被爲了承

○森林施業ニ要スル諸案簿表中面積記載方ノ件(大林區署)

明治廿五年九月廿一日 發第三七一號山林局長通牒

明治廿四年四月訓令第十七號ヲ以テ御制定ニ相成候森林施業ニ要スル諸案簿表中面積ハ當分ノ内町以下四(何反何畝)マテ記載スルコトニ詮議相成候條自今右ニ準シ御調製相成度

○施業案中造林實行成績取調上疑義ノ件

明治二十六年四月六日 乙第八四號福岡大林區署問合

一 御照會書中尙各小林區毎ノ實行額ト現豫算額トノ比較云々トアルハ一小林區内造林一ヶ所毎ニ記載スヘキ義ナルヲ將タ小林區内造林ヶ所幾ヶ所アルモ小林區ノ計ヲ以テ記載スヘキ義ナルヲ一表中新植補植手入面積ヲ合併一欄ヘ記載ススヘキ義ナルヲ將又夫々順次ニ區分シ記載スヘキ義ナルヲ新植補植手入等順次記載スルノ義ナレハ夫々各別表ニ調製ナサハ毎町歩ノ摘要及備考說明等記載方便且ツ判明可致右ニテ可然ヤ

(山林局長) 回答明治二十六年四月十八日

第一項 ハ從來ノ造林實行報告ニ付客月十七日發第五五號ヲ以テ御照會ニ及ヒタルモノニシテ後段御見解ノ通り小林區ノ計ヲ以テ各樹種別ニ記載ヲ要スル義ニ有之候

第二項 ハ今回ノ造林實行成績取調ニ付客月十七日發第一二號ヲ以テ御達ニナリタルモノニシテ林地植栽成績表中新植シタル年度内ニ補植又ハ手入ヲナスコトナク隨テ其面積ノ合併ヲナス要ナシ若シ前年度ニ新植シタル個所へ今年度ニ補植又ハ手入ヲナスキハ同シク新植面積ヲ掲ケルノミニシテ更ニ補植又ハ手入ノ面積ヲ合併スルニ及ハス必竟スルニ新植補植手入ハ同一面積ニ於テ異年度ニ起ス事業ニ有之尤モ事業完結ノ年度ニ於テハ新植補植、手入ヲ皆載シ隨テ此際ニハ合計摘要ニテ記載スヘキ義ニ有之候

○官林木及木材検査並引渡用極印ノ件 明治二十四年七月二十三日 省令第八號 府縣 大林區署

官有林野ノ立木又ハ木材ノ検査及引渡ニ用ユル極印雛形ノ通り相定候條自今左ノ區別ニ依リ使用ス可シ

- 一 第一號雛形檢印ハ賣渡讓與ヲ爲スニ當リ豫メ其立木及木材ノ検査ヲ爲セシトキ又ハ之レカ伐跡検査ヲ爲セシトキ其證トシテ打印スヘシ
- 二 第二號雛形拂印ハ賣渡讓與ヲ爲セシ證トシテ其立木及木材ニ打印スヘシ
- 三 第三號雛形山印ハ賣渡木ノ根株盜誤伐木材及其伐跡、境界木其他區域ヲ定メ賣渡シタル林野中存置ヲ要スヘキ立木及其境木等ニ打印スヘシ

- 四 以上三項ノ外地方ニヨリ特ニ使用ヲ要スル場合ニハ總テ山印ヲ適用スヘシ
- 五 檢印拂印ハ黒肉ヲ用ヒ山印ハ黒朱肉適宜使用スルモ妨ナシ
- 六 極印ヲ誤打セシトキハ朱肉ノ同印ニテ消印スヘシ
但朱肉ヲ用ヒタル山印ヲ消印スルトキハ黒肉ヲ用ユヘシ

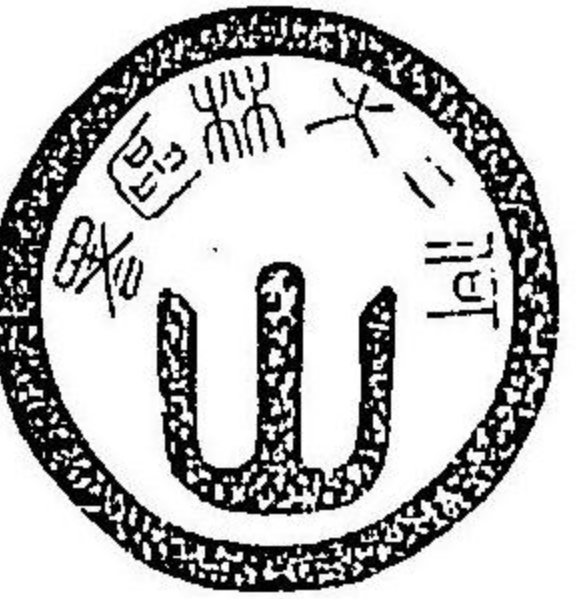
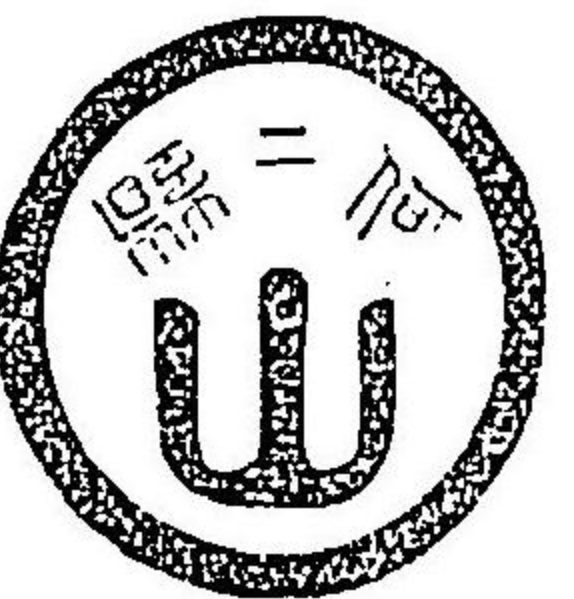
第一號



第二號



第三號



備考 徑一寸二分字體圖ノ如シ

○林產物品取扱區分方ノ件 明治二十五年一月二十日 訓令第一號

大林区署

- 一 官行事業又ハ官民分收ノ契約ニ依リ收得シタル物品ハ總テ林產物品會計規程ニ據リ取扱フヘシ
- 二 前項ノ外盜伐木末木落枝落葉ノ類ニシテ官之ヲ採集セヌ該物件所在地ニ於テ直チニ賣却スルモノハ林產物品會計規程ニ據リ取扱フヲ要セス但賣却ノ目的ヲ以テ特ニ之ヲ採集シ貯藏場ニ藏置シタルトキハ該規程ニ據リ取扱フヘシ
- 三 立木竹小柴下草其他ノ產物ニシテ土地ニ付著ノ儘賣却スルモノハ總テ林產物品會計規程ニ據リ取扱フヲ要セス

○社寺境外官林地へ石燈籠建設ノ件 明治十九年四月二十三日 滋賀縣伺

近江國愛知郡北菩提寺村押立神社境外上地

一官林反別三町四反三畝拾歩

右官林中神社裏道入口へ今般石燈籠貳基建設致度趣願出實地檢査爲致候處別紙繪圖面朱圈ノ場所ニシテ立木無之閑地ニテ他ニ障害モ無之素ヨリ崇神ノ意ニ出テ社景ノ風致ニモ相成候ニ付建設ノ義御聞置相成候様致度

(次官)指令

聞届候

○尺取方ノ件 明治二十二年四月二十七日 第二類七〇號茨城大林區署伺

二十二年四月二十五日付第一類一一三號尺取方伺ニ對スル御指令之主旨ハ根株切口之徑ヲ取リ夫レヨリ一間上リ即チ目通リヲ一寸減シ(譬へハ切口ノ徑一尺ヲ得レハ一間上ヲ九寸トシ又二尺ヲ得レハ一間上ヲ一尺九寸トスルカ如シ)ニセヨトノ儀ニ候哉

(山林局長)回答 明治二十二年四月三十日 林第五三〇二號

根株ノ徑ニ據リ目通ノ徑ヲ得算出スルノ趣意ニテ即チ御申越ノ通リニテ可然ト存候

○村長名義願書受理方ノ件 明治二十二年六月十七日 局發第一四號松本大林區署照會

村長名義ヲ以テ公共ノ爲メ官林ノ拂下ヲ請願スルモノアリ右ハ從前ノ戸長ト性質ヲ異ニスル義ニ付一村ノ代表者ト見做願書受理シ差支無之哉

(山林局長)回答 明治二十二年六月二十八日

御申越ノ通ニテ可然ト被存候

○工事及ヒ物件ノ賣買貸借ニ係ル契約書ニ署名捺印ノ件

明治二十四年五月二十日 訓令第二十四號

大林区署

明治二十二年勅令第六十號會計規則第八十一條ノ規定ニ據リ工事及ヒ物件ノ賣買貸借ニ係ル契約

書ハ其署長之レニ署名捺印スヘシ
但林産物公賣規程ニ據リ公賣ニ付シタル賣買契約書ニハ小林區署長又ハ大林區署派出所筆頭者
ヲシテ之レニ署名捺印セシムヘシ

○官林潰地ニ關シ照會方ノ件(大林區署)

明治二十四年六月二十七日
戊第三七八號山林局長通達

地方廳ニ於テ道路開鑿等ノ爲メ官林内ニ潰地ヲ要スル節署限リ處分致スヘキ旨去ル二十一年十二
月林第六〇一號達ノ趣モ有之候得共右ハ本年三月戊第一三一號ノ一達及全年五月戊第二八六號達
ニ依リ消滅セシ義ニ候處今般別紙ノ通り各府縣へ通知致シ置候間自今地方廳ヨリ照會有之候節ハ
意見ヲ附シ經伺ノ上差支ノ有無ヲ回答シ追テ引繼方請求ノ節ハ直ニ引渡シ林簿訂正方申出ツベ
シ

(別紙)各府縣神奈川、山梨、靜岡、愛知、及沖繩ヲ除クへ地理兩局長ヨリ通知月日番號
前同職

從來道路堤塘又ハ公共ノ溜池水道開鑿改修ノ爲官林内ニ於テ潰地ヲ要セラレ候節ハ内務農商務兩
大臣宛ヲ以テ御稟伺可相成例ニ候得共自今官林内潰地ノ義ハ總テ大林區署へ照會相成兩大臣へ
ハ別ニ御伺出ニ不及候尤モ内務大臣へハ地目變換ノ後内務報告例ニ依リ報告相成可然
追テ山林原野ニ係ル分ハ從前ノ通り御取扱相成ルベキ義ニ付爲念申副候

○借地延期ニ關シ取扱手續ノ件

明治二十四年十月二十一日一類第三二四號
廣島大林區署伺

茲ニ官林借地人ヨリ假令ハ日數三十日間貸付有之借地人ニ於テハ其三十日間ニ借地使用ノ目的ヲ

果ス筈ナルヲ期滿ノ際豫期外ノ障礙ニ因リ使用ノ目的ヲ果ス能ハサルヲ以テ期滿ノ當日尙翌日ヨ
リ日數二十日間ノ延期ヲ出願シタル場合ノ如キ之カ許否ノ指令ヲ下スハ大林區署ナルカ故ニ小林
區署ニ於テ之ニ意見ヲ付シ大林區署ニ進達セサルヘカラス大林區署ニ假令ヒ即時ニ之カ指令ヲ與
フルト雖モ往復ノ爲メ數日ヲ經過スルニモ拘ラス指令後尙代金納付濟ノ時日ヲ見計ヒ何月何日ヨ
リ二十日間ノ延期ヲ許スト云フカ如キ指令ヲ與フルルハ出願者ノ意志ニ反スル譯ニ相成且又該借
地ニシテ小屋掛等ヲ爲シ居ルモノニ在テハ其間尙小屋掛ヲナシ居ルニモ拘ラス指令後ノ相當日ヨ
リ許可スルトノ指令ヲナスカ如キハ事實ト齟齬スルヤ勿論ノ義ニ有之候得トモ本省訓令第十一號
徵收規程第二條第三項ニ(料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス)ト有之以上ハ
勢ヒ前陳期滿後料金納付濟迄ノ數日間ハ自然借地料金納付前ノ地所ヲ貸與セル姿ト相成右ノ如キ
場合ニ於テ該第三項ハ到底適用シ能ハサル義ニ付右等ノ場合ハ敢テ右第三項ニ拘ラス延期出願ノ
日ヨリ之レヲ許可シ借地料徵收致可然ヤ

又徵收規程二條第三項ニ抵觸不都合ナリトセハ右ノ如キ期限切迫不得已場合ニシテ小林區署ヨリ
大林區署へ申牒ノ違モ無之件ニ限リテハ公賣規程第二十二條ノ例ニ依リ小林區署長ニ於テ料金徵
収ノ上延期ノ許可ヲナシ處分濟届出サセ候外無之候處右様取扱候テモ差支無之義ニ候ヤ

(大臣)指令 明治二十四年
十月三十一日

月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付ニシテ不可抗ノ原因ニヨリ借他人其期限内ニ使用ノ目的ヲ果ス
能ハサルモノニシテ小林區署長ヨリ大林區署長へ稟議ノ違ナキモノニ限リ後段伺ノ通り取計フヘ
シ其他ノ場合ニ於テハ事業中止セシムヘキ義ト心得ヘシ

○官民區別伺書ニ添屬スル證據書類差出方ノ件(府縣)

明治二十五年三月十四日
訓令戊第二十七號

各府縣

土地立木官民有區別伺書ニ添屬ノ證據書類ハ是迄本紙ノミヲ差出シタル分モ有之候處自今各證據書類ハ其廳ニテ謄寫シ本紙共差出スヘシ

○各大林区不動産登記方ノ件

明治二十二年十二月二十六日
訓令第四十二號

各大林区署

各大林区署ニ於テ不動産地所家屋登記ヲ要スルトキハ其大林区署用トシテ其登記ヲ求ムヘシ

○土地賣買登記ノ件(各府縣)

(神奈川、愛知、山梨ヲ除ク)

明治二十五年三月十八日
第一一二號山林局長通牒

登記法第十條ニヨリ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ登記ヲ求ムルノ際地所建物ニ係ルモノハ同法第七條ニ依リ接續地ニ係ルモノト雖モ番地毎ニ相當反別ヲ以テスヘキハ當然ノ手續ニ候處當省所管ノ官有森林原野ノ如キハ其接續地ニ係ルモノハ往々台帳中合記候モノ有之趣ニテ右ノ場合ニ際シ相當番地ヲ求メントスルハ容易ナラサル手數ニ付當省大臣ヨリ司法大臣ヘ照會ノ次第モ有之候處別紙寫ノ通り訓令置候旨回答有之候

(別紙)

司法省民第九三號

地方裁判所
區裁判所
登記所

官有ノ地所ヲ拂下ケ又ハ無代價下渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記法第十七條及ヒ第十六條ニ依リ登記ヲ請求スルニ當リ其接續地ニ係ルモノハ請求書ニ官地台帳ニ依リ數地番號又ハ數地番號ノ一部ノ合反別ヲ記スルコトモ有之ヘキ筈ナルヲ以テ登記官吏ハ請求書ニ從テ登記ヲ爲シ追テ土地台帳所管廳ヨリ變換ノ通知アルヲ俟チ之ニ依リテ追記スルノ手續ヲ爲スヘキ儀ト心得ヘシ
右訓令ス

○官林及官有山林原野賣買讓與ノ際登記手續ノ件(府縣)

(神奈川縣、愛知、山梨縣ヲ除ク)

大林区署

明治二十五年十二月二十九日
戊第一三六號山林局長通牒

官林及官有山林原野ヲ賣買讓與若クハ交換スルニ當リ登記取扱方ノ件ニ付當省大臣ヨリ司法大臣ヘ照會相成候處別紙寫ノ通り夫々訓令置候旨回答有之候

(別紙)

司法省民第四三號

地方裁判所

區裁判所
登記所

官林及官有山林原野ノ賣買讓與若クハ交換ノ場合ニ於ケル登記取扱方左ノ通心得ヘシ

第一 官林及官有山林原野ノ賣買讓與若クハ交換ニ付官廳ヨリ登記ヲ求ムルニ當リ實測段別ト臺帳反別ヲ併記シタルトキハ實測反別ニ依リ登記ヲ爲シ其側ニ臺帳反別ヲ附記シ土地臺帳所管廳ニ登記濟ノ通知ヲ爲スニモ臺帳反別ヲ附記スヘシ

第二 前項ノ場合ニ於テ其物件已ニ登記簿ニ記載シアルトキハ同時ニ變更ノ登記ヲ爲シ更ニ一件トシテ取扱フヘシ

第三 官有山林原野ノ賣買讓與若クハ交換ニ付キ登記ヲ求ムルニ當リ臺帳段別ノミヲ記載シタル場合ニ於テハ臺帳段別ニ依リ登記ヲナスヘシ

第四 官林ヲ民有ト爲シタルニ依リ登記ノ求メアリタル場合ニ於テハ山林トシテ登記ヲ爲シ官有山林原野ヲ民有ト爲シタルニ依リ登記ヲ求メ而シテ新舊地目ヲ併記シタル場合ニ於テハ新地目ニ依リ登記ヲ爲シ土地臺帳所管廳ニ登記濟ノ通知ヲ爲スニハ舊地目ヲ附記スヘシ
右訓令ス

○私訴裁判執行期限ノ件

明治二十四年六月十三日
甲第二九〇號鹿兒島大林區署伺

官林盜伐被告事件ニ關シ損害要償ノ爲メ相當裁判所へ附帶私訴申立候處裁判所ハ之レカ裁判ヲナシ原告要求金額ヲ言渡サレタル場合ニ於テ其裁判確定以後執行期限ノ義ニ就テハ別段法規モ無之候得共明治十一年二月司法省ヨリ太政官へ伺指令ニシテ全年三月十一日全省丁第九號大審院諸裁

判所へノ達ニ依レハ裁判執行ノ出訴期限ハ訴訟原接ノ種類ニ拘ハラズ滿五年ト定メラレタルニ付該私訴裁判執行期限モ裁判確定ノ翌日ヨリ起算シ滿五個年ト心得可然哉

(山林局長)電報指令 明治廿四年七月四日
林第六七二七號

伺ノ通リ

(右參照)

山林局長ヨリ司法省民事局長へ照會 明治二十四年六月二十三日
第六七二七號

裁判執行ノ出訴期限ノ義ニ付テハ去ル十一年三月丁第九號ヲ以テ貴省ヨリ大審院諸裁判所へ御達ノ趣モ有之候處右ハ民事訴訟法實施以後ハ消滅ニ歸シタル義ニシテ民事裁判ノ執行ハ時効ヲ生セサル義ト思量致候得共聊カ疑似ニ涉リ候

(民事局長)回答 同月三十日
司法省民第一〇三三號

本年六月二十三日第六七二七號ヲ以テ御照會ノ件明治十一年當省丁第九號達ハ民事訴訟法ノ實施ニ因リテ消滅スルコトヲ得サルモノト致思考候

○崖地崩落官費支給方ノ件

明治九年十二月二十七日
兵庫縣伺

縣下攝津國第八區武庫郡神呪寺村木村八良右衛門所有地へ門戸村天神社上地崩込取除方費用支給之儀本年十月二十七日付ヲ以テ伺出候處十二月七日御指令ノ趣モ有之尙取調候ニ元來天神社除地ノ儀ハ門戸村ノ飛地ニテ其前面ハ神呪寺村ニ接續シ木村八良右衛門所持宅地反別壹畝九歩ノ場所ハ社地附ト居村附ト道路ヲ界シ双方ニ引分ケ居リ居村附ノ方ハ居宅ヲ構へ社地附ノ方ハ農業働場ニ用來リ候事ニ有之然ルニ本年六月九日夜強雨之節社内ノ山土拾五坪程其働場へ崩落差支右ハ其

損害官地ヨリ生シ候儀ニ付官費支給可然哉

圖而除之

(内務卿)指令 明治十年三月十七日

崖地崩落之儀ハ不虞ノ天災ニ罹リ候者ニテ猶震災ノ丘陵ヲ崩シ水災ノ隄防ヲ決スルト同一ノ儀ニ候得ハ隨テ取片付入費ノ儀モ官ヨリ支給難致筋ト可相心得事

○官有地中ノ木石降雨ノ爲メ顛覆障碍等ニ關シ取除方費用官民區分

ノ件 明治十年九月八日 島根縣伺

本年七月三日付ヲ以テ官有地中ノ木石降雨ノ爲メ顛覆ノ危険ヲ現ハシ或ハ顛覆シテ人家又ハ往來ノ障碍トナルノ類取除方費用官民區分之儀相伺候處同月三十一日付ヲ以伺之趣兩條共天災同様之儀ニ付其取除費用ハ官ニ於テ支給不致儀ト可相心得旨御指令有之今民有地ニ同様ノ事アツテ甲所有ノ木石乙人家ノ障碍ヲナストキハ情義ニ於テ甲之ヲ取除ケサルヲ得サルニ似タリ然ルニ官地ノ分ハ天災同様被難者ノ自費或ハ區費ヲ以テ取除ケ候ハ條理ニ於テ如何ニ有之哉殊ニ人民保護上ニ係リ危急ト認ムルトキハ警察官ヨリ直チニ取除方及指圖候儀モ可有之右等モ都テ人民ノ私費トナスハ不穩當ノ様相考候

(内務卿)指令

官地ノ木石天災ニ因テ既ニ顛覆シ入家或ハ往來ノ障碍トナル者實際取除ケサルヲ得サル場合ニ於テ其官有地ニ係ル者及ヒ未タ顛覆ナサスト雖トモ既ニ顛覆ノ危険ヲ現シタルニ付取除ケサルヲ得サル者官吏ノ指圖ニ據リ生スル其取除費用ハ可下渡候條篤ト實況取調明瞭之繪圖面相添可申出

○官林壞崩取片付ノ件 明治二十二年二月十五日

一類第四二號高知大林區署伺

土佐國幡多郡不破村官林字中山ノ内幾部分降雨ノ爲メ同官林ニ接續スル民家并ニ耕地ニ崩レ懸リ候ニ付其土石取除ケ及ヒ自今壞崩セサル様防キ方受度段被害主ヨリ願出候ニ依リ取調爲致候處土崩之義ハ願主申立之通り相違無之而シテ崩レタル原因モ亦願主カ云フ如ク降雨ニアリト查察候趣復命致候尤同官林ハ客年別ニ一回崩壞尙崩レタルノ狀況アルニ依リ其豫防方ニ付同年八月十四日電報ヲ以テ相伺同年同月十八日電報御指令ノ末豫防施行候義有之候得共今般崩土取除等出願ニ係ル壞崩ハ右豫防ヲ施シタルニ原因スルモノニ無之義ハ願主ヨリモ降雨ノ爲メ崩レタル趣ヲ申立實查員モ亦同様原因ハ降雨ニアルモノト查察候旨申立候ニ付人爲ニ因リテ崩レタルモノニ無之義ハ明ニシテ畢竟客年一回ノ豫防ヲ施行シタルハ官ニ於テ官林保護ノ點ニアリシ而シテ官林保護ニ接續民地ノ迷誤ナラサル様防禦スヘキ箇所ナシトセサルモ本山之如キハ近ク官ノ起業等ヨリ起レル崩壞ニアラスシテ積年ノ欠損近來度々ノ大雨ニ崩壞セシ儀ナレハ右ノ如ク天變ヨリ生スル事件ニ於テハ被害人民ニ説諭シ既崩ノ土砂民地内ニアルモノ、自費取除ハ勿論官林地内勝手ニ防禦差許シ候方至當ト被存既ニ客年崩壞ノ場合ニモ民地内へ崩壞ノ土砂ハ所有主ニ取除シメタル儀ニ有之候條右ノ針路ヲ以テ取扱候様致度

(大臣)指令 明治二十二年四月八日 林三六三八號

見込ノ通取計フ可シ

但天災ニ罹ルト雖モ都合ニヨリ崩落物ヲ官ニ於テ取片付ルトキハ其取片付ニ就キ生スル損害ハ之ヲ償フヘシ

○官民林境界木伐採願ノ件

明治十八年十二月二十八日 福岡山林事務所伺

豊前國田川郡上落合村人民總代手島雄藏外一名ヨリ同村字長谷山共有山林立木伐採ニ付境界検査ノ義出願ニ依リ所負派遣實地踏查爲致候處右ハ豊前筑前兩國ノ國界且筑前國上坐郡小石原村字宿平壹等官林トノ境界線中央ニ有之立木杉木 榎木 櫻木 五寸ニシテ將來必要保存スヘキモノト見込爲説諭ヲ加ヘ別紙甲號ノ通受書ヲ徴シ候處尙又乙號ノ通り出願依テ縣官立會ノ上實地踏查スルニ前陳之通り境界線ノ中央ニ有之立木ニシテ半ハ官林ニ在テ強チ官林木トハ難申取モ直サス官民林境界木ナルモ別紙繪圖面ノ如ク該境界ハ國界ニテ從來石塚建設判然敢テ保存セサルモ差支無之且前陳ノ通一應説諭候モ重テ出願候次第ニテ強テ之カ伐採ヲ拒ムノ權理モ無之様被相考候右等ハ伐採差許該木ノ相當代價ノ半額ヲ上納爲致候様取計ヒ可然哉

(山林局長)指令

伺之趣聞届候條處分濟可届出事

○耕地接續官林蔭伐之件

明治十九年三月二日 主税局照會

官有山林ニ接續セル耕地ヲ所有セルモノニシテ從來其官有山林中耕地ニ密接セル部分ノ樹木ヲ數間通り木障伐又ハ蔭伐ト稱シテ年々伐採セシ慣習アリシト雖トモ近來禁止ノ姿トナリ其樹蔭耕地ヲ掩ヒ作物ヲ害スル趣ヲ以テ苦情申立ツルモノアリ
右ハ更ニ蔭伐ノ願立ヲ爲サ、ルニ付許可セラレザリシト雖モ古來ノ慣習ヲ申立從前ノ通蔭伐致度旨願出候ハ、御聞届可相成義ニ有之候哉

(山林局長)回答

蔭伐ノ義ハ官林ノ樹木耕地へ横出シ直接障害ヲ爲スモノニ限リ伐採許可相成來候義ニ有之候尤其他ノモノト雖トモ實際障害ノ景況如何ニ依リ古來ノ慣習ニ拘ハラズ詮議可相成義モ可有之ト存候

○電信線路支障樹木枝葉處分方ノ件

明治廿一年十月二十六日 達遞林甲第一二號ノ二

大林区署

電信線路支障樹木枝葉處分方ノ義遞信省ヨリ照會ニ對シ別紙寫ノ通及回答置候ニ付向後右ニ照準取計フヘシ

別紙

(大臣)回答明治二十年十一月二十二日

本年九月十四日付上申第五一七號ヲ以テ電信線路支障樹木伐採方ノ義ニ付御照會ノ趣了承樹幹伐採ノ節ハ大林区署員ト貴省掛リ吏員立會檢印シ枝葉ハ大林区署へ御照會ノ上伐採取計ヒ右伐採ニ係ル費用ハ勿論樹幹枝葉ハ大林区署ニ於テ公買ニ付シ若シ見込價額ニ不達節ハ貴省ニ於テ不足代價大林区署へ補給相成候様致度尤モ既設電線枝葉生長ノ爲メ支障ヲナス場合ニ立至リ候節ハ伐採ニ係ル費用ヲ御支出マテニシテ賣却代ノ不足分ハ別段御補給ニ不及候

○擅伐木辨償ノ件

明治二十三年三月二十四日 國林第一二號愛媛大林区署伺

(前略)

右拂下ノ儀出願候ニ付取調候處本件ハ客年九月中暴風雨ノ爲メ香川縣下金倉川漲溢シ堤塘將ニ破壊セントスルニ際シ村民一同土俵ヲ投シ防禦候處水勢益相加ハリ頗ル危険ニ迫リ候ニ付同村戸長之レカ指揮ヲ爲シ前書官林ニ於テ立木ヲ伐採シ水刳用ニ供シタル儀ニ有之右ハ急遽不得止ノ場合ニ出タルモノト雖モ其所爲擅伐ニシテ甚タ不都合ナルノミナラス將來取締上ニモ關係候間該戸長擅斷ノ所爲ハ地方廳へ處分方ヲ移牒シ而シテ使用ノ木材ハ尋常拂下ノ手續ニ據ラスシテ相當代價ヲ辨償セシメ可然哉

(大臣)指令 明治二十三年四月十五日
林二六五七號

相當代價ヲ辨償セシメ候義ト心得ヘシ

但戸長擅斷ノ所爲ハ地方廳へ移牒ニ及ハス

○軍隊野外演習及測量施業中林木伐採シタル處分方ノ件

明治二十三年六月二十日
甲第一九七號東京大林區署伺

軍隊野外演習ノ節林木處分方之義ニ付別紙寫之通千葉縣印旛下埴生南相馬郡長ヨリ照會有之候處右ハ一々照會之未處分スヘキハ勿論ニ候得共演習上臨機不得止場合ニ限り處分後報告爲致夫ニ對スル相當賠償請求致シ可然哉

(別紙)

軍隊野外演習之節演習上都合ニ依リ臨時官林ノ立木ヲ伐採或ハ官林内ノ地ヲ堀鑿セサルヲ得サル場合有之候ヘトモ素ヨリ其機ニ臨テナスモノナレハ是カ通知又ハ照會ヲ遂ケテ後施行スル能ハス

依テ如此時ハ直ニ伐採或ハ堀鑿ヲナシ而シテ軍隊ヨリ貴署へ報告セハ貴署ニ於テ御處分相成候義ニ可有之哉

(山林局長)回答 明治二十三年七月十五日
林五五七〇號

右ハ別紙寫之通參謀本部測量部ト往復シ各大林區署へモ通牒致置候例モ有之候ニ付其伐採ニ係ル立木ハ右ニ準シ御取扱有之度又堀鑿ニ係ル林地ニ對シテハ原形ニ復スヘキ必要ノ箇所ハ相當賠償請求相成可然

(別紙)

參謀本部陸軍部測量局ニ於テ從來測量施業中官林立木伐採後該伐採木處分之義ニ付別紙甲號寫之通照會ニ付乙號寫之通及回答候條自今該伐採木ハ貴署ニ於テ賣却シ收入金見込高ニ不足ヲ生シ候トキハ其不足分丈同局へ請求候様御取計有之度

(別紙)陸軍測量局長照會

從來當局ニ於テ測量施業中御局御管轄ノ官林致伐採候後該伐木處分方ノ義區々相成不都合不勘候ニ付爾今ハ右伐木ハ貴管下林区署ニ於テ賣却シ收入金御豫算高ニ不足ヲ生スルトキハ其不足分丈當局ヨリ致償却候事ニ致度右御承諾相成候上ハ各林区署へ御達置相成度

(山林局長)回答

各大林区署へ通牒致置候

○道路改修測量ノ際障碍木竹伐除ノ件

明治二十四年十二月十九日
發第七一三號熊本大林區署伺

道路改修ニ際シ路線撰定ノ都合ニ依リ見當線ニ支障アル官林ノ木竹等不得已場合ニ於テハ技術官

ヲシテ直ニ伐除セシメタキ旨地方廳ヨリ照會アルトキハ伐採ノ都度當該小林區署ニ通知セシムル
コトニ協議シ差支ナキ旨ヲ回答シ置キ該木竹ハ追テ公賣相當ノ處分致シ可然ヤ
(大臣)指令明治廿五年一月十三日
小林區吏ヲシテ實査セシメ營林上差支ナキモノニ限り伺ノ通り取計フヘン

○鐵道豫定線測量ノ爲メ支障木等伐採ノ件

明治二十五年十月十五日
訓令戊辰第九四號
大 林 區 署

鐵道豫定線測量ノ爲メ官林内支障木竹等伐採方ノ件ニ付別紙甲號ノ通り照會候處乙號ノ通り回
答有之候條此旨心得ベシ

(別紙)

甲號(大臣)照會

鐵道廳ニ於テ鐵道敷設法ニ依リ追々第一期豫定線測量ニ着手相成ル趣ニ候處右ニ付各地官林内
ニ於テ該支障木竹等ノ伐除ヲ要スルモノ夥多可有之ト存候然ルニ右伐採ノ都度所轄林區署員ヲ立
會ハシムルハ相互事業上ノ進歩ヲ阻碍スルコトナシトセス加之其手數容易ナラサル義ト存候然ル
處參謀本部陸地測量ニ就テハ會テ別紙寫ノ通り協議相纏マリ居候間鐵道廳ノ分モ右同様取扱致度
ト存候

乙號(逓信大臣)回答

鐵道廳ニ於テ鐵道敷設法ニ依リ豫定線測量ニ際シ官林内支障木竹伐除ヲ要候節取扱手續ニ關シ
戊辰第九四號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御申越ノ手續ニ依リ處理致度候ニ付鐵道廳長官ヨリ諸事可

及御照會候間其筋へ御通達置有之度

○楮ハ一時季節アル副産物ナルヤノ件

明治十八年二月五日
高知山林事務所電信伺

楮ハ一時季節アル副産物ト心得及然哉若シ上疑ニ候ハ、季節切迫セリ本年限り處分方委任相成度

(山林局長)電信指令

楮ハ前段ノ通心得處分セヨ

○官林内ニ斃レタル獸類拂下處分方ノ件

明治十八年五月十二日
三重縣照會

管下官林中豺狼ノ害ニ罹リ斃レタル猪鹿兔等間々有之ト雖モ其儘腐敗スルアリ或ハ何者トモ不知
持去ルアリテ別段取扱ノ手續無之右ハ森林ノ物産ト言フニモ非サレトモ多少ノ代價ヲ生スルモノ
ニ付渾テ官林中ニ斃レタル禽獸ノ如キハ公入札ヲ以テ可拂下ハ當然ニ候得共日數ヲ經過候テハ腐
敗ノ憂モ有之ニ付發見者へ相當代價ヲ以テ拂下代金ハ森林收入へ收入可然哉

(山林局長)回答

猪鹿ノ類ト雖トモ山林産物ト看做シ渾テ御見込ノ通御取計可然義ト存候

○官林内ニ生スル葦類採取中下草苻取落葉搔取差止ノ件

明治十九年三月十五日
愛媛山林事務所伺

各官林内落葉下艸搔妨許可相成居候箇所ニ生スル一季副産物即蕈類之如キ其季ニ臨ミ公賣候モ該搔妨人入會爲メニ蹂躪セラル、所トナリ隨テ公賣代價ニ差響ヲ來タスル箇所不少様被存候就テハ今後該公賣拂下揭示之日ヨリ採取濟迄凡四十余日間搔妨人入林ヲ禁スルヨリ他ニ方法無之義ト存候得共最初搔妨許可之際別段約束モ無之者ニ對シ突然右様施行候テハ彼是苦情モ可不少ト存候ニ付自今以後年季明キ繼年季許可ノ者ヨリ施行致度ト存候條其旨指令シ且請書取置候様致度右様取計可然哉

(山林局長)指令

開届候

参照

各山林事務所へ通牒(第二課)

官林内ニ生スル蕈類採取中下草刈取落葉搔取差止ノ義ニ付別紙寫ノ通愛媛山林事務所ヨリ稟議ニ對シ御指令相成候

鑛業

○鑛業條例

明治二十三年九月二十五日
法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ之ヲ公布セシム
鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)流化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルヲ得ス鑛業人未成人瘋癲白痴又ハ瘡痼ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出スヘシ總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半数ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス
試掘人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ己ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得
第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス

第十二條 採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ヲ期限内ニ差出サハルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條 採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ
第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキ

ハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登録簿ヲ備置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登録ス
第十六條 試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルキハ其ノ出願ヲ無効トス
出願ノ時日同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條 農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得
採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登録ヲ受クヘシ其ノ登録ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スヲ得ス

第二十二條 他人認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ
 試掘人自ラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ
 鑛業人自ラ試掘若ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ探掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ探掘若クハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河川、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ探掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ
 前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サ、ルトキハ農商務大臣ハ其ノ探掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ探掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ着手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六ヶ月毎ニ追補スヘシ
 鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下附ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルモノハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消ス可シ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラヌ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製産物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ

記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出サルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキ

ハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ探掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 試掘又ハ探掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必用トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
- 一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲
- 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河溝渠及溜池ヲ開設スル爲
- 一 鑛業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

- 一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ
- 一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サ、ルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルルハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ
土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ
土地借受人右期限内ニ取除ヲナサ、ルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シタルハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其土地全部ノ買取苦クハ借受ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムルコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證

金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地金賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
- 一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
- 一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務

大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ着手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人所在不明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ
- 一 礦業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ
- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
- 一 礦業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ
- 第六十七條 左ノ場合ニ於テハ礦夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得
 - 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ
 - 一 礦業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ
 - 一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ
- 第六十八條 礦業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル礦夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

礦業人證明書ヲ與フルヲ拒ムカ又ハ礦夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得
- 第六十九條 礦業人ハ礦夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ任拂フヘシ礦夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ任拂フ爲スコトヲ得ス
- 第七十條 礦業人礦夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ
- 第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ礦夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得
 - 一 一日十二時間以上就業時間ヲ制限スルコト
 - 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト
 - 一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 第七十二條 礦業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入工夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署

ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 礦夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト
- 一 前項ノ場合ニ於テ礦夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
- 一 前項ノ負傷ニ由リ礦夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト
- 一 前項ノ負傷ニ由リ痲疾トナリタル礦夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章 礦業税及鑛區税

第七十三條 礦業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三拾錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス

鑛鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區税ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納税期限内ニ鑛業税及鑛區税ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ置金ヲ處ス

第七十九條 認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ着手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ逋税シタル者ハ其ノ逋税金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋税ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章 附 則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

○鑛業手数料ノ件 明治二十五年三月十四日 勅令第二十六號

朕鑛業ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 鑛業ニ關シ次ニ掲ケタル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 試掘認可願 一件毎ニ金參圓
 - 一 試掘地訂正願 一件毎ニ金壹圓
 - 一 試掘延期願 一件毎ニ金壹圓
 - 一 採掘特許願 一件毎ニ金拾五圓
 - 一 鑛區訂正願 一件毎ニ金五圓

廿六年三月十八日省令第六號ニテ第十條「但書」下ノ如ク改正

依ルヘシ

第九條 試掘延期ハ滿期三十日前ニ出願スヘシ

前項ノ願書ニハ試掘ノ成績及ヒ事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ明記スヘシ

第十條 鑛業條例第十三條ニ依リ鑛物ノ存在ヲ證明スルニハ其鑛物ノ標品ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

但舊坑又ハ地質鑛床ノ狀況ニ依リ出願鑛物ノ存在ヲ證明シ得ルトキハ標品ヲ採取スル能ハサル場合ニ限リ證明書ヲ以テ標品ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ採掘願書ニ其證明書ヲ添フヘシ

第十一條 標品ハ本則第二十六條第二項ノ手續ニ依リ採掘願書ト同日ニ差出スカ又ハ出願ノ日ヨリ七日以内ニ所轄鑛山監督署ニ持參スヘシ

但流動物其他郵便ニテ差出スヲ得サル標品ハ出願ノ日ヨリ七日以内ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ差出スヘシ

第十二條 試掘又ハ採掘ノ出願人所轄鑛山監督署ヨリ出願地臨檢ノ通知ヲ受タルトキハ指定ノ期日ニ臨檢ニ立合フヘシ

第十三條 鑛業特許證ノ書換又ハ採掘權書入ノ登録ヲ出願スル者ハ其願書ニ鑛業特許證ヲ添フヘシ

第十四條 坑内實測圖ハ毎年一月七月ノ兩度ニ之ヲ調製シ前半期末日ノ現況ヲ記載スヘシ

坑内實測圖ハ前項調製期月ノ翌月中ニ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

第十五條 鑛業條例第三十一條第三項ノ證明書ヲ必要トスル者ハ其理由ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

廿六年三月十八日省令第六號ニテ本條ヲ追加ス
全上省令ヲ以テ「第十三條」ニ改ム
全上省令ヲ以テ「第十四條」トシ其第二項「(期月)」ノ下「(翌月)」ノ三字ヲ追加ス
全上省令ヲ以テ「第十五條」ニ改ム

全上省令ヲ以テ「第十六條」ニ改ム
全上省令ヲ以テ「第十七條」ニ改ム
全上省令ヲ以テ「第十八條」ニ改ム
全上省令ヲ以テ「第十九條」ニ改ム

第十六條 鑛業特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ十日以内ニ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十七條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ鑛業ヲ廢止又ハ讓渡シタル場合ニ於テハ廢業又ハ讓渡ノ日ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

第十八條 鑛業條例第四十七條ニ依リ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

但土地ノ管理者ニ於テ承諾シタルトキハ認可ヲ要セス

第十九條 鑛業條例第三十五條第三十六條又ハ第五十五條ニ來リ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條土地貸渡ノ場合ニハ前項書類ノ外建設スヘキ工事ノ設計書ヲ添フヘシ

第二十條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辨明書ヲ差出サシムヘシ

第二十一條 試掘人ハ試掘地圖ヲ鑛業人ハ左ノ書類ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

一 鑛區圖

二 坑内實測圖

三 鑛業施業案

四 鑛業條例第四十條ノ帳簿

第二十二條 鑛業人自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ其鑛山ニ代理人ヲ置キ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項代理人ノ權限左ノ如シ

全上省令ヲ以テ「第二十一條」トシ下ノ如ク改正

増若ク減 何市町村大字小字

官地又ハ民地
地種地目 何坪

合計若ク差引 何坪

右ノ場所ニ於テ試掘致度候處何々事由ヲノ爲メ區域訂正致度ニ付認可相成度別紙訂正試掘地圖
相添へ此段相願候也

年月日

住所族籍

鑛業人

氏

名印

又ハ共同鑛業人總代

氏

名印

何鑛山監督署長氏名殿

第三號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘延期願

何年何月何日認可第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

何坪

右ノ場所ニ於テ試掘致居候處何々事由ヲノ爲メ付尙試掘繼續致度延期認可相成度此段相願候也

住所族籍

鑛業人

氏

名印

又ハ共同鑛業人總代

氏

名印

何鑛山監督署長氏名殿

第四號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

何鑛採掘特許願

何府縣國郡市町村大字

小字

全地

官地又ハ民地
地種地目

何坪

小字

ノ内

官地又ハ民地
地種地目

何坪

合計

何坪

右ノ場所ニ於テ(標品若クハ證明書)ノ通リ鑛物存在候ニ付採掘致度候間特許相成度鑛區實測圖面
相添へ此段相願候也

住所族籍

願人

氏

名印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣氏名殿

第五號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛區訂正願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

増若ク減 何市町村大字小字

官地又ハ民地
地種地目 何坪

合計若ク差引 何坪

右ノ場所ニ於テ採掘致候處何々事由ヲノ爲メ鑛區訂正致度ニ付許可相成度別紙理由書訂正鑛區
圖及ヒ鑛業特許證相添へ此段相願候也

年月日

農商務大臣氏名殿

第六號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛業特許證書換類

何年何月何日特許

一第何號鑛業特許證

右探掘權今般(賣買又ハ讓與)ノ契約相整候ニ付鑛業特許證書換相成度特許證相添ヘ此段相願候也

年月日

住所族籍

賣渡又ハ譲渡人

氏名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印
共同鑛業人半數以上連署連印スヘシ

住所族籍

買受又ハ讓受人

氏名印

但組合人アラハ連署連印スヘシ

農商務大臣氏名殿

第七號

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

探掘權書入登錄願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

何坪

右今般何府縣國郡市町村大字番地何某ニ金何圓何十何錢ノ抵當トシテ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄書入ノ契約相整候間登錄相成度連署連印ヲ以テ此段相願候也

住所族籍

鑛業人

氏名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印
共同鑛業人半數以上連署連印スヘシ

債權者

氏名印

但連帶債權者アルトキハ連署連印スヘシ

何鑛山監督署長氏名殿

第八號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛區合併願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

何坪

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

何坪

合計

何坪

右鑛區合併致度候間許可相成度別紙合併鑛區圖並ニ鑛業特許證相添へ此段御願候也

年月日
住所族籍
鑛業人 氏 名 印
又ハ共同鑛業人總代 氏 名 印
農商務大臣氏名殿

第九號(正副三通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛區分割願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

此分割

一何府縣國郡市町村大字小字

一何府縣國郡市町村大字小字

右ノ通鑛區分割致度候間許可相成度別紙分割鑛區圖及鑛業特許證相添へ此段相願候也

年月日
住所族籍
鑛業人 氏 名 印
又ハ共同鑛業人總代 氏 名 印
農商務大臣氏名殿

第十號

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

鑛業特許證再下附願

何年何月何日特許第何號

一何府縣國郡市町村大字小字

何坪

右特許證何々事由ノ詳記ノ爲メ(毀損若クハ亡失)致候間更ニ御下附相成度此段相願候也

住所族籍
鑛業人 氏 名 印
又ハ共同鑛業人總代 氏 名 印
農商務大臣氏名殿

雛形第一號 用紙美濃紙

(試掘圖ハ三通鑛區略圖ハ三通)

何鑛試掘地圖 又ハ鑛區略圖

住所族籍

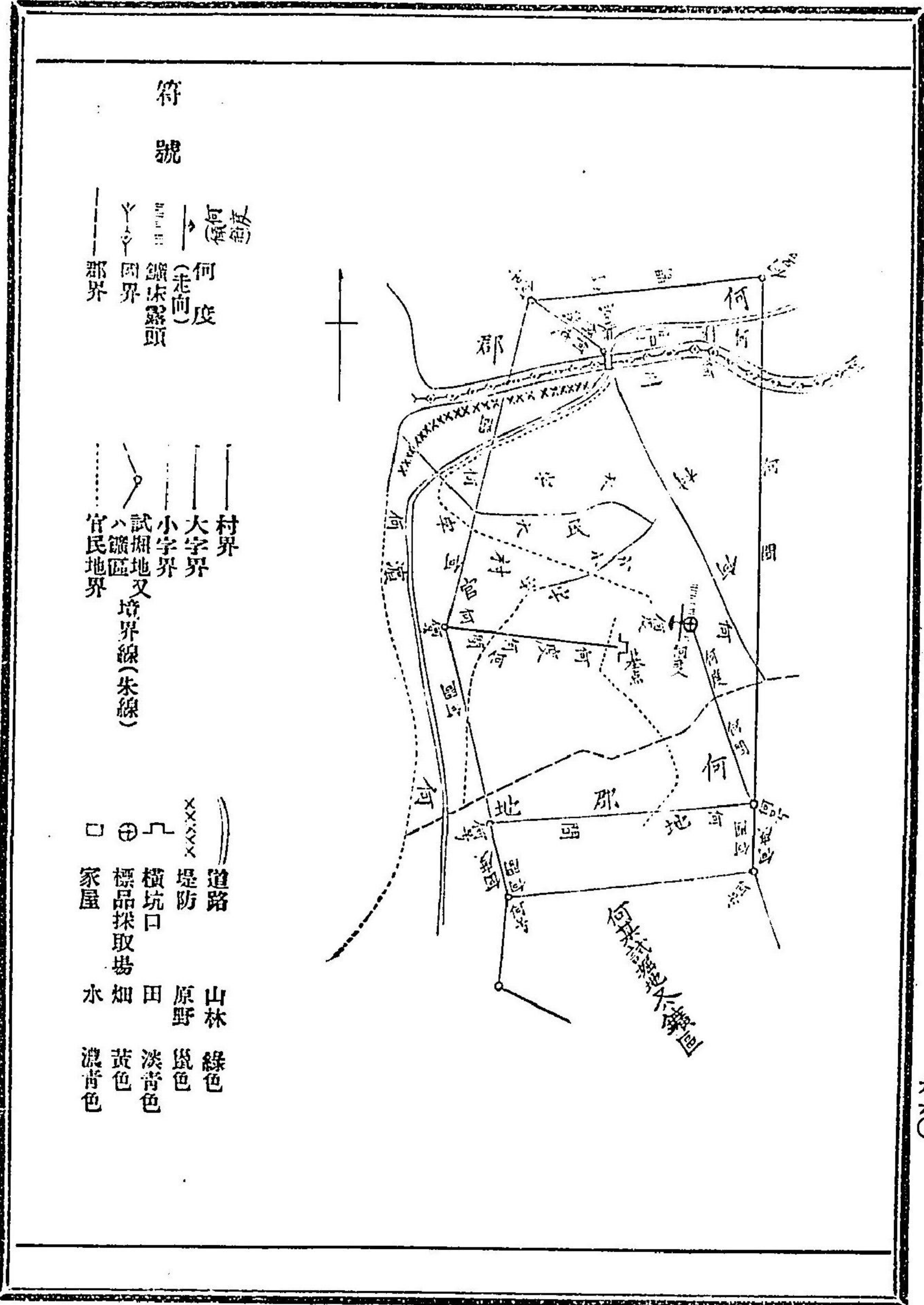
何府何國何郡何市町大字何

何縣何國何郡何市町大字何

小字何全地官地又ハ民地何坪
小字何ノ内官地又ハ民地何坪

氏 名 印
但組合人アラハ連名連印スヘシ

測量者 氏 名 印
合計 何坪



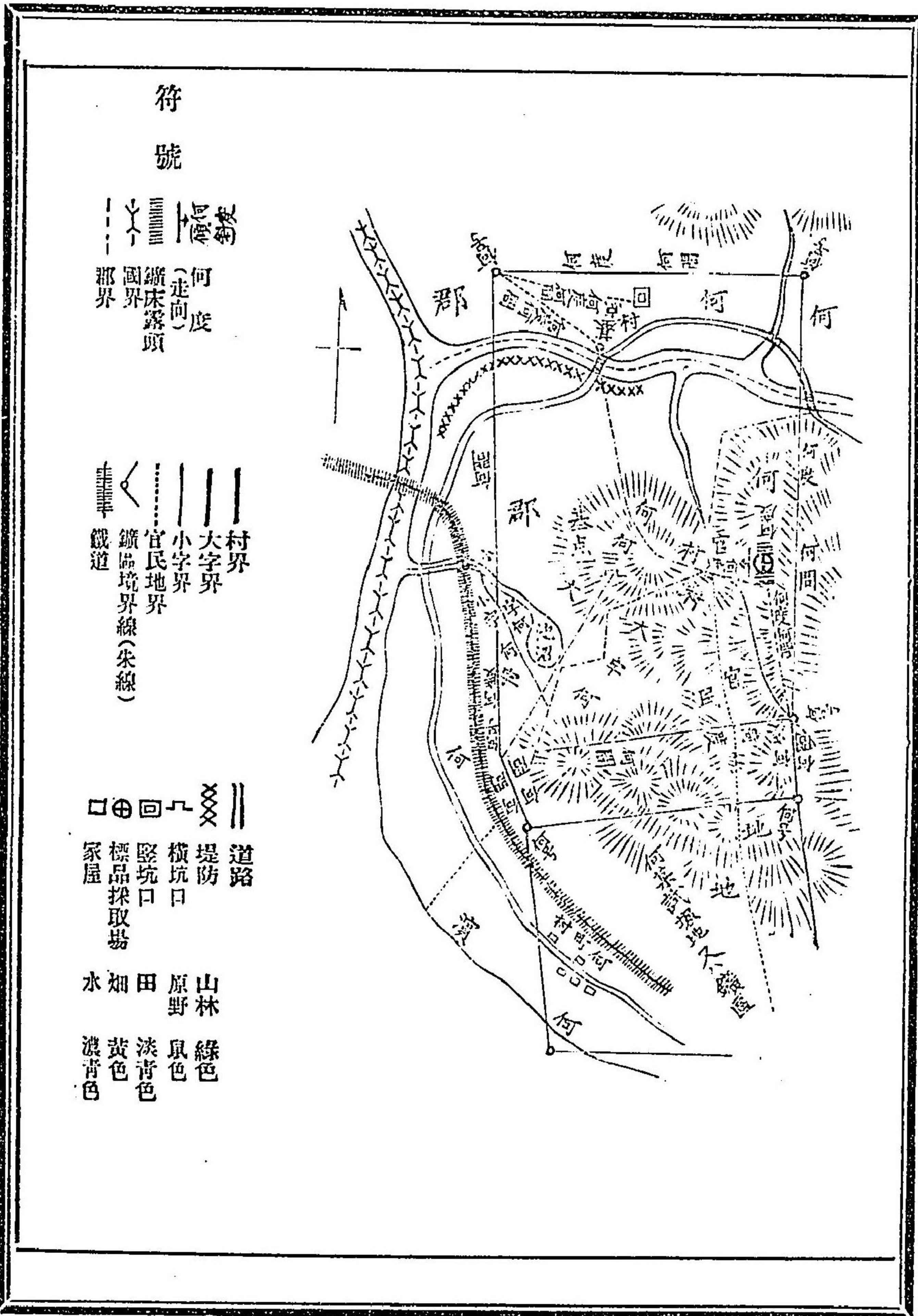
注意

- 一 試掘地又ハ鐵區ノ境界ハ成ルヘク隅角ノ少キ様區畫スヘシ
- 二 坪數ハ四拾五入シテ坪ニ止ムヘシ
- 三 基點ハ二箇以上ヲ設ケ家屋橋梁道路ノ辻ノ如キ容易ニ動ス可カラサルモノタルヘシ若シ近傍基點トナスヘキモノナキ時ハ大ナル標木ヲ出願地ノ各隅ニ設クヘシ
- 四 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ試掘地若クハ鐵區アラハ相互接近シタル隅角ノ方位間數ヲ測定シ圖上ニ掲クヘシ
- 五 試掘地圖ハ標品採取場ヲ掲クルニ及ハス
- 六 符號第一ニ示ス度數ハ鐵床ノ傾斜及走向ノ度數ヲ云フ
- 七 圖面用紙ハ方三尺ヨリ大ナルモノヲ使用スヘカラス
- 八 試掘地又ハ鐵區訂正ノトキハ原圖ヲ製シ増區ハ本式ニ依リ減區ハ其區域ヲ無彩色ニスヘシ

雛形第二號 用紙美濃紙(正副三通)

何鐵區實測圖 尺度何分ノ一

何府何國何郡何町何大字何村	小字何全地官地又ハ民地何坪	住所族籍	氏名印
何縣何國何郡何町何大字何村	小字何ノ内官地又ハ民地何坪	測量者	但組合人アラハ連名連印スヘシ
合計	何坪	氏名	
		氏名印	



注意

- 一 鑛區ノ境界ハ成ルヘク隅角ノ少キ様區畫スヘシ
- 二 坪數ハ四捨五入シテ坪ニ止ムヘシ
- 三 基點ハ二箇以上ヲ設ケ家屋橋梁道路ノ辻ノ如キ容易ニ動ス可カラサルモノタルヘシ若シ近傍基點トナスヘキモノナキ時ハ大ナル標木ヲ出願地ノ各隅ニ設クヘシ
- 四 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ試掘地若クハ鑛區アラハ相互接近シタル隅角ノ方位間數ヲ測定シ圖上ニ掲クヘシ
- 五 鑛床ノ走向判然タルモノハ鑛區内及近傍鑛床露頭ノ走向傾斜ヲ掲クヘシ
- 六 符號第一ニ示ス度數ハ鑛床ノ傾斜及走向ノ度數ヲ云フ
- 七 圖面用紙ハ方三尺ヨリ大ナルモノヲ使用ス可ラス
- 八 鑛區訂正ノトキハ原圖ヲ製シ増區ハ本式ニ依リ減區ハ其區域ヲ無彩色ニスヘシ
- 九 鑛業條例第十二條第二項ニ依リ鑛區ヲ後ニ差出ストキハ圖面ノ右側ニ左ノ通り認メ置ク可シ

明治何年何月何日出願仕候鑛區實測圖差出申候也

何年何月何日

第三號(正副一通)

明治何年鑛業施業案

何縣何町大字何小字

何鑛山何鑛

借區券番號鑛區並坪數
特許證鑛區並坪數

車夫	同		
火夫	同		
機械夫	同		
雜夫	同		
運搬夫	同		
計	同		
原動機 汽鍋或 水車	何式	何馬力	何臺
機關	同	同	同
機械	同	同	同
通氣ノ方法	一分時間何立方尺	燃燒質瓦斯ノ有無	
排水ノ方法	一分時間何立方尺		
運搬ノ方法			
薪炭消費高			

記事(探掘ノ方法及ヒ之レカ爲メ要スル處ノ機械並ニ其建築及使用法ヲ詳記スヘシ)
右之通施業致度候問認可相成度候也
明治二十五年三月 日

何鑛山監督署長氏名殿
又ハ共同鑛業人總代 氏 氏 名 名 印 印

鑛業條例第三十九條屆書

明 治 何 年 鑛 業 明 細											
鑛 品										種 鑛	置 位 區 鑛
採 掘				製 煉 高				販 賣		何 廳 府 縣 何 郡 何 村 大 字 小 字 鑛 山	年 許 月 可 坏 數
前 年	越 高	本 年	探 掘 高	金	銀	銅	何	數	代 價		
金	銀	銅	何	金	銀	銅	何	金	銀	銅	何
製 品										號 證 特 許	人 業 鑛
製 出				販 賣				製 出		住 所 族 籍 氏 名 印 又ハ施行細則第二十二條ニ係ル代理人	號 可 案 應 行 審 認
前 年	越 高	本 年	製 出 高	金	銀	銅	何	數	代 價		
金	銀	銅	何	金	銀	銅	何	金	銀	銅	何

事 記	工 數 (何分)	高 殘				日 數	高 殘						
		何	銅	銀	金		何	銅	銀	金			
		十二月三十一日 現在人員											

注意

- 一 採掘ノ欄ニハ撰鑛ノモノヲ記入シ製煉高ノ欄ニハ製煉ニ供シタル元鑛高ヲ記入スヘシ
- 一 石炭ヲ塊炭粉炭切込ニ區別シ販賣スル者ハ各別ニ記入スヘシ
- 一 採掘高及製煉高ハ貫ヲ單位トシ製出高及販賣高ノ内金銀ハ勿其他ハ斤ヲ單位トス但シ石炭ハ斤、石油ハ升ヲ單位トス
- 一 混合金屬(含金銅若クハ含銀銅ノ類)ハ含有成分ノ百分率ヲ朱書スヘシ
- 一 施行細則第二十二條ニ係ル代理人ヨリ届出ツルトキハ肩書ニ鑛業人何某ノ代理ト記載シ且ツ頭書ニ何年何月何日届濟ト明記スヘシ

第五號 鑛業條例第四十條帳簿

種目	採掘高	前月ヨリ越高	買入高				合計	製
			買	入	高	合		
月								
一月(七月)								
二月(八月)								
三月(九月)								
四月(十月)								
五月(十一月)								
六月(十二月)								
計								

○鑛業警察規則 明治二十五年三月十六日 省令第七號

廿六年三月十日省令第七號ニテ第五條ヲ削除シ第六條ヲ第五條ニ改メ同條中ニ安全燈及レテ四ノ字ヲ削ル

- 第一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ
- 第二條 堅坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚堅坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ
- 第三條 卷揚臺ヲ用サテ人ヲ昇降セシムル堅坑ニハ板圍アル堅牢ノ梯子道ヲ設クヘシ
- 第四條 堅坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ階棚ヲ設クヘシ
- 第五條 人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ
- 前項ノ卷揚臺ニ用ヰル繩綱ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第六條 人ヲ通行セシムル坑内ノ自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ通行ニ差支ナキ人道ヲ設クヘシ
- 前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ
- 第七條 交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上クルヘシ
- 第八條 坑内ニハ鑛夫ノ衛生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ
- 第九條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

全上省令ヲ以テ第十條ヲ九條ニ改メ下ノ如ク改正
全上省令ヲ以テ第十一條ヲ第十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十二條ヲ第十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十三條ヲ第十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十四條ヲ第十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十五條ヲ第十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十六條ヲ第十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十七條ヲ第十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十八條ヲ第十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第十九條ヲ第十八條ニ改メ

- 第十條 安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ檢査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
- 鑛夫ハ安全燈ヲ開クコトヲ得ス
- 第十一條 安全燈ヲ用ヰル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帶スルコトヲ得ス
- 第十二條 鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ
- 第十三條 裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス
- 導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ同場所ニ近寄ルコトヲ得ス
- 前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス
- 第十四條 鑛業ニ使用スル烟突汽鐘發電機又ハ燒鑛所ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ
- 第十五條 同一鑛区内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ探掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル様協議ノ上試掘又ハ探掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ
- 第十六條 試掘ノ認可若クハ探掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ様修理スヘシ
- 第十七條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ
- 第十八條 農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ臨視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ查

全上省令ヲ以テ第十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第二十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第三十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第四十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第五十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第六十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第七十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第八十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十一條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十二條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十三條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十四條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十五條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十六條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十七條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十八條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第九十九條ニ改メ
全上省令ヲ以テ第一百條ニ改メ

閱スルコトヲ得

第十九條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事山ヲ届出ツ
ヘシ

第二十條 鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視
易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十一條 鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キトキハ理由ヲ具
シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免除ヲ受クヘシ

第二十二條 本則ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日
迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得ス
等二十四條 本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

○鑛業條例第十四條及第四十五條ニ依ル旅費日當納付手續

明治二十五年四月六日
省令第九號

鑛業條例第十四條第三十一條第四項及ヒ第四十五條ニ依リ旅費日當ヲ納付スル手續左ノ通相定ム
第一條 鑛業條例第十四條第一項第三十一條第四項及第四十五條第一項ニ依ツ吏員ノ出張ヲ命ジ
タルトキハ鑛山監督署長ハ出張吏員ノ氏名及ヒ旅費日當ノ概算額ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知ス
ヘシ

第二條 出願人又ハ鑛業人ハ前條ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ旅費日當ノ概算額ヲ出張吏
員ニ交付スヘシ

第三條 出張吏員ハ實地臨檢ヲ終ヘタル後旅費日當ノ精算ヲ爲シ過不足アルトキハ鑛山監督署長
ヨリ之ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知シ出張吏員ヲシテ超過額ヲ返付シ又ハ不足額ヲ追求セシムヘ
シ

○鑛業條例實施以前ニ提出シタル出願ニ關スル上申方ノ件

明治二十五年三月十六日
訓令第四號

道 廳 府 縣

鑛業條例實施以前ニ提出シタル左記ノ出願ニ就テハ同條例實施後ニ至ルモ尙ホ従前ノ手續ニ依リ
調査ノ上本大臣ニ上申スヘシ

- 一 試掘及借區願
- 一 試掘又ハ借區ノ増減區願
- 一 試掘延期願
- 一 試掘又ハ借區ノ相續讓受渡及加除名願
- 一 試掘又ハ借區許可取消願

○鑛業條例施行細則第七條及二十五年訓令第四號ノ上申書回送方

明治二十五年四月五日
訓令第六號

北海道廳 府縣

鑛業條例施行細則第七條及明治二十五年農商務省訓令第四號ノ上申書ハ所轄鑛山監督署ニ回送ス
一シ

○御料地若クハ官有地ニ係ル出願ニ關スル協議ノ件
明治二十五年四月五日
訓令第七號

鑛山監督署

試掘若クハ探掘ノ出願御料地若クハ官有地ニ係ルトキハ主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

○鑛業條例施行細則第十條ノ鑛物標品差出方ニ關スル件

明治二十五年三月十六日
告示第四號

鑛業條例施行細則第十條ノ鑛物標品ハ方一寸以上三寸以下ノモノヲ箱詰トシ箱ノ内外ニ採取地名
出願年月日及願人ノ氏名ヲ明記シテ差出スヘシ
但鑛物流動體ナルトキハ三勺以上一合以下ヲ同様ノ封裝ニテ差出スヘシ

○鑛業條例第三十一條ニ依リ差出スヘキ坑内實測圖ニ關スル件

明治二十五年三月十六日
告示第五號

鑛業條例第三十一條ニ據リ差出スヘキ坑内實測圖ハ坑道ノ延長夥多ナル鑛區ニ在リテハ初度ノ分

ニ限リ別ニ配附スル錐形ニ從ヒ鑛區ノ全部ヲ千二百分一ニ調製差出シ爾後退補ニ係ル分ハ同錐形
ニ準シ増加ノ坑道ノミヲ記載シ差出スモ妨ケナシ此場合ニ於テハ前キニ差出シ置キタル圖面ト接
續ノ關係ヲ明瞭ニ記スルコトヲ要ス

○鑛業條例第七十四條ニ依リ鑛業稅賦課ノ標準價格ノ件

明治二十五年十二月二十八日
告示第二十號

明治二十三年九月法律第八十七號鑛業條例第七十四條ニ依リ鑛業稅賦課ノ標準トスル鑛業製產物
ノ價格ヲ定ムル左ノ如シ

- 一金 一匁ニ付金參圓參拾錢
- 一銀 同 金拾五錢
- 一銅 百斤ニ付金拾五圓
- 一安質母尼 同 金拾五圓參拾錢
- 一硫化安質母尼 同 金八圓拾錢
- 一石炭ハ左表第一號第二號及第三號ニ依ル

右告示ス

第一號表 石炭

產地	塊炭	粉炭	切込炭
福岡縣遠賀郡	一万斤ニ付 六、九二〇	同上 四、一三〇	同上 五、五二〇

同	鞍手郡	八、四四〇	七、〇七〇	七、五二〇
同	嘉麻郡	九、八六〇	六、八二〇	八、三四〇
同	穂波郡	九、四五〇	八、七八〇	八、九八〇
同	田川郡	一、三九〇	六、四九〇	八、九三〇
同	粕屋郡	八、四六〇	四、〇五〇	七、〇七〇
同	三池郡	一三、九九〇	—	七、八〇〇
同	佐賀縣東松浦郡	一二、一九〇	二、五八〇	五、七四〇
同	杵島郡	一〇、九八〇	四、二八〇	—
同	西彼杵郡	二二、五六〇	一五、六九〇	—
山口縣厚狭郡	五、一一〇	二、四二〇	三、五一〇	—
福島縣	六、四四〇	—	—	—
北海道	一九、四四〇	七、九七〇	一四、七二〇	—
第二號表	石炭(無烟炭)	塊炭 一万斤ニ付	粉炭 同上	切込炭 同上
第三號表	石炭(煽石)	煽石 一万斤ニ付	—	—
福岡縣	波麻郡	一〇、四二〇	—	—

同 鞍手郡 九、九六〇
 同 田川郡 九、七六〇

○鑛業條例第七條第二十條讓與ノ意義ニ關スル件

明治二十三年勅令第五百一十一號(第一條第三號第四號)及明治廿三年法律第八十七號(鑛業條例第七條第廿條)ニ讓與ノ文字アリ此讓與ナル語ハ相續ヲ含ムヤ否ヤニ就キ疑義相生シ候ニ付兩説ヲ具シ裁決ヲ請フ

明治廿三年勅令第五百一十一號(第一條第三號第四號)及明治廿三年法律第八十七號(鑛業條例第七條第廿條)ニ讓與ノ文字アリ此讓與ナル語ハ相續ヲ含ムヤ否ヤニ就キ疑義相生シ候ニ付兩説ヲ具シ裁決ヲ請フ

第一説 讓與ナル文字ハ相續ヲ含マストノ論旨ハ一般法律上ノ用例ニヨレハ讓與ナル文字ハ當事者ノ意志ニヨリ權利ヲ移轉スルノ謂ナリ相續ニヨル權利ノ移轉ハ法律ノ効果ニヨリ生スルモノニシテ當事者ノ合意ニヨルニ非サレハ讓與ト相續トハ全ク別物ナリ明治廿三年勅令第五百一十一號全法律第八十七號ノ讓與ナル文字ハ特ニ異例ニ用非タリト認ムヘキ理由アラサルヲ以テ相續ヲ含マスト解釋スルヲ至當トス

第二説 讓與ナル文字ハ相續ヲ含メリトノ論旨ハ一般法律上ニ於テモ讓與ト相續ヲ列記シタル片ハ其間ニ區別アルコト第一説ノ如クナレモ單ニ讓與ナル文字アリテ他ニ相續ヲ含マスト解釋スヘキ語句ナキ片ハ相續ヲ含ムモノナリ殊ニ鑛業許可ノ如キハ其人ニ對スル免許ナレハ法律ノ明文アルニアラサレハ一人ヨリ他人ニ其權利ヲ移轉スヘキ性質ノモノニアラス故ニ他ノ權利ノ如ク當然相續スヘキモノト見做スヲ得サルヲ以テ明治廿三年勅令第五百一十一號及法律第八十七號ニ於テハ合意ニヨル權利ノ移轉ト全一ニ規定シ讓與ナル文字中ニ相續ヲ含マシメタルモノト解釋スルヲ至

當トス
第一説ニ裁決セラレタリ

○鑛業條例第八十九條疑義ノ件

明治二十五年二月三十日
本省決議

鑛業條例第二條第二項ハ該條例ノ支配スル鑛物ノ種類ヲ列記シ其他ノ鑛物ハ該條例ノ關スル所ニアラサルヲ明示セリ故ニ日本坑法ニ於テハ試掘又ハ借區ノ許可ヲ得ヘキ鑛物ト雖モ鑛業條例實施以後ハ試掘ノ認可若クハ探掘ノ特許ヲ得ル能ハサル者アルハ明ナリ此等ノ鑛物ニシテ鑛業條例實施以前ニ試掘又ハ借區ノ許可ヲ得タルトキハ全條例實施以後モ試掘又ハ借區ヲ爲スヲ得ルヤ否ヤ鑛業條例第九十二條ニ依レハ日本坑法ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ廢止セラレヘキモノナルヲ以テ日本坑法ニ依リ試掘又ハ借區ノ許可ヲ得タルモノモ他ニ法律命令ノ之ヲ有効トスルノ規定アラサル限リハ日本坑法廢止ト共ニ其効力ヲ失フヘキハ當然ナルヘシ然ルニ鑛業條例第八十九條ニハ此條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得トアルヲ以テ苟モ日本坑法ニ依リ試掘又ハ借區ノ許可ヲ得タル者ハ其鑛物カ鑛業條例ノ支配スルモノタルト否トニ拘ラス既ニ許可ヲ得タル年限中ハ試掘又ハ探掘ヲ爲スヲ得ル者ナルヤノ疑アリ然レトモ鑛業條例第八十九條ニ試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得トアルハ單ニ鑛業條例ノ支配スル鑛物ノ試掘又ハ借區許可ヲ全條例實施以前ニ得タル場合ヲ指シタル者ニシテ全條例ノ支配セサル鑛物ノ試掘又ハ借區ノ許可ニ迄効力ヲ與フルノ精神ニハアラサルヘシ何トナレハ第一ニ鑛業條例實施以前ニ全條例ノ支配セサル鑛物ニ就キ試掘許可ヲ得タル者カ全條例實施後ニ試掘ヲ續クルヲ得ルトスルモ其業ヲ竣ヘ鑛物ヲ發見シ探掘特許ヲ請フモ之ヲ得ルノ途ナシ鑛業條例ハ斯ル無益ノ

試掘ヲ認ムル者ニ非サルヘシ故ニ鑛業條例第八十九條ニ依リ試掘ヲ續クルヲ得ルハ該條例ノ支配スル鑛物ニ就キ日本坑法ニ依リ得タル許可ニ限ルコト明カナリ試掘許可ニシテ既ニ鑛業條例ノ支配スル鑛物ニ限ラシメ借區許可ノミハ其他ノ鑛物ニ及フノ理由ナカルヘシ、第二ニ鑛業條例第八十九條ニ依リ該條例實施以前ニ許可ヲ得タル借區人ニシテ其許可ヲ得タル年限中引續キ探掘ヲ爲スヲ得ルハ該條例ノ支配スル鑛物ニ就キ借區ヲ得タル者ニ限ルコトハ全條例第九十條ノ規定ヨリ推知スルヲ得ヘシ全條ニ曰此條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尚ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期前ニ此條例ニ依リ出願スヘシト此條文ノ「此條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得」云々ト云フハ明ニ條例ノ支配スル鑛物ニ就キ借區許可ヲ得タル者ヲ指スナリ何トナレハ該條例ニ依リ探掘ノ特許ヲ出願シ得ヘキ理由ナケレハナリ而シテ條例第九十條ノ「此條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得」ナル語句ヲ受來リタル者ナレハ兩條ニ云フ鑛業條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ニ條例第二條第二項ニ記載スル鑛物ニ就キ試掘又ハ借區ノ許可ヲ得タル者ヲ指スコト明ナリ且又鑛業條例第八十九條ノ規定ニシテ全條例ノ支配セサル鑛物ノ試掘又ハ借區ニ迄及フモノナラシメハ日本坑法廢止後ハ一モ之ヲ取締ルヘキ法令ナキニ試掘借區ハ依然トシテ繼續スルノ奇觀ヲ呈スヘシ鑛業條例ハ豈ニ斯ル試掘借區ヲ認ムルモノナラン哉
右ニ述ヘタル理由ナルニ依リ鑛業條例ノ支配セサル鑛物ニ就キ全條例實施以前ニ得タル試掘又ハ借區ノ許可ハ全條例實施ト共ニ消滅スルモノト心得可然哉

○鑛業條例第四十二條疑義ノ件

明治二十五年四月一日
本省決議

鑛業條例第四十二條ニ

出願ニ係ル鑛區ノ位置、形狀、鑛床ノ位置、形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ
トアリ此法文ニ依リ左ノ場合ニ於テモ甲乙兩者ニ鑛區ノ訂正ヲ命シ得ヘキモノト心得可然哉
甲者ノ鑛區狹隘ニ失シタル箇所アリト認メ擴張セシメントスルニ其擴張スヘキ場所ハ既ニ乙者ニ於テ其鑛區ニ編入シ出願シタリ但シ甲者ノ鑛區擴張スルモ尙ホ乙者ハ鑛區ニ於テ相當ノ鑛業ヲ營ムヲ得ヘシ

○鑛區稅滯納處分ニ關スル疑義ノ件 明治二十五年五月十一日 本省決議

- 一、鑛業條例第七十五條第二項ニ依リ鑛區稅一箇年分ヲ其前年十二月十五日限リニ納メサル者アルトキハ直ニ國稅滯納處分法第二條第三條ノ手續ヲナスヘキモノト心得可然哉
- 二、十二月三十一日限リ廢業スヘキ旨届出タルトキハ國稅滯納處分ヲ爲サ、ルモノト心得可然哉
- 三、納期ヲ過クルモ納稅セサルカ爲メ十二月ニ鑛業條例第七十六條ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ國稅滯納ノ處分ヲ爲サ、ルモノト心得可然哉
- 四、鑛區稅ヲ納期ニ納メサルカ爲メ翌年一月一日後ニ至リ鑛業條例第七十六條ノ處分ヲ受ケタル者ハ國稅滯納處分法ノ制裁ヲ受クヘキハ勿論ト心得可然ヤ

○願書及圖面ノ記載事項ニ關スル件(鑛山監督署)

明治廿五年七月廿二日
鑛發三〇九號鑛山局長通知

試掘探掘願書並添屬圖面雜形ニ小字分ケノ坪數ヲ掲載有之候得共右ハ頗ル繁多ナル手數ヲ煩ハスモノナルニ實際ニハ其必要乏シク要スルニ不動基點ヲ設ケ境界線路判然ニシテ且其境界内ニ包含スル大字小字ヲ揭示スレハ充分ニ候得ハ自今出願ノ分ニハ強テ掲載セシムルニ及ハス候條左様御了承相成度尤モ鑛業人ニ於テ此點ニ付質問候節ハ該雜形ハ坪數ノ判然シタルトキ又ハ或必要アル場合ノ爲メニシタルモノト解釋シ此旨趣ニシテ御指示相成度

○鑛業休止出願ニ關スル件(鑛山監督署) 明治二十五年十一月十日 鑛山局長通牒

鑛業人一箇年間其業ヲ休止セントラ出願シタルトキハ一般經濟上ノ情況ニ依リ探掘ヲ爲スノ不利ナルトキ又ハ起業工事未タ完了セサルカ若クハ開坑探掘ニ要スル器械未着ナル等止ムヲ得サル理由アル場合ニ限リ其出願ヲ許可相成度尙ホ此場合ニ於テハ其年度ノ施業按ハ差出スニ及ハサル義ト御了知相成度
追而一年未滿ノ期限間休業スル者ニハ其業ヲ爲ス期間施業案ヲ成規ノ期日ニ差出サシムル義ニ有之候

○鑛業廢止并鑛區讓渡ノ際未定價額現品ニ對シ鑛業稅徵收ニ

關スル件(鑛山監督署) 明治二十五年十二月三日大臣決判
鑛發第四八二號鑛山局長通牒

鑛業稅ノ販賣代價ニ依リ課稅スヘキ物件ニ對シ鑛業廢止并鑛區讓渡ノ際其物件ヲ販賣セス現物ノ存スルニ因リ數量ノミ記載シ販賣代價ヲ記載セスシテ届出タルトキ又告示相場ニ依リ課稅スヘキ

物件ト雖告示相場公布以前鑛業廢止鑛區讓渡等ニ際スル本年六月以後販賣セシコトアル者ハ其販賣代價ヲ出サシメ徵稅候様御取調相成度

○淀木曾兩川流域ニ係ル鑛業出願ニ關シ土木監督署ヘ協議ノ件

(東京大阪兩鑛山監督署)

明治二十五年十二月二十二日

淀、木曾兩川流域諸山ニ於テ鑛業出願ノ場合治水上支障ノ有無調査ノ義ニ關シ内務省ヨリ甲號
廿五年十月二十日ノ通照會ニ付乙號(廿五年十月廿八日)ノ通リ回答相成候處猶又丙號ノ通照會有之右地名表
主監甲第七六號
及御回付候間該地方ニ於テ鑛業出願ノモノ有之候得ハ土木監督署ヘ協議ノ上處分相成度
甲號 明治二十五年十月二十日
土監甲第七六號

淀、木曾兩川流域諸山土砂杆止ノ爲山林諸作業取締方ニ付テハ明治十三年中關係地方長官ヘ相
達置候次第モ有之候處該達文中諸業ヲ爲サントスルモノハ六ヶ月前作業者ヨリ管轄ヘ伺出サシ
ムヘシトノ期限ハ採鑛ニ關シテハ鑛業條例施行ノ今日自然廢滅ニ歸シタル義ニ候得共採鑛ノ事
業タル砂害取締上最モ注意ヲ要シ治水上忽諸ニ付スヘカラサル次第ニ付一々實地ニ就キ鑑査セ
サルヘカラス然ルニ該條例施行細則第七條二項ノ規定ニ據リ地方長官ハ僅々ノ日子ヲ以テ砂害
有無ノ鑑査方土木監督署ヘ申來リ該署ニ於テ可及の其照會ニ應シ居候得共何分鑛業頻繁ノ際期
限内ニ於テ鑑査ヲ遂ケ應答スルハ頗ル困難ノ事情モ有之候條該川流域内諸鑛山採鑛業ニ關スル
水理上禍害有無之義ハ直接鑛山監督署ヨリ土木監督署ヘ照會シ該署ニ於テ右期限ニ拘ハラヌ完
全ノ調査ヲ遂ケ應答候様致度
乙號 明治二十五年十月廿八日
鑛第一三九一四號

淀、木曾兩川流域諸山ニ於テ鑛業出願ノ場合治水上支障ノ有無調査ノ義ニ關シ本月二十日土監
甲第七六號ヲ以テ御照會ノ旨了承右ハ調理上便宜ニモ有之候ニ付御意見ノ通可取計候間淀木曾
兩川ノ流域ニ屬スル國郡村各詳細御明示相成度
丙號 明治二十五年十二月十二日
土監甲第七六號

淀、木曾兩川流域内採鑛作業取締方ノ件ニ付本年十月廿八日鑛第一三九一四號御申越之趣了承
即別番流域郡村調及御送付候條御落手相成度尙三重縣下町屋川流域モ取締ヲ要スルニ付該流域
郡村調相添置候條淀木曾兩川流域全樣鑛山監督署ヘ御訓示方御取計相成度

淀川流域地方

木曾川流域地方

府縣	市	郡	府縣	市	郡
京都	京都	愛宕、葛野、乙訓、紀伊、宇治、綴喜、相樂、南桑田、北桑田、船井、	長野	西筑摩、	
滋賀	滋賀、栗太、甲賀、		愛知	丹羽、	
大阪	大縣、島上、高安、河内、若江、澁川、茨田、交野、		岐阜	惠那、土岐、可兒、加茂、武儀、各務、厚見、方縣、	
三重	龍岡、島下、豐島、能勢、		三重	田、大野、郡上、山縣、本巢、藤田、大野(美濃國)池田、不破、多勢、上石津、下石津、	
奈良	一志、阿拜、山田、名張、伊賀、		奈良	桑名、	
奈良	添上、添下、山邊、宇陀、吉野、		野屋川流域地方		
			員辨、桑名、朝明、		

廿六年三月追加之分
淀川流域山地作業取締區域内村名追加開書

縣	國	郡	新村名	大字
兵庫	攝津	津川	鴻長尾村 山本、平井、 多田村 悉皆	
兵庫	攝津	津川	邊川西村	全
縣	國	郡	新村名	大字
水會川流域山地作業取締區域內村名追加調査	滋賀	近江	阪田	春照村 藤川、上平等、 長久寺、柏原、

淀川流域山地作業取締ニ係ル地名取調書

府縣	國	郡	市町村	大字
京都	山城	愛宕	京都市	悉皆
府縣	國	郡	市町村	大字
京都	山城	變若	下鴨村	悉皆
府縣	國	郡	市町村	大字
京都	丹波	北田	津村	悉皆

府縣	國	郡	市町村	大字
京都	丹波	船井	吉富村	悉皆
府縣	國	郡	市町村	大字
滋賀	近江	栗太	瀬田村	悉皆
府縣	國	郡	市町村	大字
滋賀	近江	大坂	河内	大縣、堅下村、大縣、平野、法善寺
府縣	國	郡	市町村	大字
三重	伊賀	山田	各	村

町屋川流域山地作業取締區域内町村開墾

以上

乙原村	日取村	上野村	白樫村	市場村	小島村	瑞岩寺村	舟子村	段村	般若知村	深草村	願成寺村	山洞村	小寺村	藤代村	片山村	市橋村	垂井町	不破村	相川村	赤坂村	豊飯村
青莖村	青野村	平尾村	岩手村	大石村	大淵村	敷原村	梅谷村	市尾村	府中村	關原村	松尾村	藤下村	山中村	今須村	宮代村	玉井村	新井村	上石村	津上村	多度村	上多度村
下多度村	吉田村	松山村	德田新田	德田村	庭田村	西野村	奥條村	羽澤村	山崎村	上野河村	太田村	田嶋村	境村	古美村	多度村	古濱村	深谷村	野代村	大山田村		

推倉村	谷合村	葛原村	片原村	神崎村	圓原村	板屋村	文珠村	會井中島	山口村	木知原村	神海村	佐原村	金原村	日當村	板所村	市場村	神所村	中卒村	越卒村	門脇村	長嶺村	天神堂村	長島村	
黑津村	越波村	上大須村	下大須村	松田村	小鹿村	口谷村	奥谷村	外山村	席山上ノ保村	三橋村	大野西根尾村	横蔵村	掛斐町	清水村	松山村	豊木村	高科村	岐禮村	長瀬村	徳積村	名禮村	若松村	北方村	
房島村	極樂寺村	上南方村	午洞村	寺内村	古川村	稻富村	大洞村	深阪村	池田	徳山村	春日村	川上村	廣瀬村	阪本村	西横山村	榎原村	東横山村	東杉原村	鶴見村	小津村	東津波村	西津波村	外津波村	三倉村

縣	國	郡	町	村	大字	字
三重	伊勢	員辨	各	村	悉	皆
桑名	桑部	村				
在	在	在	在	在	在	在
朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝
明	明	明	明	明	明	明
朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝
上	上	上	上	上	上	上
村	村	村	村	村	村	村

○日本坑法改正施行前ニ係ル願書處分方ノ件

明治二十六年四月十三日

日本坑法改正施行前ニ係ル試掘及探掘願書處分方按ニ關シ別紙ノ通御決議相成候ニ付テハ一地争願ノ件ニシテ處分未濟ノ分ハ鑛業條例第十六條及全細則第二十六條第二十七條ニ依リ處理スヘキノ處日本坑法改正施行前ハ出願計畫ノ前後ニ依リ許否ヲ定ムルノ規定ナリシヲ以テ書留郵便ニテ願書ヲ差出サス從テ出願日時ノ先後ニ重キヲ置カサリシニ依リ前後ヲ知ルヘキ一定ノ方針無之就テハ右等ノ願書ハ左ノ標準ニ據リ出願日時ヲ定メ可然哉

標準

- 一 郵便ヲ以テ發送シタル願書ハ郵便局消印年月日時
- 二 郵便ニ依ラサル願書ハ當該官衙ニ於テ接受シタル年月日時
- 三 地方官衙ニ於テ訂正其他ノ爲メ下戻シタル願書ハ最初接受シタル年月日時

○鑛業施業案ヲ期限内ニ差出サ、ル者ニ對シ特許取消ノ件

(福岡鑛山監督署へ) 明治二十六年六月六日

鑛山局長通牒

五月八日福監甲第四〇二號ヲ以テ磯谷市助鑛物探掘權讓與ノ件ニ付御伺出相成候處探掘權全部ノ讓與ナルニ付讓受人ニ於テハ鑛業ノ初年ニ係ルヲ以テ讓受許可ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ更ニ鑛業施業案ヲ差出スヘキニ依リ元鑛業人ニ對シ特許取消ノ必要無之從テ特許證ヲ返付セシムルニ及ハス候條讓受人ニ施業按差出方御注意相成度

○共同鑛業人無連署ノ探掘願書處分ノ件

明治二十六年七月三日

本省決議

共同借區人ニシテ鑛業條例第九十條ニ依リ探掘特許ヲ出願スル者ノ内條例第六條ニ依リ届出タル總代人ノ外共同者ノ連署ナキ分往々有之右ハ條例第七條列記ノ件ト異リ有期ノ鑛業權ヲ無期ニ變スルノ外權利ノ移轉若クハ縮損ヲ來スモノニ無之ニ付強テ連署セシムルニ及ハサルコト、存候

○鑛區稅滯納者ニ對スル處分方ノ件(主稅局)

明治廿五年五月十二日

鑛發第一七八號鑛山局長照會

鑛區稅滯納者ニ對スル滯納處分ノ件ニ付テハ往第四九二號ヲ以テ貴省大臣ヨリ當省大臣ニ御協議中ニ有之候處當省ニ於テハ左ノ通り省議確定相成候間右ニテ貴省ニ御異存無之候ヤ

一 鑛業條例第七十五條第二項ニ依リ鑛區稅一ヶ年分ヲ其前年十二月十五日限リニ納メサルモノ

アルトキハ直ニ國稅滯納處分法第二條第三條ノ手續ヲ爲スヘキモノトス
 二 十二月三十日限リ廢業スヘキ旨届出テタルトキハ國稅滯納處分ヲ爲サ、ルモノトス
 三 十二月十五日ヲ過クルモ納稅セサルカ爲メ其月中ニ鑛業條例第七十六條ノ處分ヲ受ケタルモノアルトキハ其後ハ國稅滯納處分ヲ爲サ、ルモノトス
 四 鑛區稅ヲ納期ニ納メサルカ爲メ翌年一月一日後ニ至リ鑛業條例第七十六條ノ處分ヲ受ケタルモノニ對シテハ國稅滯納處分ヲ爲スヘキモノトス

(主稅局長) 回答 明治廿五年五月廿五日
 鑛區稅滯納處分ノ件本月十二日付鑛發第一七八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ大体御省議ノ通りニテ異存無之候ヘ共滯納處分ハ先ツ一應第二條ノ手續ヲ爲シ置キ該年度中ニ廢業人又ハ特許取消ノ處分ヲ受ケサルモノニ限リ第三條ノ手續ヲ執行爲サシメ度見込ニ付本年當省第二十二號訓令第二項ニ依リ收入官吏ヨリ鑛山監督署長ヘ滯納者ノ通知ヲ爲シタルトキハ其特許ヲ取消サルヘキト否トハ其都度收納官吏ニ通報相成度候

○鑛業ニ關スル貸借契約及ヒ採掘權書入登錄取扱方ノ件

明治廿五年六月廿日
 秋發第二七號秋田鑛山監督署伺

一 明治五年太政官第百號達廢止前ニ在テ該達第二項但書ニ依リ貸借契約ヲ爲シ地方官ノ證印ヲ受ケタルモノニシテ現今ニ至ルモ尙借區年限ヲ有シ該契約有効ノモノ有之右ハ鑛業條例第二十二條第三項ノ規定ニ從ヒ更ニ書入登錄ヲ受ケサルモ法律上ノ効力ヲ有スル義ト相心得可然哉
 一 地方官ノ證印ヲ受ケタル貸借契約アルニ拘ラス更ニ第三者ト書入契約ヲ爲シ鑛業條例第二十

條第三項ノ規定ニ從ヒ書入登錄ヲ出願スルモノアルトキハ登錄ヲ許可セサル義ト相心得可然

(大臣) 指令 明治廿五年七月四日
 第一二四〇九號

第一項 伺ノ通り
 第二項 採掘特許ニ願換ヘシメタル上登記法第二十二條ノ例ヲ適用スヘシ

○坪數僅少ノ數坑區ヲ合シ一券面ト爲シタル借區ヲ增區出願スル

手續ノ件 明治廿五年六月廿一日
 秋發第二八號秋田鑛山監督署伺

一 坪數僅少ノ坑區二個以上ヲ合シテ制限坪數ニ達セサルモノヲ一券面ニ記載アル分増借區出願有之候處右ハ願書處分規程第九項ニ依リ採掘ニ願換ヘシメントスルモ各坑區ヲ分離セハ制限坪數ニ達セサルニ付採掘特許不相成義ト相心得可然哉

一 前項ノ場合ノ如キハ一券面一坑區ト見做シ採掘ヲ特許セラルヘキモノニ候ハ、特許證ハ數坑ヲ合シタルモノニ對シテ一葉御下附相成候義ト心得可然ヤ
 (大臣) 指令 明治廿五年八月四日

第一項 相當ノ坑區ニ訂正更ニ採掘特許ヲ出願セシムヘシ
 第二項 數坑區ヲ合シテ一券面ト爲スヲ得ス

右ニ付(鑛山局長) 照會 明治廿五年八月四日
 鑛發第二二四一〇號

數坑區ヲ合シテ一券面ト爲シタル場所増區出願ノ件處分方ノ義ハ別紙ノ通指令相成候右伺第一項ノ場合ニ際シ鑛區ヲ取擴ケ難キ事由アルモノハ實地ノ情況ヲ具シ其都度伺出相成候様致度

○試掘期限經過ノモノニ對シ指令書返納ノ件

明治二十五年六月二十四日
二農丙第一三八號福井縣照會

試掘期限經過ノモノニ付テハ客年御省訓令第十號ニ據リ期限經過ノ都度指令書返納方相違候次第ニ有之候處未タ還納セサルモノ有之然ルニ鑛業條例ニ於テハ試掘認可書返納ニ係ル事項無之右ハ條例實施後ニ於テハ從來ノ如ク指令書ヲ返納セシムルニ不及義ニ候哉果シテ然ルトキハ條例實施以前ニ於テ已ニ返納相違候分ニ限リ取立候義ハ差支無之候哉
追テ條例實施以前ニ試掘及廢業出願ノ者有之處分未濟中條例實施相成候處右ニ對シテハ從前ノ如ク本官ニ於テ處分致差支無之哉又ハ條例ニ依リ更ニ監督署へ届出候様指示可致哉

(鑛山局長)回答 明治二十五年六月三十日

試掘期限經過ノ者指令書還納ノ件ニ付本年六月二十四日附二農丙第一三八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ總テ御意見ノ通ニテ可然ト存候且又追書御問合之件ハ後段御意見ノ通御取計相成度

○鑛業條例第十一條ニ依ル納金未納者ニ對スル處分方ノ件

明治二十五年六月二十八日
(大藏大臣)庶經發七一號大臣照會

鑛業條例第十一條ニ依リ試掘ニ依リ得タル鑛物ヲ販賣シタル代價百分ノ一ハ所轄鑛山監督署ヨリ納入告知書ヲ發シ三十日以内ニ納入スル義ニ有之而シテ其三十日ヲ過キ納メサル者ハ全條第二項ニ該テ國稅滯納處分法ニ據ルヘキ者ニ付若シ不納者アルトキハ該鑛山監督署長ヨリ所轄地方長官

へ其金額及住所姓名ヲ通牒シ該應收入官吏ニ於テ滯納處分法ニ據リ處分シ又收入金ハ該收入官吏ヨリ鑛山監督署へ送付スルヲニ相成度

(大藏大臣)回答 明治二十五年七月八日
乾發三三五六號

本年六月二十八日第四三號ヲ以テ鑛業條例第十一條ノ納金滯納處分方ノ件御照會ノ趣了承右ハ國稅ニアラサレハ直間稅署ニ於テ處分セシムル筋ニ無之候條於御省可然御處分相成候方ト存候

○鑛業稅徵收方疑義ニ關シ主稅局長ヨリ合議ノ件

明治二十五年七月七日
鑛發第一九六號鑛山局長照會

本年六月廿日附署坤第二一五號岡山縣收稅長照會ニ對シ回答按御取調當省へ合議相成候處現行鑛業條例ニ於テ鑛區ノ訂正トハ當初特許出願ノ鑛區或ハ特許證券面ノ鑛區へ若干ノ區域ヲ増加シ若クハ原區ヨリ若干ヲ減少シ更ニ當初ノ鑛區ヲ改メ又ハ區域ノ坪數ヲ増減セス當初鑛區ノ位置形狀ヲ改ムルコトニシテ鑛區坪數ニ對シ計算上ノ錯誤ヲ是正スルモノニアラス故ニ若シ納稅後鑛區ノ訂正ニ係リ増加スルトキハ其増差ノ分ハ追徵シ其減少スルコトアルモ既ニ一旦全部ノ採掘權ヲ得タル後一部ノ廢業ニ屬スルモノナルヲ以テ其減差ニ係ル既納ノ稅金ハ之ヲ還付スル理由ナク而シテ又鑛區ノ合併分割ニ依リ鑛業條例第七十三條但書ニ該當シ納稅ノ額ニ増減ヲ生スルコトアルモ鑛區ノ坪數ニ於テハ當初特許ヲ出願スルノ際計算上ノ錯誤アルニアラサレハ其分割合併ニ依リ坪數ニ差異ヲ生スヘキ理由ナシ今若シ特許證交付後ニ至リ坪數ニ誤謬アルヲ發見シタリトスルトキハ計算上ノ錯誤ナルヲ以テ無論當初特許ノ年月ニ遡リ追徵若シクハ還付スルヲ至當ト存候右ノ次第ニ付岡山縣收稅長照會第二第三及第四項ハ事實不明瞭ニ付何等ノ場合ニ際シ鑛區ノ合併分割ニ

依リ坪數ニ増減ヲ生セシヤ詳細御開合ノ上更ニ回答案御取調合議相成度
 遲テ鑛業條例第七十三條但書ニ該當シ鑛區ノ合併ニ依リ坪數ノ坪數納稅ノ額ニ達シタルトキハ
 其年ヨリ月割ヲ以テ追徴シ分割ニ依リ坪數ニ端數ヲ生シ免稅ノ範圍ニ入ル其年ニ係ル既納ノ稅
 金ハ還付セサル方ト存候

(參照)

(岡山縣收稅長)主稅局長へ問合 明治廿五年六月廿日 署坤第二二五號

第一項 鑛業稅徵收期ハ條例第七十五條第一項ヲ以テ規定相成候處鑛業人鑛物ノ採掘權ヲ賣買讓
 與シタルトキハ賣買讓渡人ニ對シ鑛業稅ヲ徵收セサルヲ得ス然ルニ同條ニハ單ニ廢業云々トアリ
 テ賣買讓與ノ明文ナキモ斯ル場合ニ於テ徵收期ハ全條ニ準據シ賣讓渡ノ日ヨリ六十日以内ニ徵
 收スヘキヤ又調定官ニ於テ適宜相定可然ヤ

第二項 鑛區ノ訂正又ハ合併及分割等ノ爲メ坪數ニ増差ヲ生シタルトキハ増坪ニ對スル鑛區稅ヲ
 徵收セサルヲ得ス此場合ニ於テ徵收期ハ前全條第二項ニ準據シ其出願許可ノ日ヨリ六十日以内
 ニ徵收スヘキヤ又ハ調定官ニ於テ適宜相定メ可然ヤ

第三項 鑛區ノ訂正又ハ合併及分割等ノ爲メ坪數ニ減差ヲ生シタルトキハ既納ノ稅金ハ請求ニ依
 リ下戻スヘキハ勿論ナリト雖モ採掘ノ特許ヲ取消サレタル場合ニ於テハ既納ノ鑛區稅ニ對シ鑛
 業人ヨリ還付請求アルトキハ之カ下戻シヲ爲スヘキ義ナルヤ

第四項 鑛區ノ訂正又ハ合併及分割等ノ爲メ坪數ニ増減アリテ既納ノ稅額ニ對シ異動ヲ生シタル
 場合ハ其出願ノ年ヨリ(發見ノ年)以降月割ヲ以テ追徴及ヒ還付スヘキヤ又ハ當時特許ノ年月迄遡リ
 追徴還附ヲ爲スヘキ義ナルヤ

第五項 繼續鑛業ニ係ル鑛區稅ハ納期當時ノ特許有權者ヨリ一箇年分ヲ前收スヘキニ付以後採掘

權ヲ賣買讓與スルモ別途追徴還附ノ手續ヲ要セサルヤ

第六項 鑛業稅又ハ鑛區稅ヲ滯納處分スルニ當リ採掘權ノ書入ヲ爲シタルモノアルトキハ國稅滯
 納處分法第二十九條ヲ履行スヘキ義ナルヤ

第七項 鑛業稅及鑛區稅ヲ徵收スルニ當リ鑛業人其鑛山所在地ニ居住セス鑛業條例施行細則第二
 十一條ノ代理人ヲ置キタルモノアルトキハ徵稅令書並督促令狀ノ如キハ右代理人ニ相渡シ送達
 ノ効ヲ有スヘキ義ニ候哉

(主稅局長)回答 明治廿五年七月十二日 坤第一九二二號

鑛業稅徵收方疑義ニ付岡山縣收稅長へ回答按ノ件御申越ノ趣了承右ハ御來意ノ通鑛區ノ合併分割
 ニ依リ坪數ニ増減ヲ生スルコトナキモノナレハ條例第七十三條但書ニ依リ合併分割ノ爲メ納稅資
 格ノ有無ニ及ホスヲ以テ之ヲ問合セタルモノト認メタル義ニ有之候尤モ一應其旨回答文中へ加筆
 致置候

(參照)

(主稅局長)ヨリ岡山縣收稅長へ回答 明治廿五年七月十五日 大臣決議

第一項第二項ハ前段之通り第三項ハ之ヲ還付スル限リニアラス但上文既納稅金モ下戻スルニ及ハ
 ス第四項ハ月割ヲ以テ徵收スルハ前段之通り既納金ハ還付セス但誤認訂正ノ場合ニ適用セス第五
 項第七項ハ貴見ノ通り第六項ハ採掘權ヲ差押ヘタル場合ニハ御見込通リト存候

○鑛區稅滿期ノ分徵收額ノ義ニ關シ主稅局長ヨリ合議ノ件

明治二十五年七月廿九日
 鑛往第一九六四號鑛山局長照會

鑛區稅滿期ノ分徵收額ノ義ニ付島根縣知事ニ對シ回答案御取調當省大臣へ合議相成候處鑛業條例第七十五條第二項ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ月ヨリ六十日以内ニ納ムヘシトアレハ滿期ノ年ハ從前ノ通り月割ヲ以テ徵收候方穩當ト被存候間今一應御調査ノ上再應合議相成度候

(主稅局長)回答 明治廿五年七月三十日 坤第二〇六三號

本月廿九日鑛往第一九六四號ヲ以テ鑛區稅ノ件御申越ノ趣了承然ルニ新タニ特許スルモノハ法律ニ明文ナルアリテ月割徵收スヘキモ滿期ノ場合ニハ何等明文ナキ上ハ元來先納稅ニシテ還附スル等ノ順序ヲナサ、ルモノナレハ勿論全額ヲ收入スヘキ筋ト信候尤モ舊慣ハ法律發布ノ上ハ之ヲ願ミル必要ナキモノト存候間本議及御送付候間可然御省議有之度

右ニ付再照會 明治廿五年八月十日 鑛第二四〇號

島根縣知事同鑛區稅滿期分徵收方ノ義ニ付七月三十日坤第二〇六三號ヲ以テ新タニ特許スルモノハ法律ニ明文アリテ月割徵收スヘキモ滿期ノ場合ニハ何等ノ明文ナキ以上ハ元來先納稅ハ還付セサル筋ニ付一ケ年間ノ全額ヲ收入スヘキ旨御回答有之候處借區ノ義ハ最近許可ノモノト雖モ向後十五年ヲ經過セハ無効ニ屬スルヲ以テ右滿期ノ場合ニ係ル徵稅ノコトハ鑛業條例中何等ノ規定アラサルモ同條例中第八十九條ニ借區年間中ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得トアリ又九十條ニ引續キ鑛業ヲ爲サントスルモノハ借區滿期以前ニ此條例ニ依リ出願スヘシトアルヲ以テ借區許可ニ對シ滿期ノ限月アルニモ拘ラス滿期ノ年ニ於テ一ケ年間ノ全額ヲ徵稅スルトキハ許可モ與ヘス鑛業ヲモ爲シ能ハサル數月間ノ稅金ヲ徵收スルコトニ相成又採掘特許ノ如キ無期有効ノモノト雖モ其初年ニ係ルモノハ他ノ諸稅ト違ヒ其特許ノ月ヨリ同條例第七十五條第二項ニ於テ月割徵稅ノコトニ規定有之候次第ニ付右ノ精神ニヨリ借區滿期ノ分ハ前年十二月徵稅令書ヲ發スルノ際滿期限月マデノモ

ノ、ミ徵收シ許可ナキ月數ノ分ニ對シ徵稅致シ難キモノト被存候

○鑛業條例第二十五條見解ノ件

明治二十五年八月二日 地乙第一〇七號岡山縣照會

一 試掘區域又ハ採掘鑛區内ニ鐵道其他ノ物件ヲ包含スルトキハ總テ最初出願ノ際ニ於テ所轄官廳若クハ所有者ノ承諾ヲ得ヘキ筋ニ候ヤ又ハ其際ニ在テハ地表地下トモ該物件ノ周圍三十間以内ニ於テハ試掘若クハ採掘ヲ爲サ、ル目的ナルトキハ豫メ承諾ヲ得ルヲ要セス而シテ許可ノ後目的ヲ變シ三十間以内ニ於テ事業ヲナスヘキ必要ヲ生シタル場合ハ其際ニ至リ承諾ヲ得ヘキ筋ニ候ヤ

一 鑛業條例施行以前許可ノ試掘借區ニ對シテハ右第廿五條ヲ適用スヘキ限リニ無之ト存候ヘトモ實際危險ノ虞アリト思料スルトキハ其事業ヲ差拒ミ不苦候哉

(鑛山局長)回答 明治二十五年八月十二日 鑛第二三〇一二號

鑛業條例第廿五條疑義ノ件本月二日付地乙第一〇七號御問合ノ旨了承右第一項ハ後段御見解ノ通り第二項ノ場合モ亦條例第二十五條ヲ適用スル義ト御承知相成度

○鑛業條例施行後ノ褐炭泥炭取扱ニ關スル件

明治二十五年九月二十三日 靜岡縣伺

第一項 目下褐炭及泥炭試掘若クハ採掘出願ノ旨届出ノ者有之右ハ鑛業條例第二條石炭ノ部類ト認メ取扱可然哉

第二項 若シ前項褐炭及泥炭ハ石炭部類ニ包含セストセハ曩ニ日本坑法ニ依リ許可ニ係ル該鑛試

掘借區又ハ同法ニ依リ本年六月一日以前出願セシモ未タ許可ナキモノハ鑛業條例施行ト共ニ總テ無効ニ屬シ候義ト心得可然ヤ

(大臣) 指令 明治二十五年十月十二日
往第一三五九〇號

第一項 褐炭ハ石炭中ニ包含シ泥炭ハ包含セス

第二項 石炭中ニ包含セサルモノハ伺ノ通

右ニ付(鑛山局長) 照會 明治二十五年十月十二日
第一三五九〇號

貴縣下鑛業人ニ於テ褐炭ト稱スルハ其實岩木ナルヤモ離計候條果シテ岩木ニ候ハバ石炭中ニ包含不致候間右等ハ現品ニ就キ御判別相成度
追テ岩木トハ刀又ハ鉋等ヲ以テ施工シ得ルモノニ有之候

○採取ト試掘又ハ探掘ト重複出願ニ關シ取扱手續ノ件

明治廿五年十一月七日

札甲第二六一號札幌鑛山監督署伺

他人ノ砂鑛採取許可地ニ於テ試掘若クハ探掘ヲ出願スルモノ有之右ハ一地重複ニ涉リ實際ノ事業上採取ト探掘ノ分界畫然判別スル能ハサル虞アルニモ拘ラス試掘ヲ認可シ又ハ探掘ヲ特許セラレヘキ義ニ候哉

(大臣) 指令 明治二十五年十一月廿八日

伺之通

○鑛業條例實施前試掘ニ依リ採取シタル鑛物販賣ノ件

明治二十五年十一月七日

札幌鑛山監督署伺

試掘ニ依リ採取シタル鑛物ヲ販賣スルトキハ鑛業條例第十一條ニ依リ認許料ヲ徵收スヘキ制規ニ有之候處本年六月以前ノ試掘ニ依リ採取シタル鑛物ヲ六月以後ニ販賣スルトキモ亦認許料ヲ徵收スヘキ義ト相心得候得共若シ六月以前ニ於テ試掘ニ依リ得タル鑛物ヲ販賣スルニハ認許料ヲ徵收シ其借區ニ依リ得タル鑛物ハ却テ外觀上ニ於テ稅ヲ免カル、如キ場合ヲ生シ彼此不權衡ト被考候ニ付テハ右ハ如何相心得可然哉

(大臣) 指令 明治二十五年十一月二十一日

鑛物販賣ノ件ハ鑛業條例實施以前ニ借區ノ許可ヲ得タルモノハ全第十條ニ依ルノ限ニ非ス

○鑛物販賣認許料未納者處分方ノ件

明治二十六年一月十六日

大乾第四三號大坂鑛山監督署照會

歳入金之内鑛物販賣認許料徵收金未納ノ者有之場合ニ於テハ鑛業條例第二章第十一條中國稅滯納處分法ニ準據云々ト有之ニ付テハ該施行手續國稅滯納處分法第十一條但書ノ旨趣ヲ適用シ單ニ當收入官吏ヨリ其所屬長官ヲ經テ其地收入官吏ノ囑托ノ手續ヲナシ可然哉

(鑛山局長) 回答 明治二十六年一月二十四日
第二三一號

鑛物販賣認許料未納者處分ハ鑛山監督署管轄地内ノ者ニ對シテハ其監督署收入官吏ニ於テ執行スヘキ筈ニ付若シ管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルハ該法第十一條ニ依リ收入官吏ハ其處分ヲ爲スヘキ地ノ管轄鑛山監督署收入官吏ニ囑托スル義ト承知相成度

○治水上重大ノ關係アル事件處分方ノ件 (京都、大阪、滋賀、三重、奈良、長野、愛知、岐阜縣)

明治二十六年二月八日
鑛發第六號鑛山局長照會

試掘及掘探ノ事業公益ニ害アル場合ハ鑛業條例施行細則第七條ニ依リ意見書御差出可相成筈ノ處貴縣下何川流域地ノ義ハ治水上重大ノ關係有之候ニ付直接ニ土木監督署へ協議ノ上處分候事ニ相成候間該地方ニ於ケル出願ニ對シテハ治水ニ關スル事柄ニ限リ上申并ニ御通知ニ及ハス

○採掘權相續出願者アルトキ取計方ノ件

明治二十六年三月二十五日

札甲第一七四號札幌鑛山監督署照會

採掘權相續シタル者ノ鑛業特許證訂正ノ義ニ付客年九月九日鑛發第三五七號ヲ以テ御照會ノ次第モ有之候處砂鑛採取權ヲ相續出願スルモノアルハ採掘權相續ノ例ニ倣ヒ取計ヒ可然哉或ハ貴省ニ進達スヘキモノニ候哉

(鑛山局長) 回答 明治二十六年四月七日
砂鑛採取業相續届出ノ向ハ試掘及採掘ノ異動ト共ニ報告相成度

○鑛業條例施行細則第七條ニ依リ出願地ノ郡市町村大字小字名

ヲ土地臺帳若クハ其他ノ公簿ニ照シ通知若クハ上申ニ關スル

件(地方長官) 明治二十六年五月十九日

今般農商務省令第十號ヲ以テ鑛業條例施行細則一部改正相成候旨ハ頃者鑛物ノ試掘採掘ヲ出願

スルモノ徒ラニ願書提出ノ先後ヲ爭ヒ實地調査ヲナサ、ルカ爲メ小字大字村名等ヲ誤記シ或ハ過剩遺脱スル等不都合ナルモノ少カラス之カ爲ニ重複ノ有無ヲ調査スルニ困難ヲ來シ實地臨檢ヲナスモ願地ノ境界ヲ知ルニ由ナク甚シキニ至リテハ願地ノ所在ヲ認知スルコト能ハサルモノアリテ處分上差支ヲ生シ事務ノ澁滞ヲ免レサルノミナラス正當ナル出願人ノ利益ヲ害シ從テ一般鑛業ノ發達ヲ妨クルノ恐アルニ付今後ハ地方長官ヲシテ願書圖面ヲ提出アル毎ニ之ヲ土地臺帳其他ノ公簿ニ照シ書類上一應ノ調査ヲ遂ケシメ不都合ト認ムヘキモノハ一切其出願ヲ無効タラシムル儀ニ有之從テ願人ヨリ願書圖面ヲ本省ニ提出スル毎ニ地方長官ニ届出テシムルハ甚タ必要ナルヲ以テ之ヲ怠ルモノニハ其制裁トシテ是亦出願ヲ無効タラシムルコト、相成候尤モ右届出ノ有無ハ無効處分ヲナス前所轄鑛山監督署長ヨリ一應地方廳ニ問合セヲナスヘキ筈ナリ次ニ改正省令ニ土地臺帳若クハ其他ノ公簿云々トアリ右ハ有租地ハ土地臺帳ニ照合スルヲ要シ其他ノ土地ニシテ登錄ノ法規ナキ分ハ町村島浦役場郡市役所等ニ備付アル帳簿ニ據ル儀ニシテ苟モ公稱村字名ヲ證明スルニ足ルヘキモノナレハ何等ノ公簿ニ據ルモ差支無之ニ付其主意ヲ以テ夫々御處理相成候様致度

○借區權差押並ニ加名ノ件

明治二十六年六月二十日
秋發第二五五號秋田鑛山監督署伺

一裁判所ヨリ借區權差押ノ爲メ證券書換方差留ノ照會有之候處借區券賣讓與ハ直ニ許可相成ル可キモノニ無之先ツ借區人ヨリ借區ヲ採掘特許ニ願換ノ手續ヲナシ然後契約者連署ニテ特許證ノ書換ヲ出願ス可キモノニシテ且ツ右出願ニ對シ農商務大臣ハ自由ナル意見ニ依リ之ヲ許否スルヲ得テ裁判所ノ爲メニ特許證書換ノ強制執行ヲ受ケサルモノナレハ差押ニ對シテモ之ト同ク借區權利者ハ常ニ許可ヲ得テ他ニ賣讓與スルヲ得ルモノニテ差押ノ照會ニ應スルニ及ハサ

ルモノト心得可然哉將タ借區權ト雖モ一ノ財產權ナレハ債權ニ對スル一般ノ擔保トシ法律上有効ニ差押ヘラルヘキモノニシテ從テ裁判所ノ照會ニ應スヘキモノト心得可然哉

二裁判所ノ判決ヲ添ヘテ借區加名出願ノ者有之候處是亦賣買讓與ト同シク前項同様ノ手續ヲ要スルモノニテ且加名ノ許可ヲ得サルモノハ法律上該借區權ニ關係ナキモノナレハ未タ加名ノ許可ヲ得サル以前ニ借區ヲ採掘特許ニ願換ヘ又ハ借區權利者ノ連署ナクシテ加名出願スルモノハ假令裁判所ノ判決ヲ添ユルト雖モ許可相成ルヘキモノニ無之義ト心得可然哉將タ裁判所ノ認定ニ依リテ加名ノ權利アリトセラレタル者ハ假令加名ノ許可ヲ得サル者ト雖モ借區ヲ採掘特許ニ願換ヘ又ハ特許證書等ヲ加名者ノミニテ出願シ得ヘキモノト心得可然哉

(鑛山局長)通牒明治二十六年七月二十一日大臣決判

六月二十日秋發第二五五號ヲ以テ借區權差押並ニ加名ノ件ニ付御伺出相成候處差押又ハ裁判言渡ノ爲メ本省大臣ノ鑛業許否權ヲ拘束セラレサルハ勿論ニ候併シ借區權ト雖モ一ノ物權ニシテ法律上差押フ可カラサル物件中ノモノニアラサルヲ以テ差押フルヲ得キニ付特殊ノ事情ナキ場合ハ右差押參考トシテ他ニ賣買讓與ノ出願アルモ其處分ヲ見合セ置ク方穩當ニ有之第二項現行法ニ在テハ借區ハ其本人ニ限リ鑛業ヲ爲スヲ得セシムル耳ニシテ賣買讓與ヲ許サレサルニ付單ニ借區加名ヲ出願スルニ於テハ假令雙方連署アルモ許可セラレサルカ故ニ借區權ノ移轉ヲ欲セハ必ス採掘特許ニ書換ヲ併セテ出願セサル可カラス此場合ニ於ケル採掘特許願ハ法律改正ノ結果トシテ借區權移轉手續中ノ一要件ナレハ同時ニ出願スルヲ得ルハ當然ニシテ且一ノ確定裁判言渡書ヲ以テ借區ヲ採掘許可ニ書換及採掘加名ノ兩願ニ敗訴者ノ連印ニ代ヘ之ヲ以テ完備セル願書ト認メ處分スルモ何等妨ケ無之但右言渡書ニハ執達吏ノ作リタル連署拒絕ノ調書ヲ添付スルヲ要シ候大臣命ニ依リ此段及通牒候也

砂鑛採取

○砂鑛採取法明治二十六年三月四日
法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛採取法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂鑛採取法

第一條 此ノ法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ

第二條 砂鑛ヲ採取セント欲スル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

採取人未成年、瘋癲、白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

第四條 掘取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人ハ自ら採取ヲ出願スルトキハ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但シ承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得

第五條 採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セス

第六條 採取ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スルコトヲ得

第七條 採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ採取人ニ其豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セムトスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商

務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

採取業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ停止ヲ解クヘシ

第八條 採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ採取ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ許可ヲ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

第十一條 第六條第八條第九條及第十條ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十二條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年間採取ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一 洗鑛ノ爲

一 製鍊所建設ノ爲

一 洗滌用水路及溜池開設ノ爲

第十四條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルキハ採取人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十五條 採取人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ヲ取戻スコトヲ得

第十六條 第十三條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルトキハ其ノ土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十八條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地貸渡、採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ採取料、借地料、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第十九條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第二十一條 許可ヲ得シテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十二條 此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ引續キ其業ヲ爲スヲ得
第二十三條 砂鑛採取ノ警察其ノ他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此ノ法律ノ施行細則ハ農商務
大臣之ヲ定ム

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

○砂鑛採取法施行細則 明治二十六年三月二十三日
省令第八號

砂鑛採取法施行細則左ノ通相定ム

第一條 砂鑛採取ノ願書ハ書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號雛形ニ依リ調製シタル採取區域ノ實測圖ヲ
添フヘシ

第二條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ
添フヘシ若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

土地所有者又ハ關係人砂鑛採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期
限ヲ定メテ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出ヲ命スヘシ若シ此期限内ニ願書ヲ差出サ
ルトキハ出願セサルモノト見做スヘシ

第三條 砂鑛採取ヲ出願シタルトキハ五日以内ニ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ採取地ノ地方長官ニ届出
ツヘシ

地方長官採取ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其
意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

第四條 砂鑛採取ニ關スル願書若クハ圖面不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ相當ノ期限ヲ定
メ之ヲ修正若クハ補充セシムヘシ

第五條 砂鑛採取ノ出願人所轄鑛山監督署ヨリ出願地臨檢ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日ニ
臨檢ニ立合フヘシ

第六條 砂鑛採取法第十條ニ依リ採取許可ノ取消ヲ請求スル者及同法第十八條ニ依リ所轄鑛山監
督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ
所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第七條 鑛山監督署長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ辨
明書ヲ差出サシムヘシ

第八條 採取人ハ毎年二月第二號雛形ニ從ヒ調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄鑛山監督署
ニ差出スヘシ

採取人廢業シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

第九條 採取業ヲ相續シタル者ハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ十五日以内ニ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ
届出ツヘシ

第十條 採取人廢業シタルトキハ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

前項届出ノ日ヲ以テ廢業ノ日ト見做ス

第十一條 鑛山監督署ニ差出スヘキ書類ハ鑛山監督署支署ノ管轄區域内ニ於テハ之ヲ支署ニ差出
スヘシ

第十二條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局消印ニ依リ差出ノ日時
ヲ定ムルモノトス

第十三條 砂鑛採取ニ關シ農商務省又ハ鑛山監督署ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス

一、本則第一條ニ依リ願書ニ實測圖ヲ添ヘサルトキ

二、本則第二條第一項ニ依リ願書ニ承諾書又ハ承諾ヲ得ル能ハサル旨ノ書面ヲ添ヘサルトキ

三、本則第四條ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ定メタル期限内ニ修正若クハ補充セサルトキ

四、正當ノ理由ナクシテ本則第五條ノ立合ヲ爲サ、ルキト

第十五條 本則第三條第一項又ハ第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 本則第九條ヲ犯シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十七條 砂鑛採取法實施以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ニシテ同法實施ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ總テ同法ニ依リ處分スヘシ

第十八條 明治十二年工部省第十四號布達明治十三年工部省第六號布達及明治二十五年農商務省

令第十二號ハ砂鑛採取法實施ノ日ヨリ廢止ス

書式(用紙美濃紙正副三通)

砂(金)(錫)(鐵)採取願書

何府縣國郡市町村大字何小字

右ノ場所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付採取致度候間許可相成度實測圖相添此段相願候也

官地又ハ民地

年月日

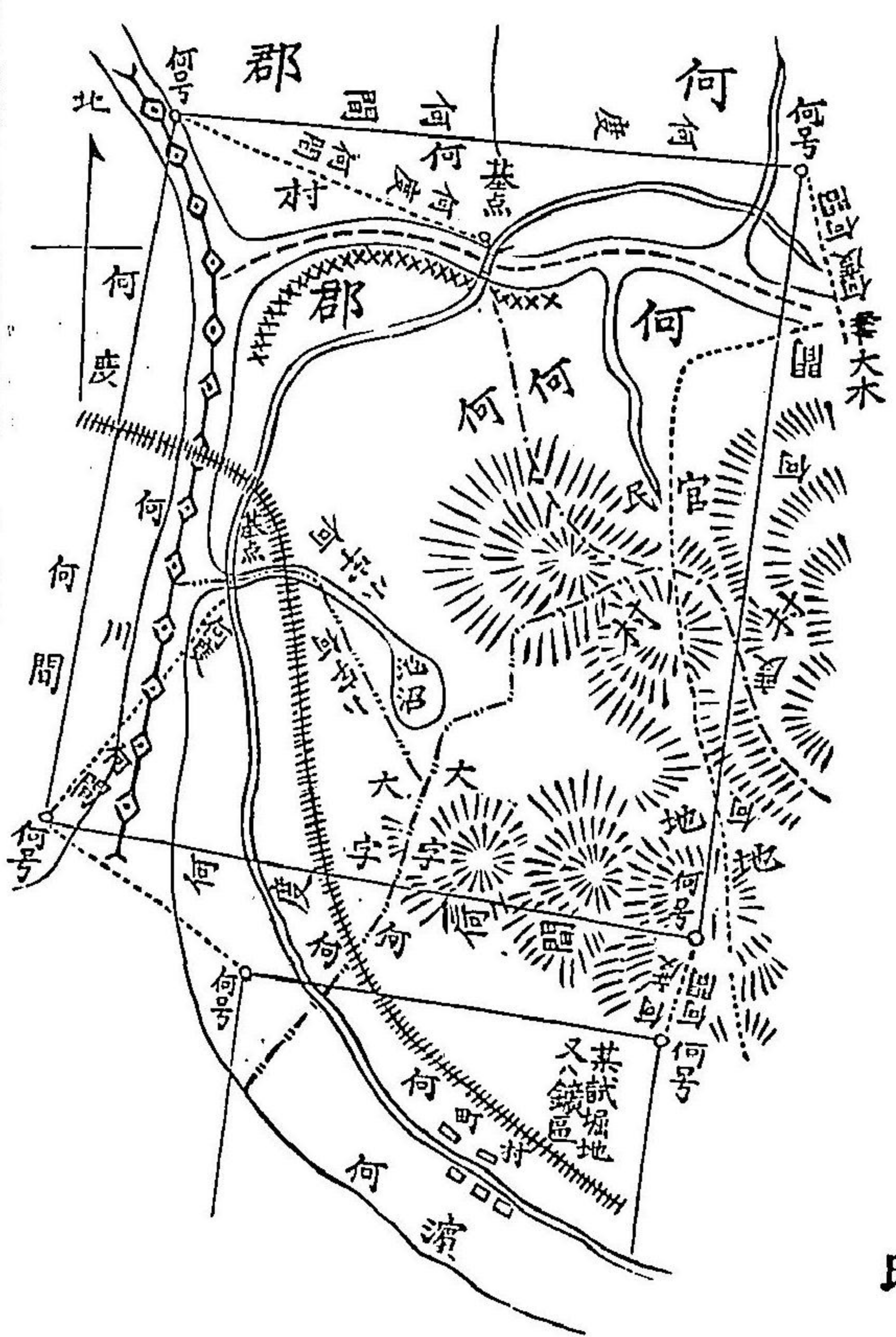
農商務大臣爵氏名宛

住所族籍

願人 氏名印
但組合人アラハ連署連印スヘシ

雛形(用紙美濃紙各三通) 第一號

砂何鑛採取地實測圖 尺度何分ノ一
何府縣國何郡市町村大字何小字何官地又ハ民地



住所族籍

氏名印

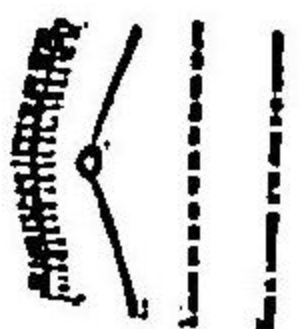
但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

測量者

氏名印

符 Y O O
號

國界 郡界 村界 大字界



小字界 官民地界 採取地境界線 鐵道



道路 堤防 鼠原野 家屋 淡青 田 山林 濃青 水

注意

- 一 基點ハ二箇以上ヲ設ケ家屋橋梁道路辻ノ如キ容易ニ動ス可カラサルモノタルヘシ若シ近傍基點トナスヘキモノナキ時ハ大ナル標木ヲ出願地ノ各隅ニ設クヘシ
- 二 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ採取地試掘地若クハ鑛區アラハ相互接近シタル隅角ノ方位間數ヲ測定シ圖上ニ掲クヘシ
- 三 圖面用紙ハ方三尺ヨリ大ナルモノヲ使用ス可ラス
- 四 採取地訂正ノトキハ原圖ヲ製シ増區ハ本式ニ依リ原圖ハ其區域ヲ無彩色ニスヘシ

第二號

(金)鐵砂年何治明

採取高	越	採取場位置	縣府廳	國	郡	村	大字	小字	許可	採取人	住所族籍
			號番						年月日		

表細明業行取採(錫)

事	記	人員數	工數	殘高	賣	販
					代價	數量

意注 數量ハ實テ單位トス 人員ハ其年十二月三十一日現在數ヲ記入スヘシ

○砂鑛採取願ニ對スル意見書回送方ノ件(地方長官へ)

明治二十六年六月十二日 鑛發第一九九號鑛山局長通牒

本年當省令第八號砂鑛採取法施行細則第三條第二項ニ依リ御差出相成候御意見書ハ所轄鑛山監督署へ回送相成度

廿六年七月十四日
明治二十六年七月十四日
號令第七十五號
發令以テ
止ス

○砂鑛爐稼若クハ割鐵鍛冶并ニ採取願書添付ノ圖面ニ關スル件

明治二十六年三月三十日
廣鑛發第一一四號
廣島鑛山監督署伺

一從前ハ砂鑛爐稼若クハ割鐵鍛冶等ノ營業者ハ縣知事ノ許可ヲ乞フノ成規ニ有之候處砂鑛採取法ニハ此等ノ規定無之ニ付此等營業者ハ同法ノ支配ヲ受ケス從テ製煉行業明細表ハ容年五月十三日訓令第十五號ニ準スヘキモノト心得可然哉

一從來ノ採取願書ニ添付ノ圖面ハ極メテ不完全ノモノニシテ其區域等モ明瞭ナラス將來不都合ヲ醸スノ虞モ有之様被存候就テハ既ニ許可ノモノニ對シテハ更ニ其區域ヲ明示シタル圖面差出方御示達相成候モノト心得可然哉

(大臣)指令 明治廿六年四月廿一日

明治二十六年三月三十日付伺砂鑛採取法ニ關スル件ハ第一項第二項トモ伺之通

○採取權相續ノ件 明治二十六年三月二十五日

札甲第一七四號
札幌鑛山監督署伺

採掘權相續シタル者ノ鑛業特許證訂正ノ義ニ付客年九月九日鑛發第三五七號ヲ以テ御照會ノ次第モ有之候處砂鑛採取權ヲ相續出願スルモノアルハ採掘權相續ノ例ニ倣ヒ取斗ヒ可然哉或ハ貴省ニ進達スヘキモノニ候哉何分ノ御回答相煩度

(鑛山局長)回答 明治廿六年四月七日

砂鑛採取業相續ノ義ニ付客月二十五日付札甲第一七四號御照會ノ旨了承右届出ノ向ハ試掘及採掘ノ異動ト共ニ御報告相成度

○砂鑛採取法第四條同施行細則第二條及第三條疑義ノ件

明治二十六年八月二十六日
八二七號
北海道廳照會

砂鑛採取法第四條採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ受クヘシト有之右他人ノ所有中ニハ所轄官廳モ包含致ス儀ニ有之候哉果シテ然ラハ全條第二項土地所有者又ハ關係人ハ自カラ採取ヲ出願スルトキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス云々又同法施行細則第二條第二項土地所有者又ハ關係人砂鑛採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以内ノ期限ヲ定メテ其土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出ヲ命スヘシ此期限内ニ願書ヲ差出サ、ルトキハ出願セサルモノト見做スヘシトアルヲ以テ官廳自身採取ヲナス場合ノ外承諾ヲ拒ムヲ得サル義ト相成然ルニ官廳ニ於テ採取ヲ營ム等ノ場合ハ多クアラサル義ニ付孰レモ承諾ヲ與ヘサルヲ得サル結果ト可相成而シテ同法施行細則第三條第二項ニ依レハ地方長官採取事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシトアルカ故ニ假令ハ出願ノ箇所公益上差支ノ箇所ナリトスルモ條例第四條第二項ニ依リ官廳自カラ採取ヲナサ、ルカ故ニ承諾書ヲ與へ後届出ニ對シテハ差支ノ旨ヲ上申セサルヲ得ス同一ノ箇所ニシテ前ニハ承諾ヲ與へ後ニハ支障ヲ認ムル奇怪ノ結果ヲ見ルニ至ルヘク廳官ニアリテハ承諾書願出ノ當時ニ於テ既ニ出願地ニ對シ公益上差支ヲ認ムルモ自カラ採取セサルカ爲メニ是ヲ拒ムニ由ナク最モ地積ノ承諾ト公益上ノ利害トハ其性質ヲ異ニスルト云フモ右ハ徒ニ無用ノ手數ハ重ネ何等ノ効力モ無之殊ニ鑛業條例第二十五條ニ於テハ所轄官廳ト所有者トヲ判然區別シアルヨリ考フルモ無論他人ノ所有中ニハ官地ハ包含セサルモノト認メ候共差掛リタル義有之候ニ付爲念及御照會候

特許

○特許條例 明治二十一年十二月十八日
勅令第八十四號
朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタルモノハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 飲食物嗜好物
- 二 醫藥並其調合法
- 三 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試験ノ爲公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタル者ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付

スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認めタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

- 一 新規又ハ有益ナラザリシコトヲ發見セラレタルモノ
 - 二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ
 - 三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシコトヲ發見セラレタルモノ
 - 四 發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ
- 第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局

長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得
再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官
其不服理由ヲ不常ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト牴觸シ又ハ他人ノ特許發明ト
牴觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其牴觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ
差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシ
メ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特
許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得
第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞着スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定
スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許
局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共
ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス
第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ

特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコ
トヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對
シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ
特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一 特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ

二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨ
リ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ效力ヲ全
クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變
更ヲ生スルモノハ此限ニアラス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシ
コトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審
査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得
第二十九條 特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ
第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ
 - 一 發明毎ニ金五圓
 - 一 發明毎ニ金三圓
 - 二 特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ
 - 一 發明毎ニ金壹圓
 - 三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ
 - 一 發明毎ニ金五圓
 - 四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ
 - 一 事件毎ニ金七圓
 - 五 審判ヲ請求スルトキ
 - 一 發明毎ニ金五圓
 - 一 發明毎ニ金三圓
- 第三十一條 特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ
- 一 五年ノ特許 金拾圓
 - 二 十年ノ特許 金拾五圓
 - 三 十五年ノ特許 金貳拾圓

第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓

以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ方テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知りテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要價ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例

ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノトス
專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

○特許條例施行細則明治二十五年十一月十八日
省令第十七號
明治二十二年一月農商務省令第一號特許條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

第一章 總則

- 第一條 凡ソ特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通ヲ作り之ニ差出ノ年月日及ヒ差出人ノ氏名身分職業及ヒ住所ヲ記載シ明細書及ヒ圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ
審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ニハ正本ノ外關係人又ハ對手人ノ員數ニ應ジ副本ヲ添フヘシ
- 第二條 書類ハ字體ヲ明瞭ニ認メ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除又ハ欄外ノ記入アルトキハ之ニ捺印スヘシ
文字ヲ削除スルトキハ字體ヲ存シ其數ヲ欄外ニ記載スヘシ
- 第三條 書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルトキ若クハ之ニ關シテ照會ヲ要スルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正改造若クハ回答ヲナサシムヘシ
- 第四條 差出人ニ於テ書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ其訂正若クハ改造ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ出願要部ニ變更ヲ生スルトキ又ハ特許局長(又ハ審判長)ニ於テ其必要ヲ認メサルトキハ之ヲ許可セス

第五條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其訂正書ヲ關係人又ハ對手人ニ送付スヘシ

第六條 已ムヲ得サル事故ノ爲メニ此細則ニ定メタル期限内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲シ難キトキハ其事由ヲ記載シ口頭審判ノ期日ニ係ルトキハ對手人ノ連署ヲ以テ期限内ニ延期請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ相當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ六十日以内ニ於テ更ニ期限ヲ定メ之ヲ差出人及ヒ關係人若クハ對手人ニ通知スヘシ

第七條 出願人此細則ニ定メタル期限又ハ特許局長(又ハ審判長)ノ定メタル期限内ニ成規若クハ指定ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其出願ヲ無効トス

審判請求書、始末書、延期請求書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ハ前項ノ期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第八條 審判請求書、始末書、牴觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニハ主張ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第九條 書類、圖面、雛形及ヒ見本ハ證據物トシテ差出シタルモノ、外其下戻ヲ求ムルコトヲ得ス
第十條 出願人、請求人、關係人又ハ對手人ニ於テ代人ヲ使用スルトキハ委任狀ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ

代人ヲ不適當ト認メタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ代人ヲ選定セシムルコトヲ得

第十一條 特許年限ノ變更ハ特許ヲ與ヘタル後ニ於テ之ヲ許サス

第十二條 特許ノ登録、改訂、取消、無效及ヒ削除其他特許ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章 許特出願

第十三條 許特願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第一號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスルトキハ特許願書ニ其旨ヲ附記シ、特許條例第八條ノ改良發明ニ係ルトキハ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添フヘシ

第十五條 特許願書ト同時ニ明細書又ハ圖面ヲ差出シ難キトキハ先ツ願書ノミヲ差出シ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

願書ニ後レテ明細書又ハ圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第十六條 特許願書及ヒ明細書、圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第十七條 特許願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントスル者ハ特許原簿登録以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登録ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章 明細書、圖面雛形及ヒ見本

第十八條 明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一 發明ノ名稱

發明ノ性質及ヒ目的ニ從ヒ其種類ヲ表示スルニ足ルヘキ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス

二 發明ノ性質及ヒ目的ノ要領

發明ノ構成作用及ヒ結果ヲ簡單ニ説明スルヲ要ス

三 圖面アルトキハ其畧解

圖面ノ位置、視點及ヒ符號ヲ以テ示シタル部分ヲ明記スルヲ要ス

四 發明ノ詳細ナル説明

普通ノ知能ヲ以テ發明ヲ實施スルニ妨ケナカシムル爲メ發明及ヒ其實施ニ必要ナル事項ヲ詳細ニ圖面アルトキハ之ニ對照シテ説明シ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス

五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ關係

原發明ト改良發明トノ區別、二者結合ノ要點及ヒ二者相須テ生スヘキ作用ヲ明確ニ記載スルヲ要ス

六 特許ノ請求區域

發明ヲ構成スルニ關クヘカラサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第十九條 明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

一 特許權利ノ範圍ヲ明示スル爲メ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スルトキ

二 特許權利ノ存スル所ヲ明確ナラシムル爲メ同一發明又ハ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ數様ニ記載スルトキ

第二十條 圖面ニハ發明ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ト改良發明トノ關係ヲ示スヘシ

第二十一條 雛形及ヒ見本ハ發明ニ必要ナル部分ノミニ付キ金屬又ハ木材等ヲ用ヒテ堅牢ニ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以内トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

但特許出願ノ發明、物質ニ係ルトキ又ハ特許局長ノ認可ヲ經若クハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第二十二條 特許證主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第二十三條 雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲナサ、ルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局長ハ辯償ノ責ニ任セス

第四章 審査

第二十四條 審査ハ左ニ記載スル願書ノ外發明ノ種類ニ依リ願書ノ順號ニ從テ之ニ著手スヘシ

一 特許條例第七條ニ該當スル特許願書

二 同條例第二十六條ノ改訂願書

三 同條例第二十七條ノ削除願書

第二十五條 左ニ記載スルモノハ新規有益ノ發明トナスコトヲ得ス

一 發明以前公ニ知ラレタルモノ

二 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ

但特許ニ依リ公ニ用ヒラレタルモノハ新規ナルコトヲ妨ケス

廿六年三月七日
日合令第二號
ニテ第三十條
中「第七項」ヲ
削除シ「第八
項」ヲ第七項
ト改ム

三 發明ノ目的ニ於テ新ナル好結果ヲ生シ得ヘカラサルモノ

第二十六條 左ニ記載スル出願ハ其發明、新規有益ナルモ特許ヲ與フヘカラサルモノトス

一 特許條例第二條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノト認ムル出願

二 特許條例第十條第三號又ハ第四號ノ事實アルモノト認ムル出願

第二十七條 改良發明トシテ特許ヲ與フルハ許特發明ノ請求區域ヲ利用シテ更ニ發明ヲ加ヘ同一目的ニ於テ好結果ヲ生スヘキモノニ限ル

第二十八條 審査上發明ノ雛形若クハ見本ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ之ヲ差出サシムヘシ

第二十九條 審査上發明ノ試験ヲ必要トスルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ出願人ヲシテ其試験ヲナサシムルコトヲ得

第三十條 特許ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 發明ノ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 特許請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
- 五 拒絕ノ理由

明細書ニ對照シ正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スヘシ若シ第十九條ニ依リ請求區域ヲ二項已上ニ分載シタルトキハ各項ニ付キ別々ニ其理由ヲ記載スルヲ要ス

再査定ニ係ル、キハ不服理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ敷衍辯明スルヲ要ス
六 査定主文

七 年月日

第三十一條 再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作り査定書ノ日附ヨリ三十日以内ニ差出スヘシ

- 一 願書ノ順號
- 二 發明ノ名稱
- 三 出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 不服ノ要旨
- 五 事實上ノ辯論
- 六 明細書ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ要ス
- 七 事實上主張ノ證明
- 八 出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 八 年月日

第三十二條 不服理由書中拒絕ノ理由ヲ反駁シ又ハ單ニ明細書ニ記載セサル事項ニ基キ不服ヲ申立ツルトキハ不服理由書ヲ差出サ、ルモノト見做スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十三條 不服理由書ニ對シ初査定書ニ示シタル理由ニ依ラス更ニ他ノ理由ニ依リ拒絕査定ヲナストキハ其査定ヲ以テ初査定トナシ前査定ヲ取消スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十四條 特許條例第十五條ニ依リ審判ヲ請求シタル場合ニ於テ拒絕ノ理由ヲ不當ナリトスル審決アリタルトキハ特許局長ハ更ニ審査ノ手續ヲナスヘシ

前項ニ依リ審査ヲナストキハ再ヒ同一ノ理由ヲ以テ其特許ヲ拒絕スル査定ヲナスコトヲ得ス

第五章 牴觸

第三十五條 發明ノ牴觸ハ左ノ區別ニ依リ特許ノ請求區域ニ同一ノ項目アルトキニ限り生スルモノトス

但第十九條ニ依リ明細書ニ分載セサル部分及ヒ第六十條ニ依リ權利ノ放棄ト見做スヘキ部分ニ付テハ牴觸ヲ生セス

- 一 二箇以上ノ特許出願ニ係ル發明
- 二 特許出願ニ係ル發明及ヒ特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明
- 三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明
- 四 改訂出願ニ係ル發明及ヒ特許發明

第三十六條 牴觸ノ審査ハ牴觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ著手スヘシ

牴觸ノ審査結了已前審査官ニ於テ牴觸事項ノ發明ニアラサルコトヲ發見シタルトキハ牴觸ノ審査ヲ中止ス

第三十七條 特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ニシテ單ニ第十九條ニ依リ分載セサル爲メ他ノ特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ト牴觸セサル場合ニ於テハ特許局長ハ出願人ニ其旨ヲ照會シテ明細書ヲ訂正スルト否トヲ回答セシムヘシ

第三十八條 牴觸ノ告知書ハ牴觸ノ部分ヲ明示シタル理由書ト共ニ之ヲ關係人ニ送付スヘシ
關係人前項ノ告知書及ヒ理由書ヲ受取リタルトキハ六十日以内ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ已前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ争フコトヲ得ス

第三十九條 關係人、始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ他ノ關係人ニ送付シ三十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

關係人、答辯書ヲ差出シタル後審査上關係人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尙ホ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十條 發明ノ抵觸ヲ解除シ、トスル者ハ抵觸ノ審査結了已前ニ其抵觸ニ係ル特許又ハ願書ノ取消若クハ發明ノ抵觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其抵觸ヲ解除シ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四十一條 始末書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 抵觸ノ番號
- 二 抵觸發明ノ名稱
- 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 事實上ノ陳述
 - 發明ヲ考案完成シタル事實、年月日及ヒ其發明ヲ圖面、雛形又ハ見本ニ作リタル事實年月日ヲ發確ニ記載スルヲ要ス
- 五 事實上主張ノ證明
- 六 差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 七 年月日

第四十二條 抵觸ニ關スル答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 抵觸ノ番號
- 二 抵觸發明ノ名稱

廿六年三月七日
特許法第四十三條
第七項
ヲ削除シ第七項
ハ項ニテ改ム

廿六年三月七日
特許法第四十四條
ニテ第四十四條
加中但書ヲ追

- 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 答辯ノ要旨
- 五 事實上ノ辯論
- 六 事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出テタル證據方法ニ對スル陳述
- 七 差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
- 八 年月日

第四十三條 抵觸ノ査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

- 一 抵觸ノ番號
- 二 抵觸發明ノ名稱
- 三 關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
- 四 關係人ノ陳述ノ要領
- 五 査定ノ理由
- 六 正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スルヲ要ス
- 七 査定主文
- 七 年月日

第六章 審判

第四十四條 審判ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ請求書ヲ作リ特許條例第三十條第五號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ再査定書又ハ抵觸査定書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス

廿六年三月七日
會令第二號ニ
テ第四十六條
中「但書」追加

- 一 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
 - 二 係争事件ノ表示
 - 三 請求ノ要旨
 - 四 事實上若クハ法律上ノ辯論
 - 五 事實上主張ノ證明
 - 六 請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
 - 七 年月日
- 第四十五條 審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ三十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ
- 對手人答辯書ヲ差出シタル後尙ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ
- 第四十六條 答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
- 但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス
- 一 審判ノ番號
 - 二 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
 - 三 係争事件ノ表示
 - 四 答辯ノ要旨
 - 五 事實上若クハ法律上ノ辯論
 - 六 事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出タル證據方法ニ對スル陳述
 - 七 請求人若クハ被請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印

八 年月日

- 第四十七條 審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サントスルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ
- 前項ノ申出アリタルトキハ審判長ハ其旨ヲ對手人ニ通知スヘシ
- 第四十八條 對手人答辯書ヲ差出シタル後審判ノ請求ヲ取消シタル者ハ審判入費ヲ負擔スヘシ
- 但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス
- 第四十九條 審判ハ書類及口頭ノ二種トス
- 第五十條 口頭審判ハ請求人及ヒ被請求人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲナス
- 第五十一條 口頭審判ヲナストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ請求人及ヒ被請求人ニ通知スヘシ
- 第五十二條 請求人若クハ被請求人成規又ハ指定ノ期限内ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ辯論終結ト見做シ又第五十一條ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘審判ヲ終結スルコトヲ得
- 第五十三條 審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ノ原本ヲ作り之ニ局印ヲ捺シ請求人及被請求人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ於テハ尙ホ之ヲ言渡スヘキモノトス
- 第五十四條 審決書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ
- 但特許局審査官ハ被請求人トシテ記載スルノ限ニアラス
- 一 審判ノ番號
 - 二 請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所

廿六年三月七日
日會令第二號
ニテ第五十四條
加中「但書」追加

三 請求人及ヒ被請求人ノ陳述ノ要領
四 審決ノ理由

明細書ニ對照シ査定書アルトキハ其査定書ニ對照シテ適切ニ且ツ明確ニ記載スルヲ要ス

五 審決主文

六 審判ヲナシタル審判官ノ官氏名

七 年月日

第七章 特許

第五十五條 特許條例第四條ニ依リ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大

臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ特許料納付用紙ヲ添ヘ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當

スル登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面各二通ヲ添ヘ通知書ノ日限ヨリ六十日以内ニ差出スヘ

シ

第五十六條 出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ其發明ヲ特許原簿ニ登

録シ同時ニ其旨ヲ出願人ニ通知シテ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ

前項特許料ノ納付、執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納

付シタルモノト見做スヘシ

第五十七條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者

ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ付キ協議ヲナサシムヘシ

前項ノ協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認メタル報酬ノ種類、數額、方法等ヲ

特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ又特許原簿ノ登録ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第五十八條 特許證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ特許原簿登録ノ日ヲ以テ其日附トナス

第五十九條 特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日

附及ヒ特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第六十條 特許證主第十九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ販賣シタルトキハ其

部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第六十一條 特許ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ特許證主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シ

タルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第八章 賣與、讓與、共有及ヒ書入

第六十二條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ受ケントスル者ハ第五

號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作り特許條例第三十條第二號ノ手数料金額ニ相當スル登記

印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登録シ契約書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シ

特許證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第六十三條 賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登録ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ

關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ特許證ニ裏書ノ上之ヲ特許證

主ニ返付スヘシ

第六十四條 共有ニ屬スル特許ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承

諾ヲ經ルニアラサレハ其登録ヲナサルヘシ

第九章 再下付願

第六十五條 特許條例第二十五條ニ依ル再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作り同條例第三十條第三號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六十六條 第六十五條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其理由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル特許證ヲ下付スヘシ

第十章 改訂及ヒ削除願

第六十七條 特許條例第二十六條ニ依ル特許證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ンモ
ノトス

- 一 特許權利ニ關係ナキ説明又ハ圖面ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキ
- 二 請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタルトキ

三 過テ自己ノ發明ニ係レル範圍ヲ超過シテ特許權利ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ

四 特許權利ノ範圍ヲ擴張スルコトナク一箇ノ特許證ヲ分離シテ數箇ノ特許證トナスコトヲ必要トスルトキ

第六十八條 改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書若クハ改訂圖面ヲ添へ現特許證及ヒ附屬ノ明細書、圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第五十五條及ヒ第五十六條ノ手續ニ依リ其旨ヲ特許原簿ニ附記シ改訂特許證ヲ送付スヘシ

第六十九條 改訂特許證ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第七十條 特許條例第二十七條ニ依ル明細書ノ削除願ハ第十九條ニ從ヒ分載シタル請求區域ノ項目ヲ刪滅シ特許權利ノ範圍ヲ一部放棄セントスル場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

第七十一條 削除願書ハ第十號書式ニ從ヒ之ヲ作り特許條例第三十條第四號ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ特許證ヲ添へ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ニ附記シ特許證ニ裏書ノ上之ヲ出願人ニ返付スヘシ

書式用紙美濃十三行
二十五字詰
第一號出願
出ルトキ

特許願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一何々發明ノ名稱
右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械、製造品、合成物)ニシテ何年何月何日私(私共)ノ完成シタル發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也
本籍(及現住所)
身分、職業

年月日

發明者 氏 名 印

二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

第二號 他人ノ特許發明ヲ改良
農商務大臣(爵)氏名殿

一何々ノ改良
原發明ノ名稱
特許願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有第何號特許證ノ何々原發明ノ名稱ノ發明ニ就キ私(私共)ニ於テ改良ヲ加ヘ何年何月何日完成シタルモノニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度特許證主ノ承諾書(特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付其事由書)ヲ添ヘ此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

發明者 氏

名 印

年 月 日

農商務大臣(爵)氏名殿

第三號 相續者ヨリ特許ヲ願出ルトキ

特許願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ何年何月何日亡何某ノ完成シタル發明ニ係リ私相續候處別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械、製造品、合成物)ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

發明者

亡何某相續者

身分、職業

特許願人 氏

名 印

年 月 日

農商務大臣(爵)氏名殿

第四號 特許證書式

第何號

特許證

本籍(及現住所)

身分、職業

氏

名

何々(發明ノ名稱)

本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ何年間特許ヲ與フルモノ也

年 月 日

農商務大臣(爵)氏

名 印

農商務大臣(爵)氏

名 印

第五號 特許ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ

特許賣與(讓與、共有又ハ書入)ノ登錄請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許ヲ別紙契約書之通賣與(讓與、共有又ハ書入)候間登録相成度契約書正副二通竝ニ特許證相添此段請求候也

本籍(及現住所)

身分、職業

特許證主 氏

名 印

年 月 日

本籍(及現住所)

農商務省特許局長氏名殿

身分、職業
買受(讓受共有)人氏 名印

第六號 書入中ノ特許ノ賣與、讓與、共有
又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキ
特許賣與(讓與、共有)又
ハ書入ノ登録請求書

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱
ヲ掲ケヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許ハ何年何月何日附ノ契約書ニ依リ何某(本籍ヲモ
記スヘシ)書入致置候處今般別紙契約
書ノ通賣與(讓與、共有)又ハ書入候間登録相成度契約書正副二通並ニ特許證相添 此段請求候
也

本籍(及現住所)

身分、職業

特許證主 氏

名印

本籍(及現在所)

身分、職業

買受(讓受共有)人氏

名印

年月日

農商務省特許局長氏名殿

第七號 特許證ノ再下付
ヲ願出ルトキ

特許證再下付願

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

農商務大臣(爵)氏名殿

身分、職業
特許證主 氏 名印

本籍(及現住所)

身分、職業

特許證主 氏

名印

年月日

第八號 特許證ノ改訂
ヲ願出ルトキ

特許證改訂願

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱
ヲ掲ケヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許證附屬ノ明細書(圖面)中何々事由ヲ記
スヘシノ爲メ特許ノ効力ヲ全クシ難キニ付別
紙之通改訂致度尤モ之カ爲メ發明ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間尤改訂特許證下付相成度別
紙改訂明細書(改訂尤訂圖面)並ニ現特許證及ヒ附屬明細書(圖面)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

身分、職業

特許證主 氏

名印

年月日

農商務大臣(爵)氏名殿